

* 0022763000 *

0022763-000

DC493-1

ソ聯新五ヶ年計画の全貌

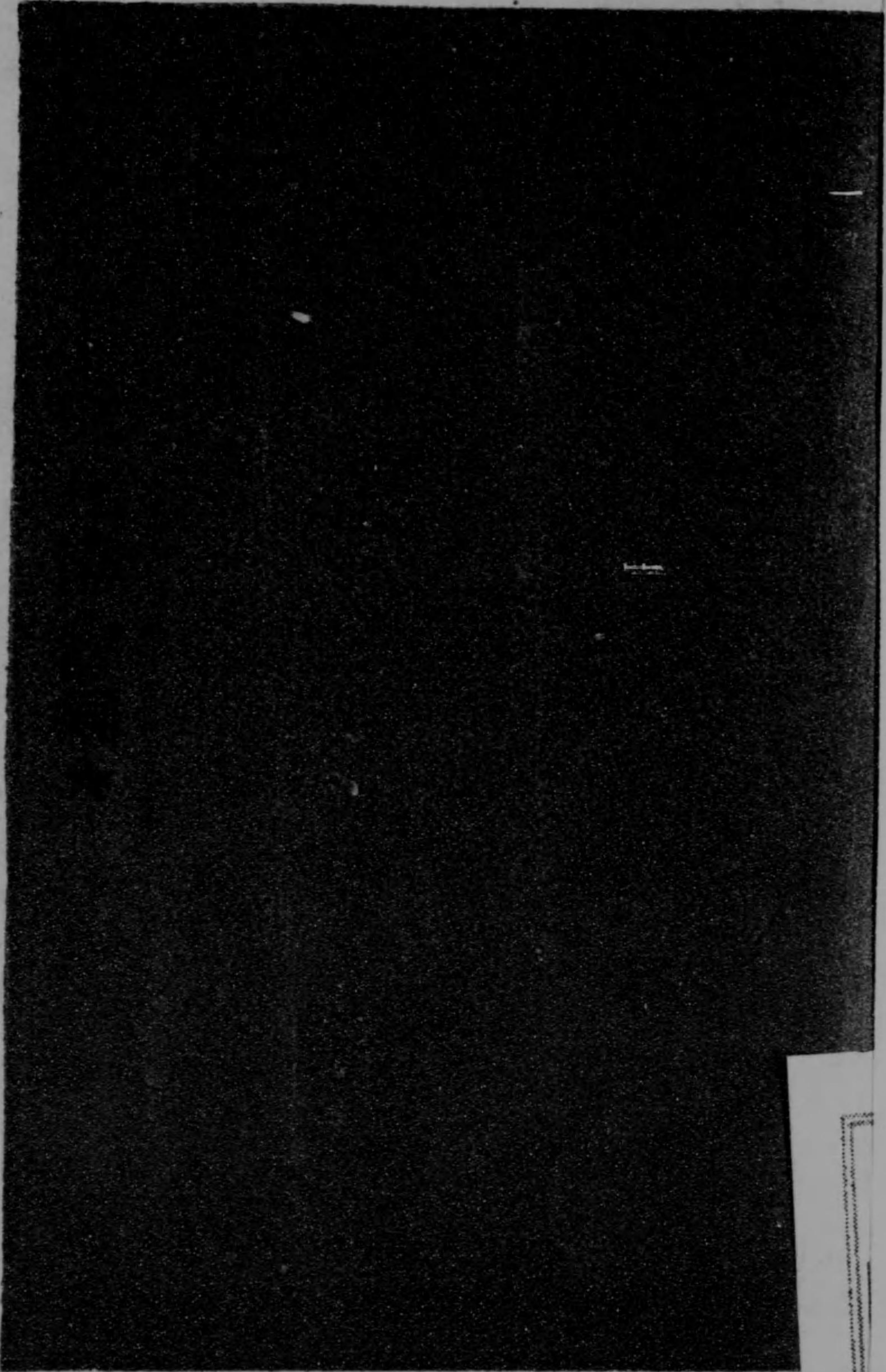
ソヴェエト文化協会

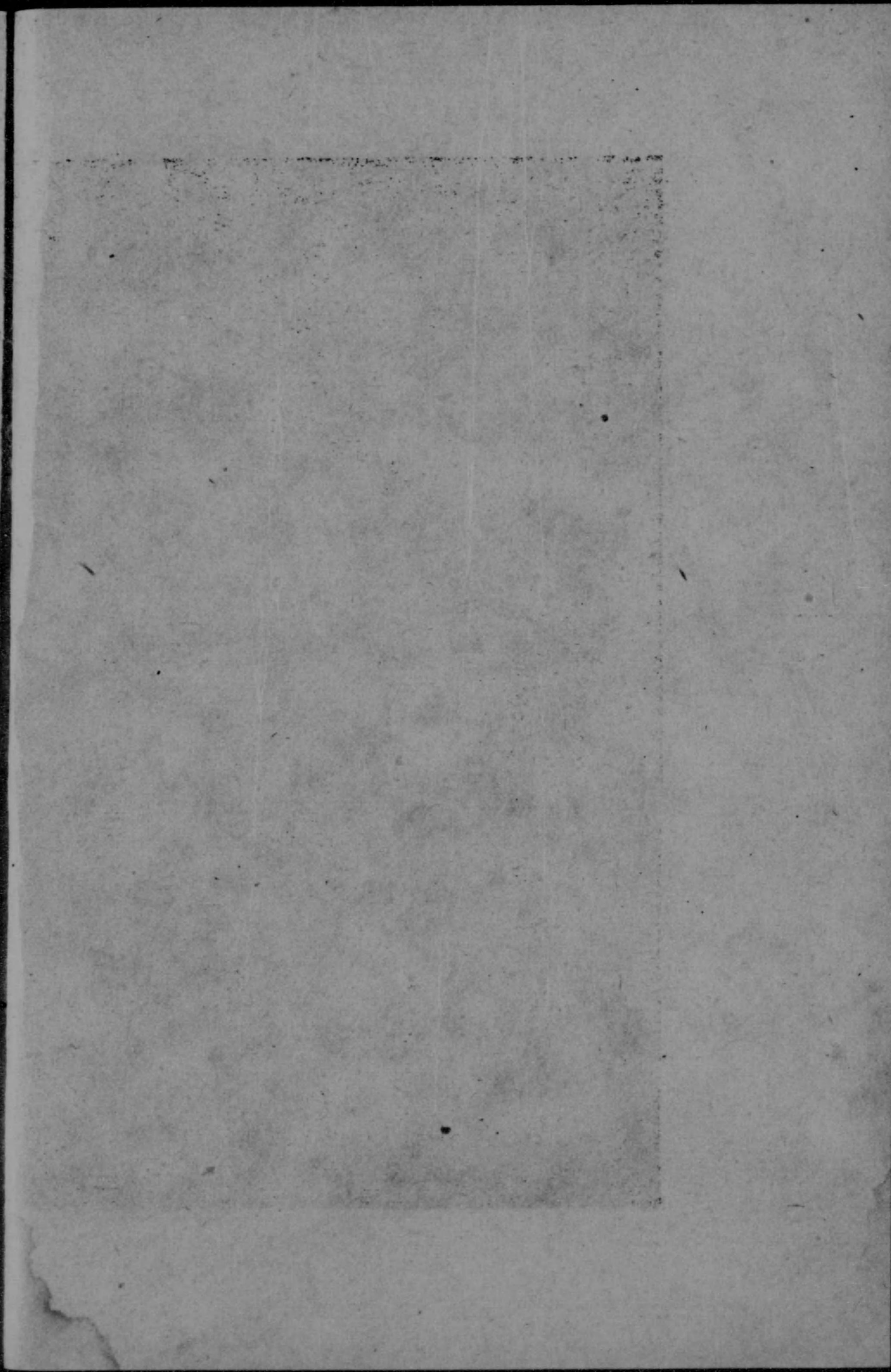
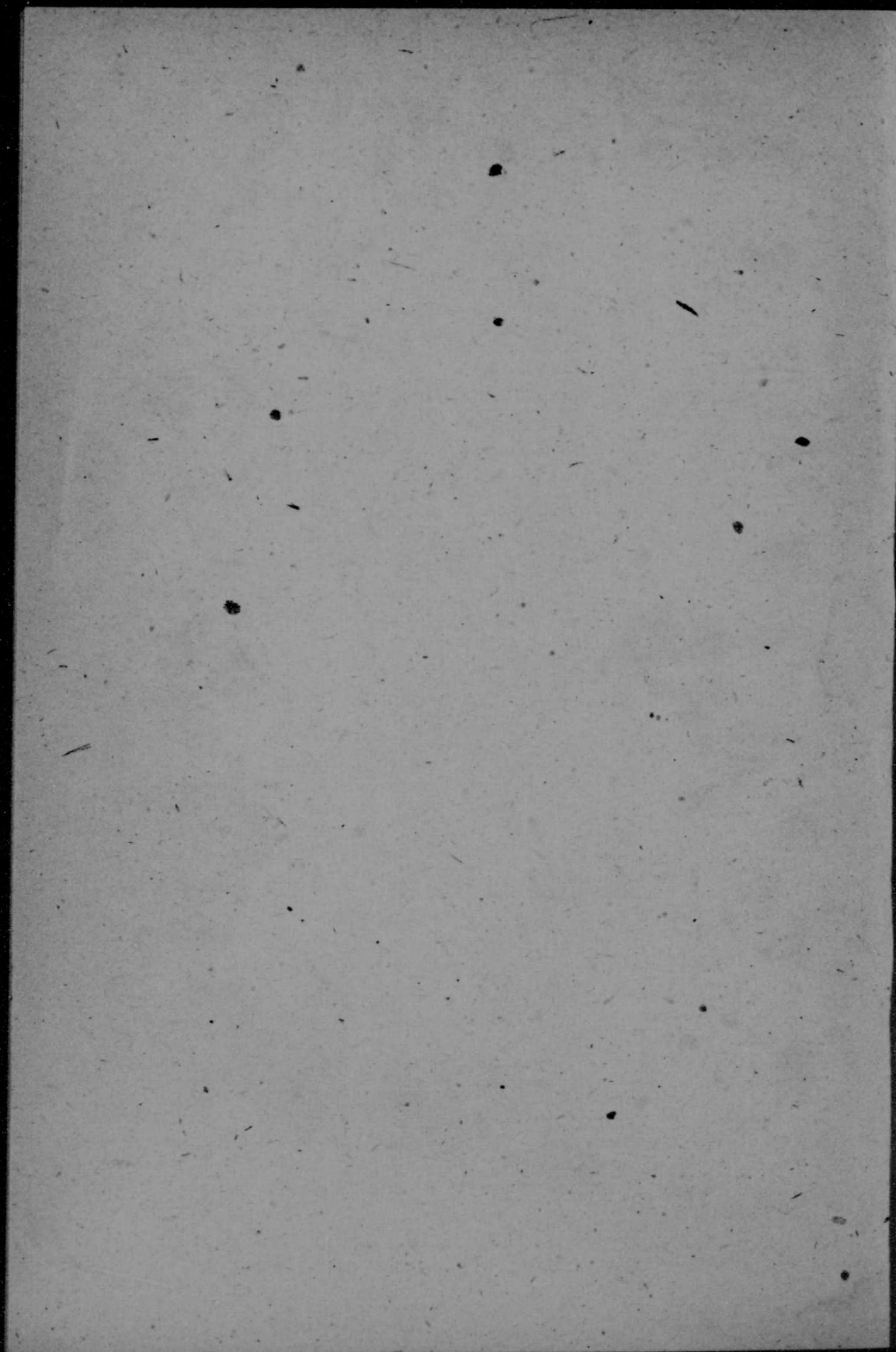
1946

ADC

池 9-22

ソ聯新五ヶ年計画の全貌







ソ聯新五ヶ年計畫の全貌

ソヴェエト文化協會編

DC493

1



823257

まへがき

本年二月十日に施行されたソ聯最高會議總選舉によつて選出された新代議員を召集しての本次大戦後最初の最高會議は三月十二日より開かれたが、十六日の聯邦・民族兩會議の合同會議に國家計畫委員會議長ウオズネンスキーは復興建設の新五ヶ年計畫案を上程、兩會議における審議檢討の結果、滿場一致で採擇され、十八日附で右計畫案は法令として公布されたのである。

目下、ソ聯より新聞雜誌類の入手不可能であるため、本書は全文ハバロフスクのソヴェエト放送（書取放送）により譯出したものである。聴取に當つて若干の聴取不能箇所もあつたが前後の關係より判斷し得る程度のものであつてさしたる影響はない。而もこの放送テキストに基いてソ聯新五ヶ年計畫の全貌を一日も早く紹介することの意義は日本再建に努力しつゝある吾々にとつて極めて重大なものがある。三月卅一日のソヴェエト放送によれば、本法令集五〇萬部が近く出版されるといはれるが吾國に於ける唯一の資料として御一讀を乞ふ次第である。

昭和廿一年四月十日

ソヴェエト文化協會編輯部

目次

まへがき

一、新五ヶ年計畫に關するウオズネセンスキー

國家計畫委員會議長の報告演說

二、國民經濟復興建設五ヶ年計畫の法令

新五ヶ年計畫の基本的課題

工業部門の生産増加並に大建設計畫

國民生活の物質的並に文化的水準の向上計畫

加盟各共和國の課題

五

四

四

五

五

100

一九四六—一九五〇年ソ聯邦國民經濟復興
並に發展五ヶ年計畫

ソ聯最高會議第一回會期に於けるソ聯
邦國家計畫委員會議長エヌ・ア・ウオズ
ネセンスキーの報告演説

代議員諸君！ ソ聯邦人民委員會議は一九四六年より一九五〇年に亘るソ聯邦國民經濟の復興並に發展五ヶ年計畫を諸君の審議に附する爲上程する。

一、ソ聯邦國民經濟の復興並に發展五ヶ年計畫の基本的課題

最も偉大なる全世界的・歴史的勝利——ヒトラー獨逸の潰滅と日本帝國主義の敗北の結果、ソ聯邦諸國民の平和的勤勞への轉換の可能性が達成された。ソ聯邦の全世界的・歴史的勝利は積極的防禦に對する國の總ゆる物質力を前以て準備したるが故にこそ達成され得たのである。我等が勝利の物質力は國の工業化と農業の集團化政策の一貫せる實施によつて造り出されたのである。祖國戰爭當時、是等の物質力は共產黨並にソヴィエト政府により充分に活用せられた。祖國戰爭はソヴィエト工業を遲滯なく軌道に乗せることを要求した。同志スターリンを首班とする國家國防委員會は全權力を結集して祖國戰爭の需要に國民經濟の一切の資源を動員せしめることを保障

した。

第一次世界戦争當時のロシアの軍事經濟に關する若干の資料と第二次世界戦争當時のソ聯邦の軍事經濟に關する資料とを比較することによつて如何にソヴィエト政府と共産黨が社會主義機構の可能性を利用したかが明白となる。

ロシアに於ける一九一五—一九一七の大規模工業の總生産高(不變價格)は三百三十億ルーブリであつたが、ソ聯邦(主要なる東部諸地方)に於ける一九四二—一九四四年のそれは三千六十億ルーブリであつて約十一倍の増加であり、同期間に於ける商品粒穀物の生産高は二倍半に増大し、またソ聯邦に於ける同期の鐵道運輸の貨物取扱量の年平均水準はロシアに於ける一九一五—一九一七年に比し三・四倍に増加した。

武器製造

ロシアに於ては第一次世界戦争當時、戰車及び飛行機は殆んど製造されなかつた。ソ聯邦に於ては祖國戦争の最後の三年間に自走戰車三萬、飛行機四萬を製造した。第一次世界戦争の最後の三年間に於けるロシアの砲の平均年産高は約三千九百門であつた。ソ聯邦に於ては祖國戦争の最後の三年間に毎年砲十二萬づゝを製造した、即ち三十倍餘の増加となつた。ロシアに於ける輕機關銃及び重機關銃の製造は第一次世界戦争の最後の三年間には年約八千九百挺であつたが、ソ聯邦に於ては祖國戦争の最後の三年間には毎年四十五萬挺の機關銃を製造した、即

ち五十倍餘の製造となつた。第一次世界戦争の最後の三年間に於けるロシアの小銃年製造高は百五萬挺であつたが、祖國戦争の最後の三年間に於ける小銃と自動銃の年製造高は五百萬挺、即ち五倍餘となつた。第一次世界戦争の最後の三年間に於けるロシアの迫撃砲の年製造高は約六千二百門であつたが、ソ聯邦に於ては祖國戦争の最後の三年間に毎年十萬、即ち十六倍餘の製造となつた。砲彈、爆彈及び地雷の第一次世界戦争の最後の三年間に於けるロシアの年製造高は約一千六百三十萬個であつたが、ソ聯邦に於ける一九四四年の製造高は二億四千萬個、即ち十五倍餘の増加となつた。

以上は工業及び農業の盛んなソ聯邦地域の大部分が一時占領下にあつたにも拘らず祖國戦争當時發揮された社會主義的生産に基く生産力發展の結果である。

ソ聯邦の軍事經濟史に於て軍需工業の大部分が東方に移動された時期があつた。幾萬の工作機械、ハンマー、壓搾機、タービンが移送された。又數千の労働者、技師及び機械工が移動した。

これはソ聯邦の生産力が東方に移された特異の時期であつた。當時敵は我等が聖なる首都—モスクワの城門近くに迫つてゐた。ソ聯邦は屢々危機を経験した。他の如何なる社會機構並に國家機構も、亦、他の如何なる軍隊と雖も斯の如き軍事的並に經濟的試煉には堪へ得なかつたであらう。それはソヴィエト國家、我が國民並に大スターリンを首班とする共産黨にのみ相應しき力試

しであつた。斯して戦争は全世界的・歴史的重要性を有する勝利をもつて終つた。再びソヴィエト國土は共產主義への勝利の道を前進することとなつた。

平和期への移行 第二次世界戦争の終結は平和期への移行を保障し、且つソ聯邦諸國民に對し新たな課題、即ち戦時經濟を平時經濟への軌道に切換へると言ふ課題を與へた。ソ聯邦は再び經濟的發展の平和期に入つたのである。

『現在ソヴィエト國民の前には既得の地盤を固め、新たな經濟的發展に向つて更に前進するといふ課題が與へられてゐる』(スクーリン)。

戦時經濟より平時經濟への移行は資本主義諸國に於ては資本主義特有の法則によつて行はれる。米國に於ては工業製品の最大生産水準に達したのは一九四三年十月であつた。其後米國に於ける工業生産高は一回もこの水準に達したことはなく、一九四五年の終り近くには三分の一以下に低下した。これは大體一九四一年の生産水準に匹敵する。米國に於ける生産水準の低下は失業者の増加を招來した。第二次世界戦争中、長期の不景氣を経験した英國に於て古い問題が再び蒸返されるに至つた。周知の如く、英國は原料並に食糧の輸入なくしては生存の不可能な國である。併し原料と食糧を輸入し、其の支拂を爲すには大いに輸出をすること、外貨を蓄はへること及び輸出の爲に安價な生産を行ひ得る工業能力を復活せしめることが必要である。

併し乍ら國際市場は第二次世界戦争の結果根柢から覆がへされ、遙に高度に發達せる生産力を有つ米國がこれを益々獲得しつゝある。

ソ聯邦は經濟的危機も、不景氣も、將又失業の憂ひもなく復興並に社會主義體制の今後の鞏化及び發展の道を斷乎前進し、國民經濟を逐次建直し、ソ聯邦に於て經濟的發展の法則力を有する國家諸計畫に基き國民經濟の復興及び發展のテンポを進めつゝある。

ソ聯邦は今後も諸外國との聯絡をソ聯邦の技術・經濟的獨立性を考慮に置くソヴィエト政府の老練な方針を維持しつゝ發展せしめるであらう。祖國戦争はソ聯邦の國際的重要性を高め且つ鞏化した。最大の勝利が獲得された。併し乍ら成功に慢心し、有頂天になる者は究局に於て失敗するであらう。従つて共產黨はソ聯邦諸國民に對し國民經濟の復興と今後の發展、國民經濟の新しい力強き興隆の爲の條件の創造とを考慮に入れつゝ新たな課題を與へたのである。

一九四六—一九五〇年期間の基本的經濟・政治プログラムは國內の戦災諸地方の復興、工業及び農業の戦前水準の取戻し、然る後この水準を著しき程度に凌駕することである。

新五ヶ年計畫の課題 以上により國民經濟の復興並に發展の五ヶ年計畫は次の諸課題を豫定してゐる。

第一に工業製品の生産高を戦前水準に比し約一倍半に増加し、ソ聯邦全國民經濟の急速且つ成

功的復興に不可欠な重工業並に鐵道運輸の第一次的復興と發展を保障することである。重工業の急速な復興なくして國の技術・經濟的獨立性を鞏化する事は不可能である。この事業を遅らせることは即ち祖國戰爭の當時軍事的、經濟的並に政治的勝利を我々に保障した凡ゆる物質的前提條件を喪ふことを意味する。一九四六年には國民經濟の戦後再建を完遂し、ソ聯邦經濟力の今後の擴張の爲、軍需工業の生産力を活用する必要がある。

第二にソ聯邦諸國民の物質的福祉の保障と國內に主要消費物資を潤澤ならしめるため農業と消費財生産手段の工業の興隆を計らねばならぬ。國民所得の戦前水準と國民需要の水準とを凌駕し最も近き將來に切符制を廢止し、それに代るに發展せる文化的ソヴィエト商業をもつてすることが必要である。一般消費物資の生産擴張、商品價格の逐次的引下による勤勞者の生産水準の向上に特に注意を向ける必要がある。これらの課題は必然的に通貨の流通とソヴィエト・ルーブリ貨の鞏化を要求する。

第三に生産の大なる昂揚と、勞働生産性の向上の條件としてソ聯邦國民經濟の全部門に互り一層の技術的進歩を保障することである。これが爲にはソ聯邦國外の科學の諸成果に追付くのみでなく最も近き將來にこれを追越さなければならぬ。國民經濟の凡ゆる部門の社會主義的再生産のテンポの促進は愈々以て技術的進歩と、それを國民の爲に利用することによつて決定されるであ

らう。資本主義諸國に於ける技術的進歩は社會の政治的及び經濟的組織と對立する。我々の任務はソヴィエト社會機構の優越性を利用して自國に於ける技術的進歩の急速且つ不斷の發展を保障することにあり。我が祖國の歴史は世界的價值を持つ發見を爲した幾多の科學と技術の革新者並に革命家を知つてゐる。優れたる物理學者にして現在も猶、科學の上に革命を續けつゝあり、且つ最新のラジオロケーション技術の基礎であるラジオの發明家ポポフを、最近まで原子力の祕密を發見せんとする學者に助力して來た化學の基本的法則——週期率の法則を發見した世界最大の化學者メンデレーエフを、現代航空力學と航空學の理論的基礎を築いた全世界に著名なる學者ジユコフスキーを、現代ロケット式技術を基礎にするロケット運動理論を樹立し、又外國に於ける同種の研究の出現に先んじた卓越せる學者にして發明家のツイオルコフスキーを挙げれば充分である。我國の學者に然るべき援助を與へることによりソヴィエト科學はソ聯邦國外の科學の最近の諸達成を凌駕することが出来るのである。

第四にソ聯邦國民經濟の復興及び發展の爲の集中投資の總額を五ヶ年間に三千五百億ルーブリ、又復興及び新企業の開始至二千三百四十億ルーブリを豫定して社會主義蓄積の高度促進を保障する。戦災諸地方に於ける國民經濟の復興と並んで五ヶ年計畫は一切のソ聯邦加盟共和國及びその經濟的諸地方國民經濟の一層の發展を豫期してゐる。ソ聯邦國民經濟の基本的豫備は大投資

事業計畫の遂行の結果雷に復興を見るばかりでなく、一九五〇年には、ソ聯邦全領域に於ける基本的豫備の戦前の増大水準を八パーセント超過して實に一兆一千三百億ルーブリ(國家價格)に増加するであらう。大投資建設計畫實現の爲には大建築工業を組織し、大投資事業の毎年の遂行量一二パーセントを確保することが必要である。

第五に我々の任務となつてゐるのはソ聯邦の國防力を更に昂揚し、ソ聯邦の兵備を最新の軍事技術をもつて充實せしめることである。ソヴィエト國民は自國を凡ゆる不測の場合から保證し、平和の監視に立つ爲に自國の兵備を更に強力偉大なものにして見たいと願つてゐる。

兵備強化 ソ聯邦の歴史的國境は東西共に復活せられた。今後東に於ては南樺太と千島列島はソ聯邦を切斷し、我が極東に對する日本の攻撃基地たる役目をしなくなり、太平洋にソ聯邦を直結し、我國を日本の侵略から防衛する基地となるであらう。今後自由及び民主主義ポーランド國家は我が西方國境に對するドイツの攻撃據點とはならずドイツ侵略を防衛する我國の同盟國となるのである。併しながら同志スターリンは我々に次の如く警戒して曰く『平和愛好諸國民は今直ちに侵略を豫防し得る特別の措置を講ずるにあらざれば、將來彼等は再び不意討的侵略を蒙るであらう』と。獨占的資本主義は新たなる侵略を産み出すに適してゐる。新たなる侵略を防止する爲には侵略國を徹底的に武装解除し、彼等を軍事的及び經濟的管理に従はしめ、國際平和及び

安全の目附役たる、而して平和を擁護し新たなる侵略に對抗し得る聯合國代表機關を持つことが必要である。ソ聯邦の兵備を強化し、近代式最新の技術をもつて充實し、ソヴィエト國家の軍事・經濟力を更に鞏化することに就ての撓まざる配慮が必要である。

今次五ヶ年計畫はソ聯邦國民經濟の復興及び發展を保障すると同時に、全聯邦共產黨第十八回大會に於て是認されたがヒトラー・ドイツの背信的なソ聯邦侵攻によつて中斷されてゐたソヴィエト社會發展の既定方針を再開するものである。この方針は階級なき社會建設の完成と社會主義より共產主義への漸進的移行を豫定する。それは又經濟的面に於て、即ち住民一人當りの工業生産量に於て主要資本主義諸國に追付き且つ追越すといふソ聯邦の基本的經濟課題の解決を豫定してゐる。

一九四六——一九五〇年のソ聯邦國民經濟の復興及び發展の五ヶ年計畫は斯る方針の下に更に一步を進めるものである。我々の旗幟はマルクス・エンゲルス・レニン・スターリンの科學的共產主義である。この旗の下に我々は共產主義への道を目指して新たなる勝利を獲得するであらう。(連續的拍手)。

ソ聯邦の新平和發展期の基本的なる經濟・政治諸課題に對應し、今次五ヶ年計畫は一九四六年より一九五〇年に至る物的生産の速度と水準を決定するものである。

二、生産及び資金建設發展計畫

工業

ソ聯邦國民經濟の復興並に發展五ヶ年計畫の最終年度たる一九五〇年に於けるソ聯邦全工業の總生産高は二千五十億ルーブリ（一九二六年——一九二七年價格）即ち戦前水準の四八パーセント引上げと決定せられ、この中には占領により慘禍を蒙つた諸地方に於ける工業製品の生産は戦前の水準を一五パーセント方凌駕するであらう。斯の如く大幅の生産増加を保障する爲に今次五ヶ年計畫は社會主義工業發展の急速な速度を規定してゐる。一九二一年……一九二六年の復興期に於ける次年生産増加は二十億四千九百萬ルーブリであり、第一次五ヶ年計畫に於けるそれは五十四億七千八百萬ルーブリであり、第二次五ヶ年計畫に於けるそれは百四億七千八百萬ルーブリであり、第三次五ヶ年計畫の三年間のそれは百四十三億一千六百萬ルーブリであつたのに對し、一九四六年より一九五〇年に亘る今次五ヶ年計畫に於ては製品の實際増加量を毎年百五十六億ルーブリに保障しなければならぬ。この場合生産手段の生産増加速度は必需品の生産増加速度を若干追越すこととなる。

黑色冶金部門

本部門の興隆はソ聯邦全國民經濟の復興を決定するものであり、銑鐵の生産を一千九百五十萬噸、鋼の生産を二千五百四十萬噸に増加し、以て黑色金屬の戦前生産水準を三五パーセントだけ凌駕することが豫定される。黑色冶金の復興及び一層の發展の爲五ヶ年間に熔鑪四十五基、マルチン爐及び製鋼用轉爐百八十基、電氣爐九〇基、壓延機百〇四基を操業せしめる。有色及び稀金屬の生産は祖國工業の力によつて國民經濟の需要を完全に充足せしめる程度にまで増加される。銅の生産は戦前の水準に比し一・六倍、アルミニウムは二倍、マグネシウムは二・七倍、ニッケルは一・九倍、鉛は二・六倍、亜鉛は二・五倍にそれぞれ増加する。

燃料工業部門

一九五〇年に於ける石炭の採掘高は二億五千萬噸、即ち戦前水準に比し五一パーセント増加する。石炭鑛業に於ては石炭の富化及び煉炭化といふ生産の新部門が殆んど新しく産れ、灰分七パーセント以上のコークス用石炭と、灰分一〇パーセント以上の動力用石炭が完全に富化され、その結果燃料輸送を節減し、燃料利用文化を向上させる。

石炭鑛業に於ける機械力應用は戦前水準に比し三倍乃至四倍の増加となる。出炭力一億八千三百萬噸の堅坑を稼行し、生産力一億八千四百萬噸の石炭富化工場二百七十七、煉炭年産一千萬噸の製造能力を有する煉炭工場二十六を操業せしめる。年九十萬噸の人造液體燃料の生産並に百十二億立方メートルの瓦斯製造工業の如き燃料・動力工業の新部門が創設及び發展せしめられる。

石油の採掘は三千五百四十萬噸まで増加されるが、これは戦前の水準を一四%凌駕することになる、且つ採油部門に於けるソ聯邦東部諸地方の比重は一九四〇年には一二パーセントの増加に當るが、一九五〇年には三六パーセントの増加に當る。

電化部門 一九五〇年度の電力生産増加を八百二十億キロワット時、即ち戦前水準を凌駕すること七〇パーセントと豫定してゐる。水力電氣部門に於ては電力の總生産量を一九四〇年の一〇・五パーセントから一九五〇年には一五・二パーセントまで増大せしめる、動力諸系統に於ては最良質の電力を國民經濟の爲不斷に供給し得るに足るだけの電力常備を設定する。この目的の爲に五ヶ年間に五ヶ年の發電所の出力を一千百七十萬キロワットとし、其の中三百三十萬キロワットは大小の水力發電所の出力とする。

機械製作部門 この部門には今後更に技術的進歩を確保するといふ重大な役割が與へられてゐる。即ち一九五〇年には機械及び施設の増産を戦前の水準に比し二倍にし、冶金工業の生産高を三・五倍、自動車工業の生産高を三・四倍、汽關車の製作を二・四倍、トラクターを三・六倍又電氣施設の生産を二・五倍にする。生産の技術的諸過程の管理及び運営の自動化保障並に試験及び學術的實驗操作を保障する爲に器具製作を極力發展せしめる。この場合光學機械及び電氣測定器の生産は一九五〇年に於ては一九四〇年に比較し七倍に増加される。

化學工業部門 一九五〇年の化學工業製品の生産高は戦前水準に比し一・五倍となり、礦物肥料の生産は一九五〇年に於て戦前水準を凌駕し、燐肥は二倍に、窒素肥料は一・八倍に、又加里肥料は一・三倍に増加する。合成ゴムの生産は二倍となり、加ふるに非食物原料より製造される生ゴムの割合は一九四〇年度の總生産高の一・一パーセントに對し三八パーセントにまで増加される。紙の製造高は一九五〇年には百三十四萬噸、即ち戦前の水準に比し六六パーセント増大する。

新五ヶ年計畫は木材及び建築材料工業の復興並に發展の急速なテンポを豫定してゐる。木材の搬出高は二億八千七百萬立方メートルとなつて居り、これは戦前水準に比し五九パーセントの増加を保障するものである。セメントの生産は一千五十萬噸、即ち戦前水準に比し一・八倍の増加である。又窓硝子の製造は八千萬平方メートル、即ち戦前水準に比較し同様一・八の増加となる。

工業の新部門たる住宅の工場生産が初めて行はれる。製材の機械化、木材搬出の機械化計畫が實現され、製材用電力、木材搬入用トロール・トラクター、鐵道本線や流送路への木材搬出用の機械化自動車輸送並に輕便鐵道の利用が鞏化される。

食料及び必需品生産部門

新五ヶ年計畫は年次生産増加率を一七パーセントと豫定してゐる

ばかりでなく戦前の水準を凌駕することに定めてゐる。綿織物の製造高は四十六億八千六百萬メートル、毛織物は一億五千九百萬メートル、絹織物は一億四千百萬メートルの増加を豫定してゐる。皮革製履物の製造高は二億四千萬足、又男女靴下は五億八千萬足の増加となり、これは戦前製造高水準を確實に凌駕する。人絹の大工業が創始されるが、その生産高は戦前水準に比し四・六倍に増加する。肉製品の生産高は百三十萬噸に増加し、動物性油のそれは二十七萬五千噸、又砂糖のそれは二百四十萬噸に増加し、是亦一九四〇年の生産水準を凌駕する。

工業に對する投資 工業生産増加の計畫に對應し、ソ聯邦の工業に對する投資總額を一千五百七十五億ルーブリと定めた。一九四六年より一九五〇の間に約五千九百の國營企業を復興し、建設し、操業に就かしめなければならぬ、而して此の中小規模企業を除く三千二百の企業は戦災諸地域にあるものである。

大修理並に新生産力の活動化を保障する爲に新五ヶ年計畫は建築工業の全面的鞏化並に發展と建築用機械の生産増加を豫定してゐる。建築・組立事業計畫は五ヶ年間に一千五百三十億ルーブリとなる。これが實現の爲には建築作業の廣汎な機械化、就中土木工事の六〇パーセント、碎石作業の九〇パーセント、コンクリート製造の九五パーセント、コンクリート塗りの六〇パーセント、ペンキ塗裝の五〇パーセントまでの機械化の保障を必要とする。

祖國戦争の當時、我が建築家は急速且つ經濟的に建築する方法を學んだ。併し乍ら現在では當時の操作速度を我々の爲に適用することは出来ない。更に經濟的に、更に切詰めた速度をもつて建築することが必要であるが、それには次のことが要請される。

第一に見積書によつて建築を爲し、見積書は註文主と請負人が相互に検討して經濟的に仕上げなければならぬ。

第二に建築に當つては所謂『大掛り主義』を導入し、餘計な技術的設計を清算する。

第三に建築諸機關は常に要員を確保し置き、又建築材料及び機械類を製造する專屬副企業を持たなければならぬ。

新五ヶ年計畫は多量の勞働力を要する過程の全面的機械化、殊に黑色冶金業、林業及び燃料工業の部門の全面的機械化と、一層生産的な施設を豫定する。これによつて生産を戦前水準にまで到達せしめ、且つ勞働生産性の戦前水準を凌駕せしめる。

ソ聯邦の全工業を通じての中心的課題は勞力の機械化であり、一層改善せる工學的諸過程の採用であり、生産の更に高度の電化と自動化である。

工業勞働生産性の増大 新五ヶ年計畫は一九四六年より一九五〇年の間に工業の勞働生産性を三六パーセント増大せしめることを豫定してゐる。これは勞働者の技術の獲得を約一・五倍増

進せしめることにより、仕事に熟練せしめる廣汎な計畫を實現することにより、又技師、技手の要員の増加と八時間労働制の完全な利用によつて達成せられる。

大なる國民經濟の課題は復興せらるべき諸企業の労働生産性を戦前の水準に取戻し、更にその増進を計ることである。生産の機械化、労働組織の改善並に労働者の素質の向上によつて戦災諸地方の復興企業は勤勞者を現に有する限り最近の期間に生産高を少くも一・五倍増大せしめることが可能である。これが我々の餘力であり、我々はそれを活用しなければならぬ。

國民經濟發展の技術的水準の引上げと努力機械化の基盤となるものは高度生産力を有する工作機械を充分備へたる且つ發達せる機械製作工業である。新五ヶ年計畫はソ聯邦の金屬截斷機の數を百三十萬臺に増加せしめることを豫定してゐる。即ちこれは一九四〇年に於けるアメリカ合衆國の同機の手持數を凌駕することになる。これにはソ聯邦の技術的、經濟的獨立性と國民經濟全部門にわたる一層の技術的進歩が多大の寄與を爲してゐる。

生産の廣汎な機械化と電化とならんで技術と生産の新分野を發展せしめる爲の活動を保障することが必要である。それには尨大なる數量の燃料の輸送に替るに導管による瓦斯、導線による電力供給の爲に固體燃料の瓦斯化と、その熱化學的利用であり、輕金屬、有色金屬、合金鋼及び金屬加工に於ける化學品の製造に電氣工學を應用することであり、人造ゴム、液體燃料及びプラス

チック・マツス、人造麻布、人造皮革、合成酒精等の合成物の生産であり、生産の各種工學的過程に、第一に冶金及び化學工業に酸素を利用することであり、高壓直流電流の長距離送電（この部門の中に學術・實驗操作の施行と此の課題の實現化の端緒が示唆されてゐる）であり、現代的器具、殊にラジオロケーションの部門に於ける器具と其の國民經濟の利用であり、ロケット技術の發展に關する仕事であり、新らしき速度と性能を創り出す新型發動機の採用であり、工業及び輸送用としての内原子力の研究に關する仕事である。

一層の技術的進歩を確保する爲に新實驗構成局と科學調査研究所を擴張新設し、學者、技術及び技手の學術並に發明の仕事を物質的に極力援助獎勵することが必要である。

農 業

農業部門に關し新五ヶ年計畫は農業及び畜産業をソ聯邦全國を通じ戦前の水準以上に引上る爲に復興と一層の發展の保障を豫定する。農業發展の爲に共營農場の公共的經營の鞏化、機械・トラクター配給所と國營農場の組織上、經營上の鞏化が保障される。一九三二年（第一次五ヶ年計畫）の農産物の總生産水準を一〇〇パーセントとすれば、一九三七年（第二次五ヶ年計畫）のそれは一五三パーセントであり、一九四二年（第三次五ヶ年計畫）のそれは一七七パーセントであり、

一九五〇年、即ち戦後五ヶ年計畫の最終年度に於けるそれは二二五パーセントとなるであらう

粒穀物 粒穀物に就ては新五ヶ年計畫の終りに至り總收穫量は一億二千七百萬石まで増加し一九二一年の水準を凌駕すること七パーセントとなり、國民への食糧供給を改善し、國內の必要とする穀物の貯蔵を確保する。

加工用農作物 甜菜の總收穫量は二千六百萬石にまで増加する、即ち戦前水準を越すこと二二パーセントとなり、棉花の收穫は三百十萬石にまで増加する、即ち戦前水準を凌駕すること二五パーセントとなる。麻の收穫は一九四〇年の水準を越すこと二二パーセントにする。又向日葵の收穫は三百七十萬石にまで増大する、即ち戦前水準を凌駕すること一一パーセントとなる。

新五ヶ年計畫は播種面積の擴張と共に正しき循環播種の復活と、循環播種に牧草播種と牧草混合播種の廣汎な利用を豫定する。

畜産部門 新五ヶ年計畫は牛、羊、山羊並に豚の戦前頭数を復活且つこれを凌駕し、五ヶ年間に馬の頭数を四六パーセント、牛のそれを三九パーセント、羊及び山羊のそれを七五パーセント、豚のそれを一九四五年に比し三倍に増加する。コルホーズに於ける牛の頭数は二千五百九十九萬頭、即ち一九四〇年の水準を越すこと二九パーセントに増加する。羊及び山羊は六千八百十萬頭、又豚の頭数は一千百十萬頭に増加する。

農業用機械 農業用機械の供給は五ヶ年間に一九二六年——一九二七年の不變價格にして四十五億ルーブリとなる。第二次五ヶ年計畫に於ける供給額は百九十億ルーブリで、同期間には農業用機械及びトラクターの生産が最高水準に達したのである。構造を改善した農業機械と加工用及び飼料用農作物並に粒穀物の生産機械化の爲の農業用機械の製造と畜産農場に於ける作業機械化の爲の機械の製造が組織される。

礦物性肥料 窒素、燐及び加里肥料の生産は五ヶ年間に第二次五ヶ年計畫の八百七十萬石に對し約千七百萬石となる。新五ヶ年計畫は礦物性肥料の需要を完全に充足し、加工用農作物及び其他の農作物、殊に野菜及び馬鈴薯用の肥料の躍進的增加を保障する。

灌漑並に農場の電化 新五ヶ年計畫は灌漑せらるべき耕地面積の増加を六十六萬六千ヘクタール、耕地面積を六十一萬六千ヘクタールと豫定してゐる。

農業生産の一段の機械化實施と共に、更に大規模なコルホーズ、機械・トラクター配給所並にソフホーズの電化事業の發展が見られるであらう。新五ヶ年計畫は農村に於て出力百萬キロワットの小規模水力の發電所の建設を豫定してゐる。これは機械・トラクター配給所とソフホーズのみでなく、數萬のコルホーズの電化を實現せしめるものである。

新五ヶ年計畫で豫定せる農業に於ける手持機械の復舊並に増加、礦物性肥料の供給増加又牧草

播種の良き發達はいづれも今次五ヶ年計畫に於ける農業の最重要課題である農産物の收穫率向上と總收穫高の著しき増大を保障するものである。

農業の復興並にその更に急速なる發展は平和時に於ても亦祖國戦争の時に於ても其の生活能力を發揮した社會主義體制を基礎にしてのみ可能なのである。農業の急速な復興と其の新なる昂揚を計るためには次のことが必要である――

第一に畜産農場の急速な復活、發展並に社會基金の増額。

第二に生産組織に於ける労働日並にコルホーズ收入配當の役割と重要性の昂揚。

第三には農産物の收穫を高める爲にコルホーズ員への手當を一般に増額し、家畜の頭數を増加し、其の生産性を引上げることである。又ソフホーズに家族持労働者を常に確保して置く、これには彼等に土地を分與し、自己所有の住宅と家畜の所有に就て國家補助を與へることである。以上と並んで必要なことはリトワニヤ、ラトヴィヤ、エストニヤ、モルダヴィヤの各加盟共和國とウクライナ及び白ロシア共和国の農家に對し、農業消費組合の鞏化、機械・トラクター配給所と農具貸貸所網の擴張、資金の貸出、農業機械と礦物性肥料の運搬及び販賣の鞏化によつて生産上の援助を與へることである。

運輸

物の生産及び建設事業の豫定計畫を保障する爲に、新五ヶ年計畫は鐵道、水運及び自動車運輸の貨物取扱量を一九三二年の二千百五十億噸、一九三七年の四千三百億噸、一九四〇年の四千八百三十億噸より一九五〇年には六千五百七十五億噸とし、即ち戦前水準を凌駕すること三十六パーセントに増加せしめることを豫定してゐる。

鐵道運輸其他 鐵道運輸部門に於て新五ヶ年計畫は平均一晝夜當りの荷物積取量を十一萬五千車輛、又貨物取扱量を五千三百二十億噸、即ち戦前水準より二八パーセント増大せしめることを豫定してゐる。

先づ南部、ウラル及びシベリヤの諸地方に於ける貨物の輸送に對する國民經濟の需要を保障する爲に新五ヶ年計畫は敵の占領下に入つた諸地方に於ける鐵道輸送の大復舊事業と新鐵道幹線の建設並に最重要線に於ける旅客輸送力の餘力を創造すること、冬季輸送を確保する爲に幾多の線に電氣機關車と内燃機關車の運轉を實施して鐵道運輸の技術的再裝備を行ふことを豫定してゐる。

これらの諸課題と共に新五ヶ年計畫は各種鐵道機關車の國産化によつて蒸氣機關車六千六百六十

五臺、電氣機關車五百五十五臺、内燃機關車八百六十五臺の増産と、貨車四十七萬二千輛（兩軸計算にて）の増産とを見越してゐる。鐵道運輸の汽關車の生産と納入は一九四六年より一九五〇年の五ヶ年間に第二次五ヶ年計畫の五千九百六十臺より七千五百八十五臺に増加し、又貨車の納入は第二次五ヶ年計畫の二十五萬五千臺から今次の戦後五ヶ年計畫期間に四十七萬二千臺に増加する。

戦災諸地方に於ける鐵道網の大復舊と並んで五ヶ年間の鐵道の新設は總延長七千二百二十軒となり、此中シベリヤには三千五百五十軒を新設する。復舊及び建設される新複線は延長一萬二千五百軒で、電化される鐵道は五千三百二十五軒で此の中にはクズバス——ウラル線が含まれてゐる。これらの鐵道建設及び復舊を保障する爲に新五ヶ年計畫はレール四百五十萬噸、枕木一億八千五百本を豫定してゐる。

鐵道運輸の輸送力強化新五ヶ年計畫遂行の最重要課題は車輛の往復運轉を一九四五年の九・五晝夜より一九五〇年の七晝夜に早めることである。是は鐵道輸送距離の短縮、非合理的輸送の排除、鐵道に於ける輪轉材料（車輛）の甚だしき滯留を清算することによつて達成される。貨物の一晝夜當り積取量を六千車輛に増加する可能性を豫定してゐる。

鐵道運輸の復興並に發展の爲、新五ヶ年計畫は投資額を四百一億ルーブリと見越してゐる。以

上の計畫はソ聯邦全國民經濟の復興及び發展に最も不可缺の條件をつくり出すためには是非其實現されなければならぬ。

一九五〇年に於ける河川運輸に就て新五ヶ年計畫は河川運輸貨物取扱量の増大を戦前期に比較して三八パーセント、又海上運輸の貨物取扱量の増大を二・二倍と豫定してゐる。北海航路を正常的本航路に爲さんとする事業は繼續中である。

新五ヶ年計畫は祖國造船業の急速な發展を豫定してゐる。一九五〇年の海洋船造船高は一九四〇年に比較して二倍餘、又河川航行船造船高は四倍と見越されてゐる。新五ヶ年計畫は強力なるソヴィエト船隊の建造と海港及び河川港の新建設を豫定してゐる。五ヶ年間に海洋及び河川船舶の増加は海洋船舶三百六十萬噸、河川船舶は三十萬馬力となる。

自動車運輸は益々發展を續けるであらう。國內の自動車數は戦前に比し二倍に増加する。軍事輸送及び航空輸送も急速な發展を見るに至るであらう。

三、國民生活の物質的並に文化水準向上計畫

戦勝國民に相應しき生活の物質的並に文化的條件の改善は新五ヶ年計畫の最重要な課題である。

國民所得増加、新五ヶ年計畫は國民所得の著しき向上を確保し、一九五〇年度の國民所得を一千七百七十億ルーブリ、即ち戦前水準に比し三八パーセント増加せしめる。

一九一三年の帝政ロシアの國民所得は二百十億ルーブリであつたが、第一次五ヶ年計畫に於ては四百五十億ルーブリまで増加し、第二次五ヶ年計畫には九百二十六億ルーブリに躍進し、第三次五ヶ年計畫では一九四〇年までに一千二百八十三億ルーブリに増加した。然るに一九五〇年には一千七百七十億ルーブリ（一九二六——一九二七年の不変價格）となるであらう。

軍事費の縮限によつて國民所得の中需要資金の占める割合は五ヶ年間に七三パーセントまで、蓄積資金の占める割合は二一パーセントまで増加し、又國家準備金は約六パーセントとなる。

労働者及び勤務員の増加

ソ聯邦國民經濟に於ける労働者及び勤務員の年平均増加實數は來る五ヶ年計畫期間に百二十五萬人となり、工業、建設及び運輸方面に熟練労働者を確保せしめる爲に新五ヶ年計畫は男女青年の労働豫備軍の養成のほか次のことを研究してゐる。

イ、労働者五百萬人を個人的訓練により生産的職業へ大量養成すること。

ロ、トラクター操縦手、合成式刈取機操縦者其他の農業熟練労働者二百三十萬人を養成すること。

ハ、直接生産に従事する熟練労働者を一千三百九十萬人に増加すること。

生産昂揚の爲國家労働豫備軍を編成し、これによつて五ヶ年間に四百五十萬人の青年労働者が國民經濟に導入される。新五ヶ年計畫期間に百九十萬人の高等及び専門中等學校卒業生を出し國民經濟に於ける技師、技手級の専門家を確保する。

新五ヶ年計畫實現の決定的問題は工業、運輸及び建設方面へ新しい労働力を吸収することである。労働力は動員手段によつて獲得出来るものと考へる經營者が未だ少なからず我國にはあるが、斯る經營者は戦後の労働力に當面する困難が偶發的なものでないこと、又これらの困難は新しい労働の方法へ移行することによつて克服出来ることを理解してゐないのである。

賃銀引上

一九五〇年に於ける労働者及び勤務員の賃銀基金は一九四〇年の一千六百二十億ルーブリに對し、二千五百二十億ルーブリにまで増大するであらう。國民經濟に於ける労働者及び勤務員の年平均賃銀は労働生産率の上昇と共に増加し、一九五〇年に於ては一九四〇年の水準を四八パーセント凌駕することにならう。

生産の決定的重要部門に労働力を導入し且つ労働者を常備する爲に、新五ヶ年計畫は労働者の賃銀を更に高め、又冶金、石炭礦業、石油礦業の如き重工業諸部門の技師、技手級職員、賃銀引上げをも考慮してゐる。これは單に労働者及び職員的能力によつて定めるのではなく労働條件の輕重によつて定めようとするソヴィエト政府の賃銀政策に従ふものである。

労働生産性を高める爲の賃銀引上と國家諸計畫を遂行する爲には労働者の賃銀支拂に現行出來高累進率制を改善し生産諸計畫の遂行に當り技師、技手級職員に與へる賞金の制度を改善して、賃銀としての賞金の割合を著しく高めることが必要である。

文化的所要への支出

都市及び農村労働者の文化的所要に對する支出は新五ヶ年計畫に據れば一九五〇年度に於て一千六十億ルーブリとなり、一九四〇年度の水準を抜くこと二・六倍となる。

専門家養成

祖國戦争と幾多のソ領地方が一時的に敵の占領下にあつた爲、正常な教育を受けることの出來なかつたそれらの男女青年層の教育が保障される。高等諸學校の學生の數は一九五〇年には六十七萬四千人となり、専門中等諸學校に於ける生徒數は百二十八萬人となる。

新五ヶ年計畫は冶金、燃料及び動力工業、農業及び鐵道運輸の爲、上級及び中級資格の専門家養成を豫定してゐる。又新技術方面の高級有資格専門家の養成を開始する計畫を樹立する。

兒童訓育所其他

兒童訓育所に於ける兒童の數は一九五〇年に於て二百二十六萬人となり、一九四〇年に比較し二倍の増加となる。祖國戦争により兩親を喪つた孤兒は國家負擔をもつて『兒童の家』に於て其の養育を完全に保障される。

病人用寢臺數は一九五〇年には一九四〇年の七十一萬臺に對し九十八萬五千臺に増加され、又

常設託兒所の收容場所數は一九四〇年の八十五萬九千に對し百二十五萬一千にまで増加される。

労働者、農民及び知識人の爲の『休息の家』と療養所は完全に復舊され、祖國戦争の傷病兵に對する醫療上の待遇が改善される。

一九五〇年に於ける映畫觀覽設備は一九四〇年の二萬八千設備から四萬六千七百設備にまで増加する。各地區の中心諸都市及び準都市には常設映畫設備を必ず設ける。農村に於ける常設映畫設備は著しく擴大される。都市及び農村に於ける劇場、俱樂部、大衆向圖書館網を完全に復舊する。テレビジョンと着色映畫は今後更に發達する。

住宅問題

新五ヶ年計畫は占領下にあつた地方の都市及び農村の被害住宅の復舊と、都市及び農村労働者の住宅條件の改善を保障する程度にソ聯邦全領域にわたる新住宅建設の實施を豫定してゐる。

五ヶ年間の住宅建設投資額は四百二十三億ルーブリで、都市及び労働者居住區に於ける住宅基資の中へ七千二百四十萬平方メートルを加へることになつてゐる。住宅の復舊及び増設の必須條件は住宅建設の全事業を工業的軌道に移行せしめることであつて、住宅の組立部分資材、結合資材及び構成資材の工場生産を組織し、都市或は町に於てそれら資材の組立を爲すことである。この目的の爲、新五ヶ年計畫は住宅の工場生産を豫定し、且つ一九五〇年には其の生産數量を四百

二十萬メートルと規定してゐる。これらの家屋は都市や町へ送られ、都市計畫に従つて家屋の組立と建築上の仕上げが行はれる。

都市及び農村の復舊には煉瓦、石灰、セメント、硝子、屋根葺材料、木材加工工場の復舊並に生産組織を開始することが必要である。工業、運輸、農業に常に一定数の労働者を確保する爲には國營企業の製造する個人住宅券を働者及び技師、技手の職員に國家の長期融資を受けしめて賣却することである。

新五ヶ年計畫は國家の貸附金によるコルホーズ及び農民の資金をもつて農村の住宅三百四十萬戸を復舊及び新築する、就中敵の占領下に入つた諸地方における農村住宅二百二十四萬戸を復舊し新築する。農民及び農村知識人に對し資金の貸附も行ひ、建築材料及び特種部分品を賣渡して彼等の住宅私有を促進せしめる。

物資の出廻り 一九五〇年の商品小賣販賣額及び消費組合取引のそれは一九四五年度の物價水準の低下を考慮しても二千七百九十億ルーブリまで増加する。これは一九四〇年度の商品賣買高（一九四〇年價格）に比し二八パーセント方増加するものである。

食料品の市場保有量は市場外保有量、主として軍需保有量の縮減により一九五〇年のそれは一九四〇年に比し二三パーセントの増加となる。

工業製品の市場保有量は一九五〇年に於ては一九四〇年の戦前水準に比し三六パーセント増加する。我國が未だ戦争中であり、民需用の商品を充分に生産することの出来なかつた一九四五年に比較し、市場保有量は一九五〇年に於て著しく増大する。これによつて基本的な食料及び工業品の値段を戦前水準に達せしめるばかりでなく、これを實質的に凌駕することになる。

新五ヶ年計畫は家庭用並に文化的必需品の小賣取引の普及を豫定してゐる。食料品、織物及び履物の市場保有量の増大と共に、自轉車、ラジオ受信機、家具、冷蔵庫、自働自轉車、獵銃、樂器、乗用自動車、建築材料、工場製組立個人住宅の如き工業品の販賣が擴張される。

切符制の撤廢 新五ヶ年計畫は切符制の撤廢、民需供給の正常化、發展的ソヴィエト商業への切替を豫定してゐる。一九四六年には麵麩、小麦、碾割麥及びマカロニに對する切符制を廢止し、一九四六年—一九五〇年の間に切符制の廢止は凡ての他の商品にも適用される。

切符制の撤廢と物價の逐次的引下とによりソヴィエト商業は躍進し、金錢の流通を鞏化し、國內の全經濟生活を通じソヴィエト・ルーブリ貨の價値を著しく高めるであらう。

斯してソ聯邦國民經濟復興並に發展新五ヶ年計畫は次の方法によつて國民の生活水準の組織的向上を豫定する、即ち

イ、物價の逐次的引下とソヴィエト・ルーブリ貨の鞏化を計ること。

- ロ、住宅の基本戸数を極力増加し、國民生活條件の昂揚を計ること。
- ハ、勞働者の勞能働率の増進熟達度に應じ賃銀水準を引上げること。
- ニ、勞働者に對する現物給與の増加と共營農場の公共的收入の増加を計ること。
- ホ、國家諸計畫の遂行並に超遂行に對し、又科學・技術的發見に對する賞金の増加を計ること

四、加盟共和國々民經濟復興並に發展計畫

加盟諸共和國及びソ聯邦經濟諸地方の生産力の分散配置を新五ヶ年計畫は戰災諸地方に於ける
 働濟の復興並に加盟諸共和國及び國內經濟地方の國民經濟今後の發展に必要なものと見做し、
 これが爲に原料資源と需要地方とを極力接近せしめ、非合理的にして極端なる遠距離輸送の清算
 を實行する。

以上の課題と關聯し、新五ヶ年計畫は次のことを豫定する、即ち

- イ、ロシヤ共和國、ウクライナ、白ロシヤ、リトワニヤ、モルダヴィヤ、ラトヴィヤ、エスト
 ニヤ、カレロ・フィン各共和國の戰災諸地方に於ける工業及び運輸復舊の進行中に戰前の工業
 配置上の諸缺陷を清算し、これらの諸地方に動力及び燃料基地と、建築材料工業並に輕工業品
 食糧工業品の大量生産の復興並に發展に注意を拂ふ。

ロ、全加盟共和國、ソ聯邦の經濟諸地方、殊にシベリヤ及び極東の諸地方に於ける大事業を擴
 張する。ソ聯邦國民經濟に於ける大事業の總額の中、戰災諸地方の國民經濟復興の爲、五ヶ
 年間に約一千百五十億ルーブリと國內其他の地方の國民經濟發展の爲に約一千三百五十億ルー
 ブリの集中投資を行ふ。

ハ、凡ての加盟共和國に電力、燃料、建築材料及び一般必需品の生産基地の發展を保障し、青
 物、馬鈴薯の完全供給並に牛乳及び地方産肉の相當量の供給を保障せしめる爲、都市及び工業
 中心地の周邊に馬鈴薯、青物、畜産基地の鞏化、發達を更に高める。

二、モスクワ、レニングラード、キエフ、ハリコフ、ロストフ、ゴーリキー、スウェルドロフ
 スクに於ける新企業の新建設を制限し、新五ヶ年計畫は所要の燃料、動力及び原料資源を有する
 新地方と都市に於ける工業的企業の分散配置を豫定する。

ホ、經濟地方内の企業の協同化組織、就中鑄造、鍛鍊、打刻作業の協同化組織の仕事を繼續
 する。機械施設、農業機械、一般必需品の生産を組織する爲、祖國戰爭中に創造された鑄造及
 び鍛鍊の企業の生産能力を極力利用する必要がある。

ファッションヨ 掠奪者共が一時支配してゐたソ聯邦諸地方には破壊せられたる都市及び農村、工
 業、運輸、農業、文化施設を復興し、ファッションヨの奴隷下から免れたソ聯人の爲に正常なる生活

條件を與へる可能性が開かれんとしてゐる。祖國戰爭の間にこれらの諸地方には既に一部ではあるが、數千の工業的企業、千八百の國營農場、約六千の病院及び七萬餘の學校が復興してゐる。占領下に入つた諸都市には住宅面積千七百九十萬平方メートル、又農業地では百二十六萬戸の住宅が建設及び復舊した。

併し乍らソ聯邦の占領被害地方の復興事業は極めて一部しか遂行されてゐない。

ロシヤ共和國、ウクライナ、白ロシヤ、リトワニヤ、モルダヴィヤ、リトワニヤ、エストニヤ及びカレロ・フィン諸共和國に於ける占領被害諸地方の國民經濟復興五ヶ年計畫の基本的課題は次の通りである。即ち

第一は勞力の全面的機械化と現代の前衛的科學技術の徹底的採用により工業生産の戦前水準を取戻し、國民經濟の伸長を計ることである。これはこれらの地方に於ける工業生産品を五ヶ年間に三・九倍に、石炭の生産を二・一倍に、銑鐵の生産を五・一倍に、又電力の生産を四・四倍に増加するの必要を意味する。

第二は鐵道、水路及び自動車運輸網と其の輸送能力の復舊である。これは貨物取扱高の戦前水準への達成と今後の増加を保障する。この爲には戰災諸地方に於ける鐵道貨物取扱高を五ヶ年間に二・三倍に、河川運輸の貨物取扱高を六・五倍に増加せしめることが要請される。

第三はソ聯邦國民經濟及び國民に對する食糧及び原料の供給源である農業の復興と、共營農場及び機械・トラクター配給所の組織・經營上の鞏化を必遂することである。これには前記諸地方に於ける粒穀物の生産を五ヶ年間に八七パーセント、砂糖の生産を三・二倍、向日葵を七三パーセント、牛の頭數を五二パーセント、又豚の頭數を三・二倍に増加させることが必要である。

第四は敵の領軍の破壊せる都市及び農村、殊に住宅の復舊である。これには住宅（國營の）面積を五ヶ年間に三千三百二十萬平方メートルにすることが必要となる。國民の生活條件の向上は同時に勞働生産性の伸長によつて可能であるが、現在その水準は満足とは言ひ難い。國營及び消費組合商業の小賣販賣を復活することが必要であるが、これは五ヶ年間にその販賣高を二・二倍にすることを要求する。學校、文化施設及び保健施設網の戦前水準を復活する。

極めて重要な諸課題と發展の速度を解決し得るものは偏に地方の新しき手持物資の吸收と地方の創意を廣汎に發展せしめることにかかつてゐる。占領下に入つた諸地方の國民經濟の復興とソ聯邦の凡ゆる經濟的地方の今後の發展は、各共和國經濟の鞏化發展とソ聯邦國民經濟の組織の鞏化によつて實現される。これの目的の爲に新五ヶ年計畫は共和國自體にあらざる其の管轄地域に於ける經濟復興並に發展の大事業投資總額を二百九十五億ルーブリに増加するが、これは一九三八年——一九四二年の間に於ける投資額の二倍以上に當るものである。又、共和國管轄地域に

於ける工業品の生産増加額は一九五〇年に六百六十三億ルーブリとなり、これは一九四〇年の水準に比較し、二八パーセントの増加を意味する。

ソ聯邦生産力の復活及び發展に於ける加盟諸共和國の經濟的創意の充分な暢達と都市と農村間の物資、交通の組織を極力發展せしめることが必要である。地方工業と産業消費組合によつて生産される建築材料、燃料及び必需品は完全に共和國の管理に移さなければならぬ。共和國は自己の裁量によつて共和國內に産る製品の數量と、商品取引の手續によつて他の加盟共和國へ送る製品の數量とを決定する。而して取引の場合には全國的標準價格をもつてする。

共和國經濟發展の既に述べた共通の課題と共に、新五ヶ年計畫は各共和國毎に次に擧げる諸課題の解決を豫定してゐる。

ロシア共和國 共和國の一九五〇年度における工業製品の生産は一九四〇年度に比較して五六パーセント増加する。共和國五ヶ年間の工業全部門、農業、運輸、都市及び農村の復興、發展大事業に對する投資總額は一千四百五十億ルーブリ、此の中シベリヤ及び極東諸地方の分三百五十六億ルーブリとならう。五ヶ年間の銑鐵の精鍊高は一九四〇年に比較し六六パーセントに増加する。石炭の採掘高は九七パーセントに、石油のそれは二倍に増加する。北部諸地方にはベチョーラ炭の採掘が増進し、ウフタの石油採掘も擴張される。五ヶ年間の加工用木材の搬出高は二・

九倍に増加する。西北部諸地方に於ては機械製作、殊に造船事業の復興、發展が擧げられてゐる。レニングラード地區に於ける冶金工場の建設が進捗するほか、レニングラード市は高度技術によつて工業生産高を戦前水準にまで高めるやうな國內の工業及び文化の最大都市として復興する。中央諸地方に於ては石油及び石炭工業、殊にモスクワ附近炭田の發展と黑色冶金の原礦基地の發展が豫定されてゐる。

發電所の出力は二百萬キロワットになり、電力の豫備が確保される。オカ河とヴォルガ河に二ヶ所の新水力發電所の建設が開始される。

モスクワの經濟的及び文化的發展と國民生活條件の改善の爲にするソ聯邦の首都再建の大計畫遂行の事業が續行される。

沿ヴォルガ諸地方に於てはスターリングラードの工業及び都市經濟の復興が豫定されてゐる。石油の採掘高は一九四〇年に比較し十一倍に増加する。自動車製造が開始される。北部高架索及びクリミヤ地方では共和國でも豊饒なるこの地方の農業並に工業全部門の急速な復興と發展が保證される。ウラルの諸地方では銑鐵の精鍊高は一九四〇年に比し二・五倍に増加し、石炭の採掘高は二・七倍に、石油のそれは三・二倍に増加する。動力基地は百三十萬キロワット強力化されカマ河には強力なる水力發電所の建設が進捗する。加工用材の搬出は五ヶ年間に二・七倍に増加

し、ウラル國民經濟の増大する需要に對する鐵道運輸の立後れが清算される。西部シベリヤの諸地方ではクズバス石炭工業の今後の發展が更に保障され、黑色冶金業の専用原礦基地が創られる。機械製作、殊にトラクター製作事業が著しく擴張され自動車製作工業が組織される。鐵道電化の大事業が着手される。西部シベリヤはシベリヤ住民にとつてシベリヤ産バターの名譽恢復を爲すべき基地としての面目を鞏化する。

東部シベリヤ諸地方に於ては人造液體燃料工業が創設され、ソ聯邦の東部に於ける鐵道複幹線の建設と新地方の鐵道敷設を保障する鐵道建設事業が展開される。

極東方面に於ては國民經濟、殊に冶金業、動力、燃料工業及び造船事業の全面的發展が豫定される。運輸の凡ゆる種類の發展が保障される。

ウクライナ共和國 工業品の生産を戦前の水準に復活し、一九五〇年にはこの水準を凌駕するであらう。ウクライナ國民經濟の復興及び今後の發展を目指す五ヶ年計畫の大事業の總額は四百九十五萬ルーブリと決定されてゐる。南方の黑色冶金業、ドンバスの炭業、動力經濟、化學工業、鐵道運輸、重機械製作並に運輸機械製作、造船、食料工業の復興と今後の發展が豫定されてゐる。自動車製作業の新設、ヴォルガ右岸のウクライナ及び西部ウクライナの大炭礦事業が創始される。百八十二の主要炭坑が復舊し、六十のドンバス新炭坑が建設され、三十の熔鑛爐、七十

六のマルチン爐及び五十四の壓延機が復舊する。

諸發電所の出力は二百五十七萬七千キロワット増大し、レーニン記念ドネーブル水力發電所は復舊される。又穀物、甜菜、油性農作物及び畜産の最大基地たるウクライナの農業が復舊される。ウクライナの工業の他、ウクライナの土地の肥沃性並に穀物、砂糖、バター及び有名なウクライナの獸脂の如き食糧品の潤澤な生産が取戻される。

白ロシア共和國 國民經濟の復舊及び今後の發展を基礎にして工業品の生産は一九五〇年に戦前に比較し一六パーセント増大する。本共和國の國民經濟復興及び發展の爲に五ヶ年間に投資される總額は七百七十億ルーブリと決定せられてゐる。農業と畜産業は完全に復舊される。共和國の燃料及び動力網の發展は第一次的に保障される。トラクター及び自動車工業が新たに創設され、出力二十四萬三千キロワットの發電所が建設される。

ウズベツク共和國 工業品の生産は一九四〇年の水準に比し八九パーセントまで増加する。共和國及國民經濟に對する五ヶ年間の投資總額は三百九十億ルーブリと決定されてゐる。新五ヶ年計畫によつてソ聯邦の基本的棉花的基地として、又發展せる養蠶地として、果樹栽培地方として又畜産地方として、殊にカラクリ銅羊地方としてのウズベツク共和國今後の發展が保障される。播種面積は九十五萬六千ヘクタールに増大する。從來放置されてゐた四十六萬ヘクタールの未利

用地が農業化され、耕作可能地十七萬三千ヘクタールを灌漑することによつて農業化を行ふことが出来る。ウズベック棉花栽培事業を更に完全に復興し興隆せしめる必要がある。これと共に纖維、輕工業及び製紙事業、有色冶金業、石油鑛業、化學肥料工業、農業及び纖維機械製作並に共和國の動力經濟の著しき發展と、五ヶ年間に水力發電所の出力を二十六萬六千キロワットにする。

カザツク共和國 工業品の生産高を一九五〇年には一九四〇年に比較し二倍に増加する。共和國の國民經濟大事業の總投資額は五ヶ年間に百八億ルーブリと決定されてゐる。有色冶金業、炭鑛業及び石油鑛業今後の發展が擧げられてゐる。採炭高は一九四〇年に比較し一三四パーセント増加し、石油のそれは七八パーセントに増加する。黑色冶金業の建設が進捗し、鑛物性肥料の生産が増大する。著しき發展を豫定し得るものに鐵道運輸がある。畜産並に粒穀物經濟の一層の隆興が保障される。加工用農作物の生産が増大する。共和國草原地方の沃地開拓の爲に灌漑用小溝渠網を廣汎に建設する。

グルジヤ共和國 工業品の生産高は一九四〇年度に比較し一九五〇年には五〇パーセント増加する。共和國の國民經濟に於ける投資總額は五ヶ年間に四十一億ルーブリとなる。滿俺及び炭鑛事業の擴張が豫定されてゐる。

グルジヤに特別大規模の冶金業基地が建設される。自動車製造工業が組織される。水力發電所の建設が廣汎な發展を見るであらう。サムゴールの灌漑用水路網の建設が擧げられてゐる。亞熱帶植物及びエーテル油性植物の栽培が著しく擴大される。柑橘類、殊にレモンと蜜柑の生産は増大し、養蠶業並に畜産業が一層の發展を見るであらう。

アゼルバイジャン共和國 工業品の生産高は一九四〇年に比較し、一九五〇年には一八パーセント増加し、共和國の國民經濟に於ける投資總額は五十九億ルーブリとなるであらう。石油の採掘及び精製事業の急速なテンポによる復舊並に發展が保障される。石油の採掘高は五ヶ年間に一・五倍に増加する。油送管の生産が組織される。石油工業用の動力基地と機械製作基地とが擴張される。ミンゲチャウル水力發電所建設と其れに關聯する灌漑が進捗する。灌漑せらるべき土地の面積と棉花、殊に長纖維種棉花の播種地が擴大される。粒穀物及び野菜の生産並に果樹、葡萄の栽培面積が擴大される。

リトワニヤ共和國 一九五〇年の工業品生産高は一九四〇年に比較し八〇パーセント増加する。共和國の國民經濟に於ける總投資額は五ヶ年間に十五億ルーブリとならう。共和國の工業及び農業、殊に食料工業、農業機械製作の復興及び一層の發展と、燃料及び動力基地の發展、並に肉、酪乳、養豚及び養禽事業の發展が擧げられてゐる。

ラトヴィヤ共和國 一九五〇年の工業品生産高は一九四〇年に比較し八〇パーセント増加す

る。共和國の國民經濟に於ける總投資額は五ヶ年間に二十億ルーブリとなる。動力經濟、燃料及び金屬加工工業、電氣機械製作、造船、輕工業、漁業及びセルローズ製紙工業の復興及び發展が豫定されてゐる。農業、殊に肉・酪農及び養豚が復舊し、一層の發展を見るであらう。

キルギース共和國 工業品の生産高は一九五〇年に於ては一九四〇年に比較し二・一倍に増加する。共和國の國民經濟に於ける五ヶ年間の投資總額は十二億ルーブリとならう。畜産は更に發展し、播種面積は増大し、加工用農作物の收穫率は高まるであらう。オルト・トコイ貯水地と大チユイ運河の建設が進捗する。炭礦業並に稀金屬及び有色金屬の採掘と食料工業、纖維工業は一層の發展を見るであらう。

タチツク共和國 一九五〇年の工業品生産高は一九四〇年に比し五六パーセント増加する。共和國の國民經濟に於ける五ヶ年間の投資總額は十二億ルーブリとなる。棉花、殊に長纖維棉花の生産と畜産業の發展が更に進むであらう。原礦生産、纖維工業及び食料工業の發展が豫定されてゐる。

アルメニヤ共和國 一九五〇年の工業生産高は一九四〇年に比較して二・一倍に増加し、共和國の國民經濟に於ける總投資額は五ヶ年間に十四億ルーブリとなる。セヴァンスキー瀑布の水量を利用する化學工業及び有色冶金工業の發展が豫定されてゐる。纖維工業と食料工業の一層の

發展が認められ、畜産、甜菜の播種、養蠶業、並に灌漑せらるべき土地の擴張による葡萄及び果樹栽培の發展が保障される。

モルダヴィヤ共和國 工業品生産高は一九五〇年に於ては一九四〇年に比較し七八パーセント増加する。共和國國民經濟に於ける五ヶ年間の大事業投資總額は約十二億ルーブリとならう。復興及び一層の發展を豫定せられるものの筆頭は酒造業及び罐詰工業で、農業殊に葡萄栽培及び果樹栽培が復興發展し、玉蜀黍の播種も増加する。

トウルクメン共和國 一九五〇年に於ける工業品の生産高は一九四〇年に比較し七六パーセント増加する。共和國の國民經濟に於ける五ヶ年間の總投資額は六十億ルーブリとならう。棉花栽培、畜産、殊にカラクリ生産が一層興隆するであらう。レクテジエン及びムルガブ水域に於ける灌漑事業が起され、石油工業の急速な發展が保障される。且つ石油採掘高は五ヶ年間に一・八倍に増加し、化學、纖維、食料工業が更に發展する。

エストニヤ共和國 一九五〇年に於ける工業生産高は一九五〇年に於ては一九四〇年に比較し三倍に増加する。五ヶ年間の共和國國民經濟に對する總投資額は約三十五億ルーブリである。共和國國民經濟の完全な復舊、殊に頁岩蒸溜工業、動力經濟、機械製作、食料工業及び紡績工業の一層の發展が計畫されてゐる。農業、殊に肉乳畜産業及び養豚事業の復興と一層の發展が保障

される。

カレロ・フィン共和国 一九五〇年に於ける工業生産高は一九四〇年に比較し一パーセント増加する。共和国の國民經濟に對する總投資額は五ヶ年間に十六億ルーブリとなる。林業、木材加工業、製紙工業、鑛業は復興し更に發展する。

斯の如くソ聯邦國民復興及び發展新五ヶ年計畫は大ソヴィエト社會主義共和國聯邦の平等の權利を有する構成國たる各加盟共和國國民經濟の全面的發展を規定してゐる。

五、ソ聯邦國民經濟の強大なる昂揚目ざして

ソ聯邦國民經濟の復興並に發展五ヶ年計畫の實現のためには多くの勞力、精力及び知識を傾倒することが要求される。我々凡ては今次五ヶ年計畫の遂行を期するばかりでなく、それを超遂行するために働くであらう。

ソヴィエト國民は敵に破壊せられたる自國の經濟を復興することの必要に逢着したのは決して今回初めてのことではない。二十五年前ソヴィエト國家は第一次世界戦争と國內戦争の後の遺産として破壊された經濟を受継ぎ、これが復興に着手した。我等の偉大なる指導者レーニン及びスターリンの嚮導の下にソ聯邦諸國民は勝利を獲得した。ソヴィエト國家は見事に試煉を切抜け社

會主義革命の可能性を示現した。

今や第二次世界戦争は終結し、ソヴィエト國民はレーニン主義の苦節の旗幟の下に、我等の指導者なる大スターリンの嚮導の下に自己の英雄的勤勞によつて國民經濟建直しの困難なる事業を更に克服せんとしてゐる(嵐の如き拍手)。我國には我が國民經濟の復興と新たなる興隆の諸課題を更に組織的に且つ短期間に解決すべき凡ゆる基礎が存してゐる。

第一次世界戦争及び其の後の國內戦争終結後、ソ聯邦は一九一三年の戦前の工業生産水準に復舊するのに約六ヶ年を要した。新五ヶ年計畫は戦前、即ち一九四〇年のソ聯邦工業の生産水準を取戻すのは一九四八年と豫定してゐる。而して五ヶ年計畫の全期間を通じては著しくこれを凌駕するの見透しをもつてゐる。斯くて我々は第一次世界戦争及び革命戦争後の復興期に於て爲したよりも更に迅速に工業諸部門の復興を實現せんとするものである。(拍手喝采)

國民經濟復興建設五ヶ年計畫の法令

一、ソ聯邦國民經濟復興並に發展五ヶ年計畫の基本的諸課題

一、ソ聯邦諸國民並にその勇敢なる赤軍の幾多英雄的努力の結果世界に冠たる歴史的勝利なるヒトラー獨逸粉碎及び日本帝國主義撃破を達成したのである。ソ聯邦は敵に對する完全なる勝利の裡に戦争を終了した。戦争の總決算を行へば次の如くである。

第一にソ聯邦の勝利は、ソヴィエト社會機構が勝利せること即ち、ソヴィエト社會機構が戦火の試煉に見事打克つたことを意味する。

第二にソ聯邦の勝利は、ソヴィエト國家機構が勝利せること即ち、多數民族より成るソヴィエト國家が凡ゆる戦争の試煉に打克ち、以てその生活能力を實證せることを意味する。

第三にソ聯邦の勝利は、ソヴィエト軍備が勝利せること、赤軍が勝利せること即ち、赤軍が凡ゆる戦争の不幸を悲壯にも堪へ忍び、我等の敵軍に全敗を喫せしめて戦争の勝利者となれることを意味する。

斯くの如き世界に冠たる歴史的勝利は國全體の積極的防衛準備を基礎として初めて獲得されたのである。この大事業を準備するには三次に亘るソ聯邦國民經濟發展五ヶ年計畫が必要なのであつた。

ソ聯邦は共産黨の政策、就中、國の工業化並に農業の集團化政策の一貫せる實施に基き、第二次世界大戦に對する積極的國防準備の物質的可能性を確立したのであつた。

二、國の工業化並に農業の集團化の分野に於ける共産黨のプログラムを首尾よく遂行せる結果ソ聯邦に社會主義社會が樹立されたのである。一九三九年に全ソ聯邦共産黨第十八回大會は社會主義より共産主義への漸次移行の道を定め、ソ聯邦各國民に對し經濟的關係に於て即ち、國民一人當りの工業生産高の點で資本主義諸國に追付き且つ追越すべき任務を提起した。

社會主義工業は急速に隆盛を見た。工業生産高は毎年平均一三%方増大した。重工業の發展に於て特に大成功を収めた。第三次五ヶ年計畫の最初の三年間に生産手段の生産は一倍半餘増大し、機械製造の生産高は七五%方増加した。ソ聯邦東部諸州即ち、ウラル、ヴォルガ流域、シベリヤ、中央亞細亞及びカザフスタン各地區に於ける工業の發達は急速にして、第三次五ヶ年計畫の三年間の工業生産高は一倍半といふ伸長ぶりを見た。

一九四〇年の穀粒生産高は一億一九〇〇萬石であつた。ソ聯邦東部地方には最も富裕なる穀倉

が創られたのである。農業の振興は集團化政策により確立された。この政策は新技術を應用し、農業上の實際的成果を利用し、以てより多量の生産物を國に提供することを可能ならしめたる大規模集團農場を數年間に全國に展開し得たのであつた。

第三次五ヶ年計畫の三年半の間に大建設活動プログラムが實施された。即ち建設活動の昂揚は一三〇〇億といふ額に上り、國家工業部門の重工場、炭坑、發電所其他各種企業約三〇〇〇が村落地方に建設され、上記期間に於ける大規模事業の三分の一以上はソ聯邦東部地方に向けられたのである。

社會主義的生産の發達、工業の發展、東部地方國民經濟の發展及び大國有豫備品の蓄積はソ聯邦の經濟及び軍事力の尙一層の強化を保障した。

我國に於ける一九四〇年度の各種生産高を示せば次の如し——銑鐵一五〇〇萬噸即ち一九一三年度の約四倍、鋼鐵一八三〇萬噸即ち一九一三年度の四倍半、石炭一億六六〇〇萬噸即ち一九一三年度の五倍半、石油三一〇〇萬噸即ち一九一三年度の三倍半、商品化粒穀三八三〇萬噸即ち一九一三年度に比し一七〇〇萬噸の増産、原棉二七〇萬噸即ち一九一三年度の三倍半。社會主義的工業化を基礎として鐵道運輸再建事業が實施された。

これと同時にソ聯邦國民の物質的福祉及び文化水準の昂揚が行はれた。ソ聯邦國民經濟は新し

き要員により急速に充實し、労働生産性は向上し、國民所得は増加した。文化機關網は擴充し、初等、中等、高等各學校の學生及び生徒數は増大し、兒童の普通教育は實際に保障されるに至つた。

三、一九四一年の我が祖國に對する獨逸の背信的攻撃はソ聯邦の平和的建設事業を破壊し、國民經濟の全般的向上及びソ聯國民の物質的福祉の發達を中斷した。

大祖國戰爭は戰線の需要に、獨逸並にその同盟國擊破のために全國民經濟がこれに應ぜんことを要求したのであつた。斯くてソ聯邦國民經濟は短期間に戰時體制に再編成され、工業は兵器生産に轉換した。

數次の五ヶ年計畫の期間に確立された我國東部地方の大規模なる近代的工業及び東部地方に撤收せる大企業一三〇〇餘の急速なる復興に基きソ聯邦東部地方には強力なる工業基地が確立されたのである。幾多經營上の努力により被撤收企業は一九四二年上半年期には既にその基礎の復興を見たのである。

祖國戰爭に於けるソ聯邦の勝利は貴重なる大犠牲により獲得された。獨軍は我國に甚大なる損失を蒙らしめた。戰時の惡條件を冒して當時のソヴェト經濟は着々發展した。一九四五年上半年期に東部地方では一九四一年上半期に比し工業生産高は二倍、軍需工業生産高は五・六倍といふ

成果を挙げた。かくて祖國戦争の間に成長且つ強化せる東部地方は彈藥、兵器、戦車及び飛行機を赤軍に補給する強大基地であつたのである。

ソ聯邦の労働者は間斷なく生産技術の完成に努力し、工業企業のを増大し、新しき重輕工場を建設し、軍用並に一般經濟用貨物の輸送を確保し戦争に大なる寄與をなした。また我が農業者は軍隊及び國に食糧を、工業に原料を補給するを完ふした。またソヴィエト・インテリゲンチヤは工業及び農業昂揚に労働者並にコルホーズ農民を援助し、戦時下に近代科學を前進せしめ、赤軍に對する兵器生産にその成果を採入れたのであつた。献身的婦人及び輝かしき青年達は工場に、農村に勞苦をいとはず挺身して労働に比類なき勳功を樹てた。赤軍が長期且つ困難なる敵軍との戦鬪に着々勝利を収めた如く銃後のソヴィエト勤勞者は經濟的勝利を獲得した。祖國戦争間にソヴィエト機構の力と國民經濟發展並に戦時體制への切換へを指導せるは共産黨であつた。レニン・スターリン黨の指導の下に多民族より成るソヴィエト國民即ち労働者、農民及びインテリゲンチヤは單一戦鬪陣營に結集した。共産黨は對敵勝利のためにソ聯邦の凡ゆる力を統一し、國家の全物的資源を集中した。斯くして獨逸並に日本帝國主義者は粉碎されたのである。我が祖國は今後西方に於ける獨逸の襲來及び東方に於ける日本の襲來の脅威より解放されたのである。

四、今や再びソ聯邦は、獨逸の背信的攻撃により中斷された平和的社會主義建設期に入つた。

戦時中既に被占領地域の破壊された經濟の復興を開始せるソ聯邦は、ソ聯邦の經濟生活を決定且つ方向づける國家豫定計畫に準據して國民經濟復興並に今後の發展を戦後期に引續き行ひつゝある。

ソ聯邦最高會議は次の如く制定す、一九四六——一九五〇年ソ聯邦國民經濟復興及び發展五年計畫の基本的任務は國の戦災地域を復興し、工業及び農業の戦前水準を復活し、然る後この水準を著しく凌駕するにあると。この目的に必要な課題は左の如し。

(一) 重工業及び鐵道運輸の優先的復興並に發展の確保。これなくしてはソ聯邦全國民經濟の迅速且つ首尾よき復興並に發展は不可能なり。

(二) ソ聯邦國民の物質的福祉の確保並に國內に於ける主要必需品の潤澤化に必要な消費物資生産の農業及び工業の昂揚。

(三) ソ聯邦國民經濟全部門に於ける一層の技術的進歩の確保。これは生産の向上及び勞働生産性の引上げの條件にして、これが爲には近き將來に於て國外の科學水準に追付くのみならず、これを追越さねばならぬ。

(四) 一九四六年一杯に國民經濟戦後再編成の完了。ソ聯邦經濟力の今後の増大のため軍需工業生産力の利用。

- (五) ソ聯邦國防能力の昂揚及び最新の軍事技術によるソ聯邦軍備の確保。
- (六) ソ聯邦の經濟復興及び發展に必要な集中投資額を五ヶ年に二五〇三億留、また復活企業及び新規企業の活動資金として二三四〇億留(一九四五年の見積價格)を豫想しての高度の蓄積テンポの確保。萬策を盡せる建設工業の發達。前衛的建設技術及び建設事業の機械化並に建設器材製造の生産基地設置に對する特別の考慮。
- (七) 都市並に農村の復興及び一層の建設と國の住宅フオンド増強。住宅の大量工場生産の確立。個人住宅建設に於ける労働者、農民及びインテリゲンチヤに對する國家の援助。
- (八) 戦前の水準を越える國民所得並に國民消費の引上げ。これが爲には全ゆる處置を講じて食料品工業を昂揚し、一般必需品の大量生産を發達せしめ、集團農場コルホーズの所得を増加し、商品取引を増強すること。次に近々切符制度を廢止し、これに代ふるに發達せる文化的ソヴィエト商業を以てする。
- (九) 労働組織の改善並に各企業に於ける良好なる住宅・物質條件の確保を基幹とせる工業及び運輸部門の常置労働者要員の鞏化。熟練技術要員擴充の確保。
- (一〇) 八時間制労働日の完全利用、労働力を大量に必要とする部門の全面的機械化、國民經濟の一層の電化及び生産工程の集中化に立脚せる労働生産性の向上。

(一一) 初等、中等及び高等各學校の復興及び擴大。労働豫備軍の増大並に新規労働者に對する生産教育による生産要員養成の改善。

(一二) 國民保健組織の改善。ソヴィエト文化及び藝術の今後の繁榮確保。

(一三) 生産増強並に經濟的困難の豫防のため國民經濟に於ける國家の物質的餘力の増大化。

(一四) 國民經濟に於ける貨幣流通及び信用關係の鞏化。生産増加の補足的手段として國民經濟に於ける獨立會計の利潤の價値を引上げること。労働者及び勤務者が生産課題を遂行又は超過遂行せることに對しその賃金に特別手當を加へること。

(一五) 生産力復興及び發展に於ける加盟各共和國の經濟的創意伸長の萬全策。ソ聯邦國民經濟體系内の共和國經濟の鞏化並に伸長確保。共和國經濟、各地元工業並に産業組合の全面的發展、特に食糧並に一般必需品の増加、地元燃料の採取、地元需要に應ずる壓延材及び鑄物、建設資材及び木材の生産、金屬製部分品生産及び共和國經濟用設備の生産等の確保。

地元工業及び産業組合の生産する一般必需品は悉く加盟共和國の管理下にあり、且つ各政府はその裁量により各共和國內向け消費の生産高割當及び國家全體の正常なる市場價格を維持せる上で商品取引として他の共和國に向けられる生産高割當を決定する。

右の課題に就てソ聯邦最高會議は次の如く決定す。

ソ聯邦國家計畫委員會が作製し、政府により採擇されたる一九四六—一九五〇年ソ聯邦國民經濟復興並に發展五ヶ年計畫を確認し、本期間に於ける課題を次の如く定む。

二、工業部門の生産増加並に大建設計畫

工業

一、ソ聯邦國民經濟復興並に發展五ヶ年計畫の最終年なる一九五〇年度のソ聯邦全工業生産高を二〇五〇億留（一九二六乃至一九二七年の價格）と定む。これを一九四〇年度の一三八五億留と比較せばその工業生産高の増加率は四八%なり。

二、一九五〇年度の工業に於ける最重要部門の生産水準を次の如く定む、

冶金部門 銑鐵一九五〇萬噸、鋼二五四〇萬噸、壓延材一七八〇萬噸。

燃料及び動力部門 石炭二億五〇〇〇萬噸、石油三五四〇萬噸、天然瓦斯八四億立方米、石

炭及び頁岩瓦斯一九億立方米。電力八二〇億キロワット時。

輪轉材料部門 幹線用蒸氣機關車二二〇〇臺、幹線用内燃機關車三〇〇臺、幹線用電氣機關

車二二〇臺、貨車（二軸用）一四萬六〇〇〇臺、客車二六〇〇臺、貨物自動車四二萬八〇〇〇臺、

乗用自動車六萬五六〇〇臺、乗合自動車六四〇〇臺。

設備部門 冶金設備一〇萬二九〇〇噸、蒸氣タービン二九〇萬六〇〇〇キロワット、大型水

力タービン三七萬二〇〇〇キロワット、中型水力タービン一五萬キロワット、小型水力タービン

五〇萬キロワット、モーター一〇〇〇キロワット以下六二萬四〇〇〇臺、一〇〇キロワット以上

九〇〇〇臺、金屬切斷機七萬四〇〇〇臺、紡績機械一四〇萬臺、織機二萬五〇〇〇臺。

農業機械部門 トラクター一萬二〇〇〇、トラクター用犁一一萬、トラクター用耕耘機八

萬二三〇〇、トラクター用播種機八萬三三〇〇、組立打穀機一萬八三〇〇。

化學製品及び鑛物肥料部門 苛性曹達三九萬噸、石灰曹達八〇萬噸、鑛物肥料（過燐酸鹽、

窒素及び加里）五一〇萬噸、合成有機染料四萬三〇〇〇噸。

木材及び建設資材部門 木材搬出高二億八〇〇〇萬立方米、挽材三九〇〇萬立方米、セメン

ト一〇五〇萬噸、スレート四億一〇〇〇萬枚、窓硝子八〇〇〇萬平方米。

纖維及び輕工業部門 木綿織物四六億八六〇〇萬米、毛織物一億五九四〇萬米、皮革製履物

二億四〇〇〇萬足、ゴム製履物八八六〇萬足、靴下類五億八〇〇〇萬足。

食糧品部門 肉類一三〇萬噸、動物性油二七萬五〇〇〇噸、植物性油八八萬噸、魚類二二〇

萬噸、砂糖二四〇萬噸、酒精一億〇〇八〇萬デカリットル、石鹼八七萬噸。

三、生産増加計畫に關聯して一九四六——一九五〇年ソ聯邦工業大規模活動額を一五七五億留（一九四五年度の見積價格）と定む。

四、黑色冶金部門の昂揚はソ聯邦全國民經濟の復興並に發展を決定するに與つて大いに力あるものにして、銑鐵及び鋼の精鍊並に壓延材生産は一九五〇年度には三八%方戦前水準を上廻る豫定なり。一九五〇年度の鐵鑛採掘高は略四〇〇〇萬噸、耐火粘土は二七八萬噸、耐火煉瓦九八萬噸生産の豫定。鐵道用軌條生産の復興並に擴充を行ひ、一九五〇年度の生産高一三五萬噸を確保。一九五〇年度の鐵管生産高を一五〇萬噸まで引上げる。五ヶ年間に銑鐵一二八〇萬噸、精鍊用熔鑛爐四五基、鋼一六二〇萬噸、精鍊用のマルチン爐一五六基、製鋼用轉爐一五基及び電氣爐九〇基、壓延材一七〇萬噸、生産用壓延機一〇四、コークス一九一〇萬噸、生産用コークス用バッテリー一六三を復興及び建設の上操業。南部冶金の銑鐵、鋼壓延材生産の戦前水準の復活。大冶金工場一七を含むソ聯邦南部冶金工場の復興。壓延管及び導管鑄造製造工場七の復興。

ウラル、シベリヤ及び極東に於ける冶金基地の發展續行。ウラル及びシベリヤに於ける冶金工場四の建設續行。グルジャ共和国内に冶金工場數個、アゼルバイジャン共和国内に壓延管工場一の建設。カザツク共和国及びレニングラード地區に於ける冶金工場新設着手。極東、シベリヤ及

び南部高架索に於ける固有鐵鑛基地の開拓。クリヴオイ・ロীগ鑛山、リベック、トウーラ各鑛山の復興並に發展の確保。クルスク地區に於ける鐵鑛採掘の組織化。冶金原料の遠距離輸送減縮特にクスネツ炭田への鐵鑛輸送減少。操業中又は新設冶金工場に必要な鐵鑛及び冶金原料の工業用資源を一層擴充する目的の下に特に東部地方に於ける地質探査活動の擴大化。一六億八〇〇〇萬噸の鐵鑛、その中、西部シベリヤにて一億噸及び軟滿俺鐵一億一〇〇〇萬噸の工業用豫備資源の試掘。北部ウラル、シベリヤ、カザツク共和国及びクルスク地區に於ける新設冶金工場用壓延材の準備。ワニスの生産化及び白葉鐵生産擴充。低合金鋼、精密合金、ダイヤモンド鋼生産發展。高熱、高壓釜用、高質合金鋼生産増大。金屬火力精鍊の確立。熔鑛及び鋼熔解に於ける大量の酸素注入法の確立。選鑛の發達。鑛石・セメント混合體の生産増加、熔解作業に於ける原料資材の状態改善。工業上の利用のための燃料用瓦斯輸送管の増大。

五、有色冶金部門に於ては操業中の企業活動の改善、鑛山及び工場の新設、被占領地帯の企業復興及び前衛的技術の導入に基き有色金屬及び稀金屬生産の高度發展を確保する。五ヶ年間の各種金屬増産率は銅一・六倍、アルミニウム二倍、ニッケル一・九倍、鉛二・六倍、亞鉛二・五倍、有色金屬製、特に合成合金壓延板生産の擴充。有色冶金用鑛山の一層の擴大及び強化、製鉛工業の原料基地の立後れを克服。五年間に亘り鑛山、選炭工場の作業力を増強。カザツク共和国内の

銅鑛コンビナートの第一期建設完了。南部ウラルに於ける銅熔解コンビナートの優先的新設。電力鑄鋼工場の建設及び操業。アルミニウム鑛山及び工場の作業力増強。ボーキサイト鑛山數ヶ所アルミニウム工場二及びアルミナ工場一の復興。新規アルミニウム工場二の建設及び操業。北部ウラル及びクズネツ炭田地方に於けるアルミニウム工場能力増強。アゼルバイジャン共和国のアルミナ工場の第一期建設の實施。ニッケル・コンビナート二ヶ所のニッケル電氣熔解生産力の増強。新設ニッケル工場一の操業實施。操業中の亞鉛工場の擴充、ソ聯南部の亞鉛工場二の復興。亞鉛及び鉛工場の新設。北高架索のヴォルフラム・モリブデン工場の復興並に擴充、中央亞細亞及び東部シベリヤのヴォルフラム・モリブデン産地に依存する企業の建設續行。有色壓延材工場三の優先的建設並に操業。ウクライナ共和国のエレクトロード工場一の復興並に擴充、北部高架索に於けるエレクトロード工場一の新設。高質硬性合金製造企業二の新設。アルミニウム工場に必要な原料基地をシベリヤに開拓、アルミニウム、ニッケル、ヴォルフラム生産の企業並に工場建設に必要な新産地の發掘。有色金属を含有する有用鑛物の綜合的利用の組織化。有色金属原鑛加工に大量の勞働力を要する全工程の機械化及び選炭工場並に冶金工場の工學的工程管理及び運用の自動化實施。電熱方法による金屬マグネシウムの工業生産化。

六、急速なる石炭工業發達テンポの確保、戰前水準に比し一九五〇年度には五一%方の石炭増

産。工業の需要を完全に充足するためドネツ、クズネツ、カラガンダ、ベチョラ及びトクヴィブトルのコークス用石炭採掘高を五七五〇萬噸に引上げ、ドンバスの戰前採炭高を復活し、一九五〇年度には採炭高を八八〇〇萬噸まで引上げ以て戰前水準を凌駕すること。プレーヤ、ハバロフスク地方、カザツク共和国のエキバストウズ、バシキール自治共和国のクニルガジンスキー等各地区に於ける新炭田の活動に着手、地元向け燃料の遠距離輸送を廢止するため石炭産地を有する國の全地區に於ける新規地元採炭基地の發展。

一九四六乃至一九五〇年の間に總出炭力一億八三〇〇萬噸の堅坑の稼行實施。一九四九年にドンバス堅坑の復興完了、これが爲總出炭力六七七〇萬噸の堅坑一八二の完全復興並に總出炭力一四一〇萬噸の新堅坑六〇の追加建設を行ふこと。コークス用石炭に必要な堅坑の優先的復興並に新建設の確保。

歐露北部及びレムングラードの諸地區に必要な新石炭基地——ベチョラ炭田の擴充。

ウクライナの右岸地帯及び西部各州に於ける石炭工業の確立。高架索に於て出炭力三二〇萬噸の新堅坑一〇、極東に於て出炭力一二五萬噸の堅坑八の稼行。

堅坑建設の規定容積確保のため前衛的工業方法の廣汎なる實施、建設期間の著しき短縮。

採炭の規定計畫遂行及び勞働生産性増大のため石炭工業に於ける勞働力を多量に要する工程を

手段を盡して機械化すること。機械装置の戦前水準の三乃至四倍増強。ソ聯邦東部及び西部地方に於ける石炭工業用機械製作基地の擴大。五ヶ年間に機械製作工場一三の新設並に操業、炭坑施設生産工場一六の復興及び再建。坑道設備に於ける木材使用の代りに金屬及び鐵筋コンクリートの使用。

石炭工業の最重要任務は精選法による炭質の決定的改善とす。石炭工業に機械化せる前衛的選礦及び煉炭製造技術の樹立。一九五〇年度に選礦に用ひられるコークス用石炭（灰分七%以上）及び選礦用動力石炭（灰分一〇%以上）の機械的選礦並に褐炭選礦の廣汎なる確立。これに伴ひ機械による石炭選礦を一九五〇年度には一億五〇〇〇萬噸にまで引上げる、即ちコークス用石炭五三〇〇萬噸及び動力用石炭九七〇〇萬噸とす。動力用石炭の選礦。煉炭用石炭生産の廣汎なる組織化及び一九五〇年度の生産高七四〇萬噸の確保。

一九四六—一九五〇年に於ける石炭の機械的選礦及び煉炭化計畫保障のため一年間の作業能力石炭一億七五〇〇萬噸の石炭選礦工場二七一の建設、作業力九〇〇萬噸の工場六の復興、年次作業力煉炭一〇〇〇萬噸の煉炭工場二六の建設、選礦施設生産に用ひる機械製作基地の設置、クズネツ炭田及びドネツ炭田に機械製造工場二の新設。新規開發炭坑には各炭坑又はそのグループの使用する選礦及び精選装置の必要を定む。南部地方所在コークス化學工場に石炭選礦工場復興

及び建設の強行、冶金工場内に石炭選礦工場の新設。年次出炭力三億六一〇〇萬を指す堅坑及び採石場の開發のため五ヶ年間に炭坑七六五、即ちウラルでは一三一、モスクワ近邊炭田では一三五、カラガンダ炭田では六〇、クズネツ炭田では六〇、ドネツ炭田では一四〇の試掘を行ふこと。ウラル、ドネツ、クズネツ、カラガンダ及びベチョラ各炭田に於けるコークス用石炭産地の調査及び試掘の實施。

七、一九五〇年度の泥炭採掘高を戦前水準に比し三九%方増加、即ち一九五〇年度の採炭高四四三〇萬噸の達成。ソ聯邦中央並に西部地方に於ける泥炭採取の全面的發展確保。

泥炭の採掘、乾燥、取入れ等労働力を多量に要する工程及び準備作業、積荷・荷卸作業の機械化の確保。泥炭採掘の最も機械化せる手段即ち、フレイゼル式、バゲール式及び水壓利用の發展。狹軌運輸機關の發展確保。一九五〇年度の泥炭製煉炭増産高略一二〇萬噸。泥炭燃料の年間續行生産に着手、これがため泥炭の人工的無點火工場一の建設。

泥炭の生産、工學的及び化學的の加工に關する科學研究活動の廣範圍に亘る發展の確保。

八、天然瓦斯採取及び石炭並に泥炭の加工に基き大規模なる新瓦斯工業部門の發展。一九五〇年度の石炭及び頁岩よりの瓦斯生産一九億立方米、天然瓦斯生産八四億立方米に引上げ。地下瓦斯化實現活動の續行、一九五〇年に於ける地下瓦斯化の瓦斯年産高を九億二〇〇〇萬立方米に引

上げ。石炭及び頁岩による液體燃料製造工業の設立及びその一九五〇年度に於ける製造高を九〇萬噸に引上げ。頁岩加工瓦斯採取工業確立のためエストニヤ共和國內の出力九四〇萬噸及びレニングラード州内の出力三〇〇萬の頁岩礦山の復興並に建設。

石炭・水素化合工場及びベンチン合成工場一の建設展開。五ヶ年間にエストニヤ共和國及びレニングラード州内に頁岩瓦斯化及び頁岩加工工場の建設並に操業實施。瓦斯工場四の新設、ダシャワリキエフ、コフトラニルウエーレニングラード間の瓦斯輸送管の建設並に輸送實施、サラトフモスクワ間の瓦斯輸送管の建設完了。

九、石油工業の迅速なる復興並に發展の確保。一九四九年に石油採掘及び加工の戦前水準への到達及び一九五〇年に於ける同水準の引上げ。ウラル、バシキール自治共和國、ヴォルガ沿岸地帯、樺太、トウルクメン共和國、ヅベク共和國、カザツク共和國等東部各地方及びウクライナ共和國に於ける採油及び加工の發展續行。ソ聯邦採油總額に於ける東部地方の比重の増強。バク、グロズヌイ、クラスノダール各地の急速なる復興テンポの計畫。採油計畫確保に必要な新油田開發の地質調査活動展開、試掘的鑽孔の増強及び鑽孔作業に於けるその比重の向上。

油井貫通の急速法、タービン鑽孔の發展、一層完全なる施設による深遠ポンプ式掘鑿の再裝備、第二層採掘法の確立。油田に於ける密封、蒐集及び送液の實現。高オクタン航空機用ガソ

リン生産の發展。自動車用ガソリン、トラクター用ケロシン、ディーゼル機關用燃料及び油類の品質向上。損失減少及び溶化工程の廣汎なる確立その他揮發油並に工學用油の最新式生産法による石油加工製品の産出高の増大。

五ヶ年間に石油加工工場二〇の建設。南部諸地區の農業及び工業に必要な石油製品確保のため石油加工工場三の復興。

石油工業の需要を完全に充足せんがため必要な石油施設、機器及び計器類生産の復興並に擴充。

一〇、電化部門に於ては各種工業部門の復興並に建設を凌ぐ程度に發電所の能力の復興及び建設を強行すること。發電所の活動を低下せしめざる高度の電力を確保する恒常的豫備力を發電組織に設置。一九五〇年度の電力生産量を一九四〇年度に比し七〇%の増加を定む。被占領地帯に於ける發電所の完全復興、ソ聯邦全發電所に於て五ヶ年間に一一七〇萬キロワットの操業を行はしめ、一九五〇年度規定出力を二二七〇萬キロワットに引上げること。

水力發電所の建設展開、國民經濟電力生産に於ける水力發電所の比重の向上確保、五ヶ年間に總出力二三〇〇萬キロワットの水力發電所の操業實施。レーニン名稱ドネーブル發電所を含む水力發電所六の復興。水力發電所三〇の建設完了、水力發電所八の優先的建設着手並に操業實施。

ドネープル及びスイル・ダリヤ兩河畔の水力発電所新設準備作業の續行。各地元用水力発電所の復興並に建設事業の廣汎なる展開、このために現存堰堤の利用。出力一〇〇萬キロワットの小規模水力発電所の活動確保。

火力発電所及びモスクワ、ドネツ炭田地方、ドネープル流域地帯、キエフ、ハリコフ、リヴオフ、オデッサ、ニコラエフ、セヴァストポリ、ノヴォロシースク、クラスノダール、グロースマイ、スタリングラード、ウオローネジ、ブリャンスク、カリーニン、ミンスク、ヴィリニユース、リガ、タリン、ベトロザウオドスク各地の電力網の復興。地區火力発電所三七の建設完了及び操業實施、その中二一は中央火力発電所、モスクワ、ゴリキキー、イワノヴオ及びヤロスラウリ電力系統に於ける発電所の能力と電力消費側との間の不調打破。

工業に於ける獨立的自動化電氣傳導裝置の一般的普及化及び電氣傳導裝置への漸次移行の實現。稀金屬、有色金屬、合金鋼、化學製品生産及び金屬加工に於ける電氣工學利用の擴充。

工業の一層の電化と共に鐵道運輸及び農業のより廣汎なる電化への移行。移動機關車用並に瓦斯發生機用發動機を有する小規模水力発電所、風力発電所及び火力発電所の村落地方に大量建設の確保。モスクワ、レニングラード、キエフ、ハリコフ、スヴェルドロフスク、ロストフ（ドン河畔）各市の暖房設備の事業續行。最新の動力技術即ち、高壓及び高温の蒸氣利用、最新式暖房

用タービン、最新型各種汽罐、發電機及び高壓機械利用を發電所に普及。發電所及び電力網の生産工程の自動化事業の廣汎なる展開、先づ第一に水力発電所活動の完全なる自動化の實施。

高壓直流による遠距離送電の科學的實驗の實施及び實地的施行。

一一、機械製造部門は施設の製造高を一九五〇年度には戰前水準の二倍増加。冶金、動力、石炭及び石油施設、電氣機械、輪轉材料生産の優先的復興並に發展を約す。

技術的に一層完壁化する各種機械の製造確立——多軸綜合工作機械、自動式工作機械、強力打刻及び刻印プレス、鍛冶機械、強力電氣式掘鑿機、生産運用及び管理の自動式器具及び近代式冷却裝置。電氣機械、變壓器、蓄電器、高周波機械、自動式テレフォン・ステーション、電信機、無線電信送信器、真空管、フォトエレメント、配電裝置、水銀整流器、鍛接機械、繼電器、高壓機器の新型生産の確立並に發展。

新型機械の生産並に確立の復興に當り部分品の規格統一。

機械製造に於ける前衛的生產方法、特に大量・流れ作業方法の廣汎なる利用、自動的流動裝置及び綜合工作機械、壓力鑄造、自動的鍛接、打刻鍛接工事、高周波電流による鍛鍊、電氣加熱、高速度プレスによる刻印、超急速削截の確立。

ドネツ炭田及びウラルに重機械製造大基地の復興並に發展。一九四六乃至一九五〇年の間に冶

金施設四〇萬五〇〇〇噸の生産。ドネツ炭田に於ける重機械製造工場二の復興及び南部ウラルに於ける重機械製造工場一の新設完了。西部シベリヤに碎鑛工場一の新設開始。

一九四六乃至一九五〇年の間に總出力九三〇萬キロワットの蒸氣タービン製造、蒸氣高壓・高熱タービン及びボイラー、中型及び小型水力タービンの製造高増強。

動力施設生産工場四の復興。中型及び小型蒸氣タービン工場一の新設。水力タービン工場二の建設完了。ボイラー工場一の復興及び新設ボイラー工場三の操業實施。

ソ聯邦に機關車及び車輛製造大基地の建設。一九五〇年度製造高—幹線用蒸氣機關車二二〇〇—幹線用内燃機關車三〇〇、幹線用電氣機關車二二〇、車輛（二軸）一五萬。自力荷卸車輛製造の發展。

蒸氣機關車製造工場三に於ける幹線用蒸氣機關車生産の復興。機械製造工場四に於ける幹線用蒸氣機關車、内燃機關車、工業用機關車及び電氣機關車の新規生産化。新規蒸氣機關車製造工場一の操業實施。車輛工場四の復興。車輛工場三の新設完了。北部ウラルに於ける車輛製造の再開始。

一九五〇年度の金屬切斷機生産高七萬四〇〇〇臺、綜合的工作機械、特殊工作機械、自動機械及び半自動機械の生産振興。一九五〇年度の綜合的工作機械及び特殊工作機械製造高一萬二三〇

○臺。

鍛冶及びプレス機械施設生産を戦前水準に比し二倍半引上げること、就中、大槌、プレス及び鍛冶機械生産の増強。

工作機械製造工場一八の復興。重工作機械製造工場二及び綜合的並に特殊工作機械製造工場三の建設並に操業實施。

電氣機械類の生産は一九五〇年までに戦前水準に比し二倍半の増加。凡ゆる種類の電氣機械による機械製造及び大型電動機、爆發の危険性なき電動機、標準交流電動機並に電氣機械による石炭工業、石油工業並に冶金業の完全なる保障。高壓機器による鐵道運輸電化計畫案の保障。自動式運用並に管理機械生産の發展。電氣機械製造工場一五の復興並に建設。タービン用ゼネレーター製造工場一、牽引機並に起重機製造工場一、ケーブル製造工場二、電子管製造工場一、内燃機關車用電氣設備製造工場一の建設並に操業實施。

一九五〇年度の自動車製造高五〇萬臺。新型自動車即ち、積載量増加の貨物自動車及びより一層便宜且つ經濟的なる乗用自動車の大量生産への移行。瓦斯發生機械並に瓦斯筒自動車の生産復活。ディーゼル・モーター貨物自動車及び自動式荷卸自動車の大量生産化。自動車工場三の建設完了、小型自動車工場三の新設、操業中なる自動車工場三の擴張。自動車組立工場四の建設完了。

農業の迅速なる復興並に發展に不可欠なるトラクター製造及び農業機械製造の振興。トラクター製造工場の復興、トラクター製造基地を新設し、農業用一九五〇年度の製造高一萬二〇〇〇臺を達成。ディーゼル・モーター及び瓦斯發生裝置を有するトラクターの大量生産化。トラクター工場二の復興、トラクター工場三の新設完了、白ロシア共和國にトラクター工場一設立。特殊受註より解放される工場二に於けるトラクター製造の復活。

各種農業機械の大量生産復興並に發展——トラクター用犁、播種機、耕耘機、粗耕機、コンバインその他穀粒收穫機械、穀粒清掃機、工業加工農作物並に果被用機械、乾草刈取機、飼料調製並に飼料加工機械、羊及び乳牛の機械的剪截用機械、吹合器、冷蔵庫その他酪乳用器具、畜産農場に對する給水設備、集團農場用製粉機、農作物を害する昆蟲、鳥獸類の撲滅機械、農業機械生産工場九の復興。農機工場五及びコンバイン製造工場一の建設完了並に操業實施。

造船工場並にこれに加入する企業、先づ第一にレニングラード並にニコラエフ造船工場の完全なる復興。造船工場の新設。河川及び海洋向け造船企業の作業能力の復興並に強化。

高圧コムプレッサ及び化學機械の生産擴充。工業に廣汎なる酸素の導入化及び工學的工程の集中化のため酸素製造に要する強力コムプレッサ及び裝置の生産化。ソ聯邦東部地方に化學施設即ち、遠心ポンプ、コムプレッサ及び管狀コムプレッサ製造工場の建設並に擴張の完了

織物機械生産の戦前水準の四倍増強。技術的に完全なる新施設即ち、高速絲卷機、急速經絲製作機、履物及び裁縫工業用ミシンの生産確立。

食料品用機械製造、特に肉、酪乳、砂糖、罐詰各工業用機械製造及びアンモニヤ・コムプレッサ、急速冷凍機、乾燥・分離裝置、真空蒸發器並に罐詰設備の新施設生産の發達。

蒸氣掘鑿機、最新式建設並に道路機械、運搬施設、積荷・荷卸機械及び勞働力を要する作業の機械化に必要な各種施設の生産確保。

工學的工程の管理並に運用を自動化するため器具製造發展に萬策を講じ、光學器具並に電位計の生産を一九五〇年度には一九四〇年度の七倍に増大すること。科學研究所用電子顯微鏡の生産化。地質探査法（磁石、電氣、地震）に必要な器具の生産、有用礦物埋藏地發見に效果あらしむる地質探査活動に該器具の導入を確保。航空、航海及び農業の必要を保障するため天氣豫報に、不可欠なる地球物理學器具の生産伸長化。

最新式の顯微鏡、スペクトル機械、寫眞機、雙眼鏡、攝影機及び映寫機の大量生産確立並に發展。技術的に完全にして一般的なる自動自轉車、自轉車、獵銃、ラジオ受信器、時計の大量生産の復興並に發展。近代式テレヴィジョン受信器の製造組織。製氷器の大規模生産化。

一二、化學工業は一九五〇年度の生産水準を戦前の一倍增上げ。被占領地帯に於ける化學部

門、就中、窒素、磷肥料、曹達、有機染料製造の復興。礦物肥料の生産復興、戦前水準に比し一九五〇年度の燐酸鹽肥料製造高は二倍、窒素肥料は一・八倍、加里肥料は一・三倍に引上げ。石炭加工及び石油加工の副製品を基礎とせる有機化合の新分野の確立。

プラスチック、アニリン染料、ラック染料、藥劑その他國民經濟諸部門の工業に必要な化學的半製品の製造確保。プラスチック及び合成樹脂の新種類の生産化。合成染料の生産擴充及び品種の改善。石灰曹達八一萬三〇〇〇噸、苛性曹達二七萬八〇〇〇噸、過燐酸鹽二七二萬の生産實現。曹達工場三の復興、ウラルに於ける曹達工場一の新設、曹達工場一の新設着手。アニリン染料工場二、ラック染料工場二、プラスチック工場三の建設並に操業實施。

礦物肥料の不合理且つ遠距離輸送を縮減するため燐產地カラ・タウに過燐酸肥料工場の新設並に操業實施。窒素工場三の戦前能力の復活及び新工場の建設實施。

新技術、間斷なき生産方法、生産運營の自動化の導入、窒素、硫酸、曹達、アニリン染料各工業に於ける機械的工程の一層の集中化實現による化學工業の發展。

一三、護謨工業部門は一九五〇年度には戦前水準に比し合成護謨生産二倍、自動車用タイヤ三倍、護謨製履物一・三倍の増加。合成護謨工業に於ては非食糧品原料加工の發展を計り、一九五〇年までに非食糧品原料より製造する彈性護謨の生産高を護謨生産總額の三八%に増加せしむる

こと。一九五〇年度の再生護謨生産高五萬六〇〇〇噸。ソ聯邦に於ける天然護謨の大規模生産化。

新しき各種原料及び新技術、自動車タイヤ生産に於ける運營の自動化。合成護謨製造工程の集中化を基礎とせる護謨工業の發展、彈性護謨、自動車タイヤ及び護謨製部品の生産に於ける勞働力を要する工程の機械化擴充。

一四、建設材料工業の迅速なる復興並に發展を確保することは、被占領地帯の國民經濟の完全なる復興及びソ聯邦東部地方に於ける今後の建設實施の任務と關聯するものなり。

破壊されたる工場の復興並に新規企業の組織に要するセメント、硝子、スレート、壁並に屋根用材料等最重要建設材料生産を五ヶ年間に戦前水準を著しく突破すること。一九五〇年度のセメント生産高は戦前水準に比し一・八倍、硝子は一・八倍、スレートは二倍、タイルは四倍の増産。

新工業部門即ち、組立家屋並に木材、硫酸石灰、石綿セメントその他材料より作る部分品の工場生産の確立。生産力九四〇萬噸の新規セメント工場、窓硝子四〇〇〇萬平方メートルの製造工場、三億三二〇〇萬枚生産のスレート工場、毎年住宅面積四六〇萬立方メートルを豫定する組立家屋製作工場、防濕用建築材料及び透明紙三二五萬巻及びトタン板二七〇萬巻の製造力を有する屋根用材料工場、溫暖用ボイラー製造三七萬七〇〇〇平方メートル及びラヂエーター六二〇萬平方メートル製造工場の復

興並に建設。遮熱材料即ち、礦物質獸毛及び木質纖維板並に石綿セメント・漆喰材料の生産展開。

建設材料生産規定計畫遂行のため電気式掘鑿機、大量積載及び自力荷卸可能のトロッコ、起重機の利用によるセメント工業その他に於ける労働力を要する工程の機械化實施。新技術、特に石炭の乾燥並に粉碎を同時に行ふ方法、透化煉瓦を焼くに必要なる生産力の高い廻轉爐、板硝子の引伸し、硝子運搬及び切斷の流れ作業法の廣汎なる確立。

一五、林業部門では戦前水準に比し一九五〇年までに木材搬出高を五九%、挽材生産を一四%増加すること。木材六〇〇萬立方の製材、三〇萬立方米のベニヤ板製作及び七億五〇〇〇萬箱のマチ軸製造の能力發揮。木材加工工業特に、家具生産の復興。北ドウィナ及びその支流、ベチコラ、カマ等各河川に於て浮送による木材搬出を以てする木材調達基地の増大化。

木材調達作業の要員及び労働者の増加。

製材業に於ける電気鋸、木材輸送用トラクターの確保。木材調達及び搬入の機械化の基準を同作業全體量の七五%、木材搬出の機械化を五五%に引上げること。浮送、積荷及び荷卸工程の廣汎なる機械化。電気鋸四萬、木材搬出用トラクター四五〇〇、狹軌用蒸氣機關車四七〇、聯結自動車四〇萬の製造並に供給。

加水分解工業の發展、一九五〇年度の加水分解アルコール製造高は戦前水準の八倍。亞硫酸鹽アルコール及び加水分解工業にアルコール製造高七〇〇萬デカリットルの工場の新設。製材及びセルローズ・紙生産より生ずる廢物をアルコール、蛋白質酵母、有機染料その他化學製品の再製を確保。大規模なる木材化學工業の確立、第一に醋酸、醋酸鹽溶媒、加里鹽及びテレピン油生産の増加。

一六、製紙工業を一九四八年に復興し、更にこれを發展せしむること。一九五〇年度の製紙高は戦前の六五%増加。漂白紙の生産増加の確保、紙の技術的品質の點で工業の需要の保障。ウイスコース・セルローズ生産の發展。

技術的に完璧なる新施設即ち、最小限の電力消費を以て高き生産性を保障する特殊碾碎機械、製紙機械の吸取り用心棒装置の實施。高速度製紙機械を多式モーター傳導装置に轉換すること。最新式木質精溜用機械、生産力の高い灰汁再生用爐装置、セルローズ・紙生産工程の自動化。

一七、纖維工業及び輕工業の戦前水準の復活並にその引上げ。一九五〇年度の人絹生産高は戦前の四・六倍、ステイブル・ファイヴァーは九・六倍。織物、縫物、メリヤス製品の改善並に生産増強。

被占領地帯に於ける履物企業、原綿、亞麻、大麻、羊毛の第一次加工工場の復興並に發展。

シベリヤ及び中央亞細亞に於て戰前開始されたる紡績業の發展續行。五年間にノヴォシビルスク、アストラハン及びグルジヤ共和國の紡績コンビナート、アルタイ地方及び北部高架索の紡績工場、次で東部シベリヤの紡績コンビナートの建設並に操業實施。タシケント、スタリナバード及びフェルガンの紡績コンビナート、ウフア及びチェリヤピンスクの紡績工場の建設完了。クズネツ炭田地方の紡績工場建設開始。人造纖維工場四の建設完了。西部シベリヤの護謨製靴底工場一、スウェルドロフスク及びタンボフの靴下工場の建設及び操業實施。レニングラード及びボロストフの履物工場、オスタシコフの皮革工場、キエフ及びカリニンの靴底護謨製造工場、ヴィテールプスクの靴下工場の復興。

梳淨器、絲卷器、自働式絲卷機、高速經絲製作機、膠水塗裝機等の確立。

合成鞣皮及び良質人造皮革の生産確保。

一八、食料品工業の迅速なる復興並に發展、製品の質の改良。

肉類製品、動物性及び植物性油、砂糖、菓子類その製品の一九五〇年度生産高を戰前の水準以上に引上げ、一九四七年に食料品加工の戰前水準を復活すること。戰前に比し一九五〇年度の魚獲高一・五倍、鮮魚及び冷凍魚の産額一・八倍、魚類ヒレ肉三倍の増加。南樺太、千島列島及びカムチャツカに於ける漁業の復興。近代的漁撈技術による南樺太の漁業再建。

酪乳、魚類、野菜、果實の罐詰生産。冷凍果實、漿果及び野菜の生産並に乾燥酪乳の生産發展、野菜及び果實の乾燥化。食餌療法並に幼児用製品、魚肉製品、食料用濃縮物及びヴィタミンの大量生産化。ソヴィエト製シャンパン及び麥酒の大規模生産化。製品の保存並に質を保障する良好なる包装の復活。

製糖工場九二、罐詰工場二四の復興、製糖工場一〇、酒精工場七、製造工場三九の新設。肉コンビナート三六、冷蔵工場三八、酪乳罐詰工場一三、機械化バター・チーズ製造工場一二〇〇の新設。

製鹽企業の生産力を年産一四〇萬に増強。ウクライナに大鹽坑一の新設完了。ウラル、高架索アルタイ地方及びイルクーツク州の採鹽能力の増大。

製粉・碾割企業の復興及び建設、穀物倉庫の復興及び設置。一九五〇年末に一晝夜に於ける穀粒加工を二萬噸方増加、小麥粉の種別製粉及び各種品分け碾割の製造能力の増強。

連続的生産工程、連続的分離方法による植物性油の生産、食料脂肪の等價代替物を使用する石鹼の生産、生産工程統一の食料品工業への廣汎なる導入。

一九、一九四六年乃至一九五〇年の建設・据附事業プログラムの總額を一五三〇億留と定む。

その事業は燃料企業建設省、重工業企業建設省及び陸軍・海軍企業建設省關係のものなり。生産

能力の建設並に活動プログラムを保障するため聯邦各省所管の建設機關の發展並に強化。前衛的技術の廣汎なる發展、組立式構造を建設作業に利用、建設作業の機械化。建設用並に道路用機械製造。蒸氣掘鑿機生産の増強。土地發掘用、道路用、運搬用、積荷・荷卸用機械、電力及び壓搾空氣による建設用器具、建設材料生産用近代式施設の生産増強。建設機關の生産能力、採石場、修理工場及び建設用部品製造企業の發展。標準家屋、その材料及び部品の大量的工場生産化。建築材料及び部品工業の建設。

- 二〇、工業に於ける生産増加が計畫並に大建設プログラムの確保のため次の如く定む。
- (イ) 一九五〇年に於ける工業労働生産性は戦前の水準を三六%突破すること。
- (ロ) 一九五〇年に於ける建設部門の労働生産性は戦前の水準を四八%突破すること。
- (ハ) 一九五〇年度の工業製品の原價を一九四五年度のそれより一七%引下げること。
- (ニ) 一九五〇年度の建設活動費を一九四五年度に比し一二%引下げること。

農 業

一、農業部門は獨逸軍の占領せる地域に於ける農業及び畜産業の復興並に今後一層の發展を確保し、ソ聯邦農業全生産高を戦前水準以上に引上げること。

農業の急速なる復興及び一層の發展のため集團農場の公共的經營の鞏化並に組織・經營上の機械・トラクター配給所及び國營農場の鞏化を確保すること。

二、ソ聯邦全農業部門の生産高は五ヶ年計畫の終りには一九四〇年度に比し二七%の増加を定む。

國民に對する食糧補給の改善並に國內に於ける緊要なる穀物貯藏確立のため穀粒特に、小麦、米、豆類の著大なる増産の確保。五ヶ年の最終年に於ける穀物の年次收穫高一二萬七〇〇〇噸、平均收穫率ヘクタール當り一二ツェントネルの確保。

工業加工用農作物に關しては甜菜總收穫高二六萬噸、收穫率ヘクタール當り一九〇ツェントネル、原棉三一〇萬噸、ヘクタール當り一八・四ツェントネル、向日葵三七〇萬噸、ヘクタール當り一〇ツェントネルの確保。播種面積の復興、大麻、高質油用作物、煙草及びマホルカの著しき收穫率の増大確保。播種面積及び收穫率の増加、護謨樹の正しき配置及び開墾技術の改良による天然彈性護謨生産の原料資源の確立。

畜産部門は一九四五年度に比し五ヶ年間に馬匹頭數は四六%、牛三〇%羊及び山羊七五%、豚三倍の増加。早熟畜産特に、人工孵化・養禽場の廣汎なる設置に基く養禽の發展。

モスクワ、レニングラード、バクトー、ハリコフ、キエフ、ウラルの工業中心地、ドネツ炭田地

方、クズネツ炭田地方、ゴリキー、シベリヤ及び極東諸都市その他大都市の周邊に馬鈴薯・野菜及び畜産の一層の強化及び發達の措置を講じ、以て地元生産の野菜、馬鈴薯、乳及び肉類のそれから中心地に對する補給を完全に確保すること、また冬から春へかけての期間に各都市及び工業中心地の住人に早生蔬菜を補給するため溫床・溫室經營の發展確保に努むること。勞働者及び勤人の間に個人的或は共同的野菜栽培と菜園の收穫率向上の一層の發展、個人的養畜、養禽及び養蜂の發達を確保。酒精工場、澱粉・糖蜜工場地帯に於ける馬鈴薯生産、罐詰工場地帯に於ける野菜生産の増強。

果樹園、葡萄園、蜜柑類栽培の復興、集團農場、國營農場及び農家の附屬地に於ける果樹園、苜蓿、葡萄園の新設化。養樹園の復興及び擴充、その事業の改善。

三、増産計畫を實行するなめ農業に對する資本活動の總額を規定すると共に、投資の集中と分散を行ふ。五ヶ年間に於ける投資額は一九九億にして、その内譯は機械・トラクター配給所の復舊及び發展に對し八八億留、灌漑及び土地改良に對し二九億留となる。

四、收穫率の向上並に農産物總收穫高の増強、一九四六——一九五〇年の農業の最重要課題は農業文化の著しき向上及び前衛的農業科學の成果の廣汎なる利用に基く收穫率の向上並に農産物總收穫の増強なることを規定す。これがため全集團農場及び國營農場に於てムラサキウマコヤシ

及び多年生草の播種地及び適時に掘起され且つ良く耕作され休田を廣く利用して牧草を播く正しき循環播種の復活及び實施を完了すること。種子改良並に選擇作業の一層の改善、採入れた循環播種に必要な農場の需要を完全に確保する程度の種子生産をコルホーズ及びソフホーズに於て發展せしむること。耕地の鹽分化を速かに排除するため土地手入の正しき方式及び春時畑の良好なる耕作の確保。

穀粒、豆類、オリヅ等の播種に精選された良質品の確保、種類による地區別の計畫に準據して穀粒作物の連続的類別播種への移行。より生産力ある品種の繁殖及び確立。地元産の有機肥料(糞、泥炭)の完全なる利用と共にコルホーズ及びソフホーズに於ける礦物肥料の適用擴大。工業加工用農作物(棉花、亞麻、大麻、甜菜、煙草、茶、彈性護謨樹)の必要とする礦物肥料の増加、その他作物特に、野菜及び馬鈴薯の礦物肥料の需要増加を確保すること。施肥作業の機械化に必要な機械類の大量生産化。一九五〇年度に於ける農業向け礦物肥料の供給高は窒素、磷酸鹽及び加里肥料は五一〇萬噸、磷灰岩の碎屑は四〇萬噸。草原地帯及び森林・草原地帯のコルホーズ及びソフホーズに於ける耕地保護用植林の復興、早成樹木及び果樹、灌木等の耕地保護用森林の設置。

五、灌漑網の復舊及びこれが一層の發展のために五ヶ年間に灌漑面積を六五萬六〇〇〇ヘクタ

ール、干拓面積を六一萬五〇〇〇ヘクタール夫々増加す。白ロシア共和國及びバレビンスク草原の干拓網の復舊、ヤフロマ河の浸水地に於ける干拓網の建設。ゴロドナヤ草原のキーロフ冠稱灌溉網、クルガンスキー、オルト・トカネスキー及びテジェンスキーの三貯水池、並にネヴィノムイスキー灌溉用運河の建設完了。クル・アラクシンスカヤ低濕地とヴォルガ・アクトウビンスカヤ浸水地の灌溉工事及びクラスノダール地方に於ける稲作用耕地の灌溉工事の展開。大都及び工業中心の近郊に注水を必要とする蔬菜栽培を盛ならしむるため極く簡單なる灌溉網を廣く建設。注水を必要とする播種及び植付のために灌溉地の完全なる使用を保障するためこれら灌溉地の水掛け状態を良好ならしめ水量過多を防止、フェルガン、ゴロドナヤ草原、南ホレズム、ヴァフシスカヤ盆地、ムガンスカヤ草原及びその他諸地區に於ける早期灌溉地の輪作を實施、灌溉網の技術的使用を改善、灌溉集水網の修理と清掃とを適時實施、農作物の注水度及び注水期を考慮して灌溉水の使用を調整、灌溉網の建設及び清掃活動の機械化水準の引上げ。農作物播種のために干拓地の使用を完全に確立しこれが正しき使用を實施。蔬菜、馬鈴薯及びその他の農作物の播種並に注水耕區設定のためコルホーズ及びソフホーズに於ける貯水池工事を再開繼續。貯水池に於ける魚類の養殖及び水禽の蕃殖を促進。

六、農耕活動の機械化の復活及びこれが一段の發達を保障、そのために優秀なる農業技術の使用、土地の耕作、作物の手入れ、收穫物取入れに必要なトラクター及び農業機械を農業に確實に供給。一九四六年より一九五〇年までの期間に三二萬五〇〇〇臺を下らざるトラクターと農業機械、價額四五億留（一九二六—二七年の價格）を農業に導入。

五年間に九五〇の新機械・トラクター配給所を建設、これに小修理工場及び經營設備を附設。機械・トラクター配給所の修理基地建設を擴大し、そのモーター修理工場及び機械工場の數を二一〇に、機械・トラクターの大修理工場の數を五一〇に増設、その要員を充實。

最新式トラクター、土地耕作機、播種機、刈取機、正確なる自走コンバイン、藁と穀殻とを分離する装置を有するコンバイン、甜菜刈取コンバイン、甜菜積載機、原棉收穫用刈取機、蔬菜用耕作・收穫機並に蔬菜の種子作りに使用する農機、トラクター附用具の製作と使用を保障。トラクター・農業機械製作關係の工場及び科場研究所に於ける製作活動を組織、トラクター及び農業機械の國家試験を實施、農業技師、機械技師、畜産技師、獸醫、整地技師、その他農業専門技術者の養成並に機械・トラクター配給所、コルホーズ、ソフホーズの熟練要員の大量養成を遺憾なからしむ。

コルホーズ、機械・トラクター配給所、ソフホーズの電化の一層の發達を保障。村落に於ける小水力發電所の建設、水力源なき地區に於ては地元燃料による蒸氣動力及び瓦斯動力使用の火力

發電所の建設を展開。

七、畜産部門に於ては社會化生産的畜産の完全復舊及び獨逸の占領下にありし諸地區コルホーズの役畜頭數の増加、これら地區の諸コルホーズに於ける社會化畜産の一層の發達を圖り、これにより五ヶ年間にソ聯邦の全生産的家畜頭數の戦前の水準を突破。

家畜品種改良ソフホーズ、國營家畜品種改良所、コルホーズの家畜品種改良農場を復活及び新設。五ヶ年計畫の最終年にコルホーズ及びソフホーズが品質良好にして生産性の高い家畜の確保を著しく増大するため最も生産的な家畜の選擇または生産性の高い種畜との異種交配による家畜の品種改善及び一層の完成化。正しき家畜品質區分の確保。

酪乳及び肉用畜産の復興並に一層の發展を確保。有角家畜の飼養及び肥滿化。

馬匹頭數を復活するため仔馬の飼養を著しく増強すること。

種馬用厩及びコルホーズ用馬匹品種改良農場網の擴張、國立種馬場の鞏化、草原地帯に種馬飼養所の開設。

コルホーズ及びソフホーズに於て、またコルホーズ農民個人用に養豚の急速なる復興を確保、肉類生産品中に於ける豚肉の比重の引上げ。

牧羊(細毛羊及び半羅紗用羊)の復興並に發展、特に北高架索、ウクライナ共和國、カザツク共

和國、西部シベリヤ及びヴォルガ流域地方の諸地域にそれを確保、毛皮用、肉・脂肪用羊の飼養並に普及、五ヶ年計畫最終年に於ける平均羊毛剪切率を一九四五年度に比し三〇%向上。

穀粒播種地を有するコルホーズに於ける養禽の組織、コルホーズ農家、個人經營農場、労働者及び勤務者の養禽及び養兔の發達。コルホーズ農民に對し農業アルテリ規約の基準に従ひ家畜を供與。

八、飼料基地の根本的改善並に家畜に對する良質乾草、根果、サイロ飼料、多汁飼料及び牧場の確保のため先づ第一に畜産の發達せるコルホーズ及びソフホーズに於て、また各地區コルホーズ及び國立家畜品種改良所に於て正しき飼料用循環播種を實施、高質乾草の收穫増大を確保、正常なる天然牧場利用化により牧場に於ける家畜の給與を改善、牧場を追はれた諸地區に井戸及び飼育所の建設並に冬期牧場に於ける貯藏飼料の確保、飼料用根果及びサイロ飼料用作物の播種面積の擴大及び收穫率の増強、サイロ飼料の普及並にサイロ飼料設備建設の確保、大都市及び工業中心地の周邊に養豚場の復興並に發展、砂糖工場、火酒釀造所及び澱粉・糖蜜工場等その廢物を利用する諸企業に於ける養豚場の復興並に發展。

コルホーズ、ソフホーズ、農民、労働者及勤務者の養蜂を發展、養蜂の能率増進方法の採用。

九、コルホーズの公共的經營の鞏化並に發展のためコルホーズの公共的富即ち、その所得、不分

割フオンド、建築物、家畜、備付物品及び保險並に種子フオンドの一層の増加を確保。公共的コルホーズ用土地及びコルホーズ財産の保護を保障。農業アルテリ規約及びコルホーズ民主々義即ち、選舉制及び農業アルテリ役員總會に對するコルホーズ幹部の一切の報告の義務に對する違反禁止。

正しき労働の組織とコルホーズ所得の分配に際し労働日の役割を鞏化並に高めることによりコルホーズに於ける労働生産性を向上。コルホーズ内の作業班並に作業組を個人別又は組別出來高計算の適用により鞏化。農作物の收穫高引上げ、家畜の飼養並にその生産性の向上に對する褒賞用の追加貸銀支拂の實施。コルホーズ農民が國家に對し農産物の供出を果すべき規律を強化。

一〇、今次五ヶ年計畫に於てコルホーズ建設部門ではソフホーズの農場の模範的指導を保障、農作物の收穫並に畜産の生産性を引上げ、トラクター、コムバインその他農業機械により生産高を高め、生産品の原價を引下げること。

家畜の生産性の水準を引上げ、一九五〇年度にはその水準を大家畜は一六%羊及び山羊は三二%、豚は二八%突破すること、農耕作業並に畜産の基礎的の工程の機械化を完遂、ソフホーズに於ては不撓の定住労働者要員を確保し、彼等に附屬土地・施設を與へ且つ個人用住宅建設に國家が援助すること。

運 輸

一、鐵道運輸部門 一九五〇年度に於て鐵道輸送の一晝夜平均積取量一一萬五〇〇〇輛、貨物取扱哩數五三二〇億廔籽の確保。獨逸占領下にありし諸地區の鐵道輸送の根本的復興。ドンバス中央地方、ドンバスクリヴォイ・ロード、ドンバス沿ヴォルガ高架索よりの諸出口、モスクワレニングラード、モスクワキエフリヴォフ、モスクワスモレンスクミンスク、キーニヒスベルグ、モスクワヴェリキーエ・ルーキリガ方面に於ける鐵道取扱可能量の戦前水準の突破。

ウラル及びシベリヤ工業界の完全且つ不斷の改新の保障。

最も重要な方面に於ける鐵道の技術的改善並に鐵道の冬季運行、就中電氣機關車及び内燃機關車の利用による冬季運行の確保。輪轉材料を次の如く充實せしむ——幹線用蒸氣機關車六一六五臺、同電氣機關車五五五臺、同内燃機關車八六五臺、貨車四七萬二五〇〇輛、客車六〇〇〇輛、貨車總數中九三%迄を自動制動機式に、貨車總數中七五%迄を自動連結式に改装。輪轉材料の完全復舊並に機關車及び車輛の修理改善。

鐵道に於ける車輛廻轉數を一九五〇年度には一九四五年度の一〇・九晝夜より七晝夜に短縮、

鐵道輸送距離を一九五〇年度には一九四五年度の七九〇千より六九〇千に短縮、工業企業用副線に於ける車輛の停留を極力短縮。

五ヶ年計畫に於ける鐵道運輸の資金活動額を四〇一億留と決定。

ドネツ炭田及びクリヴォイ・ローグ鑛産地に於ける鐵道の根本的復舊、ドンバスとレニングラード及び高架索とモスクワを繋ぐ總延長一萬五〇〇〇千に亘る鐵道諸線の根本的復舊。占領下にありし諸鐵道の大小橋梁一八〇〇、就中ドネーブル、ドン、ドネストル、ネヴァ、ネマン、西ドヴィナ、ヴォルホフ、南ブグ諸河鐵橋の根本的復舊及び建設。

一、五〇〇の鐵道驛、一、三〇〇の機關車庫、一、二八の車輛庫及び車輛修理所の復興及び建設。五ヶ年間に總延長七二三〇千の鐵道線を新設、この中にはスタリンスク・マグントゴルスク幹線を含む。總延長一萬二五〇〇千の復線の敷設及び復舊。鐵道一萬〇三〇千の自働式閉鎖信號装置の設置。普通驛及び分岐驛の擴張並に技術的裝備工事の續行、機械化設備二一の建設及び復舊。

現存鐵道網に五萬千の新軌條を追加敷設、この中には三〇〇〇千の路線改造及び二萬九〇〇〇千の大修理を含む。

占領期間中に破壊されたる機關車修理及び車輛修理工場の復舊、並に機關車及び電氣機關車の

修理工場一一、内燃機關車修理工場一、車輛修理工場一一、部品製造工場三の新設。

一九四六——五〇年の間に鐵道運輸従業員用住宅地五五〇萬平方米の使用確保。

一九四六——五〇年の間に鐵道運輸方面に對する軌條四五〇萬應、軌條接合材二〇〇萬應、枕木一億八五〇〇萬本の供給、並に重量軌條の製造及び敷設。

鐵道運輸に於ける荷積、荷卸作業の機械化水準を七五%に引上げ。

獨逸占領下にありし諸地區に於ける副線の復舊、現存副線の改造及び新副線の建設確保、殊にウラル及びシベリヤに於ける企業用副線の新設確保並に工業企業の運輸部工場の作業改善。

二、河川運輸部門 一九五〇年度河川運輸の貨物取扱量を戦前に比し三八%方増加。

獨逸占領軍により破壊されたる諸地區に於ける河川運輸の大規模復興、一九四八年度に於けるドネーブル、プリピャーチ、ドン、クバン、ヘマン、西トヴィナ、スヴィリの諸河及びラドガ、オネガ兩湖の船舶、港灣及び埠頭の復舊、これら地區に於ける河川運輸の貨物取扱量の戦前水準への引上げ。

ヴォルガ河とその支流、シベリヤ及び北部諸河川の利用と改善。自走船及び非自走船の往復率の向上、貨物送達速度と非自走船の利用度を一九四〇年度に比し平均二五%方引上げ。

現存河川港及び埠頭の完備、河船の荷積、荷卸しの完全なる機械化、一九五〇年度に於いてす

すべての荷積、荷卸し作業の機械化を七五%まで確保、即ち河港及び埠頭の積換機械（起重機、電氣車、昇降機、運搬装置）の整備。

スターリン名稱白海―バルト運河の復舊とマリンスキー水路の復舊起工。一九五〇年度に航路の全距離を一一萬五〇〇〇軒に延長。

五ヶ年間に河川運輸力三〇萬噸方の増大を確保。造船所五の建設及びこれがための機械、補助機械、船舶用艤装品の生産遂行。河船建造の際に於ける造船技術諸達成の應用。

船舶修理諸企業及び木造船船造船所の技術的整備、木造船の建造及び船舶修理のために良質の造船用木材を確保。加盟各共和國の到る所に地元輸送のための小河川利用を擴大。加盟各共和國内に小河川用自走船及び非自走船の建造基地を設置。

三、海運

一九五〇年度に於て海運の貨物取扱量を戦前に比し二・二倍に増加。

自走船舶四〇萬噸、非自走船舶九萬噸を含む海上船舶五〇萬噸を補充。

アゾフ・黒海及びバルト海水域に於ける海上船舶の修理並に極東に於ける港灣建設の完成。港灣建設の近代的技術・設備を以てする港灣復舊の實施。港灣の整備、荷積、荷卸、倉庫内作業の機械化、車上起重機及び移動起重機の増加、港内運搬作業に對する最も完全なる機械化の廣範に亘る採用（自働索引機、起重トラック、自働木材運搬機）——以上に上る港灣の機能強化。

深海用繫船場の數を一九四〇年に比して一・七倍に増加、主要海港に於ける大型遠洋航路船碇泊深度の確保。

バルト海及び黒海水域に於ける船舶修理工場の完全復舊。船舶修理工場三の新建設。一九五〇年度に於ける商船隊修理基地の能力を戦前に比し二・五倍に増加。

一九五〇年度に船舶揚陸設備（船渠、スリップ）の數を一九四〇年度に比して一・八倍に増加。海上貿易用船舶の國內造船基地の擴張、これがため一九四六年より五〇年迄の間に黒海水域に海上輸送船建造の造船工場一、バルト海水域にトロール船及び海上曳航船建造の造船工場一を建設。

一九五〇年度に北洋航路を正規の本航路たらしめるための事業を完遂。

國內造船事業の強力なる發展。一九五〇年度に造船事業を一九四〇年度に比して二倍に増加。ソ聯邦に於ける有力且つ強力なる商船隊の建造を保障。ソヴェト商船隊のために新造船及び新海上基地を確保。

四、自動車輸送及び自動車道路

五ヶ年間に國內自動車基地を戦前に比して二倍に増加。道路上輸送にディーゼル・モーター、高壓ベンチン・モーター、地元産各種燃料使用の瓦斯筒附及び瓦斯發生爐附自動車並に自動積卸自動車を廣く使用。自動車の使用及び技術的設備の改善。自動車の滞留と空荷走行距離を極力短縮。一般自動車事業の創立、貨物輸送用聯結機及び貨物容器の

使用。自動車事業のために修理工場を確保。車庫及び器具の生産發展。自動車による地區間貨物輸送の實施。短距離鐵道輸送を自動車輸送に切替へ。五ヶ年間に全聯邦的並に各共和國の意義を有する完成自動車道路網を一萬一五〇〇軒方擴張。全聯邦的意義を有する現存道路網の復舊及び大修理。

五、航空輸送 近代式旅客用及び輸送用飛行機を増加することにより民間航空輸送の飛行機數を増加。航空路網を一七萬五〇〇〇軒に擴張。航空聯絡の復活と發展、第一次的にモスクワと加盟各共和國の中心及び州都市を結ぶ主要空路の復舊及び發展、並に北部シベリヤ及び極東の諸地區の航空聯絡の復活並に發展。

加盟各共和國及び自治共和國の中心と遠隔の諸地區とを結ぶ地元空路の復舊と發展。全聯邦的意義を有する航空路に四季を通じ定期航空を可能ならしめ、又主要空路に於ける夜間飛行を可能ならしめる技術的施設の取付け。近代式大型及び快速輸送機使用のための空港一六の修復。現存及び新規建設中の空港に於ける航空ステーション二〇の復舊と建設。

農業及び林業の害蟲驅除、住民の衛生對策並に空中寫眞撮影のための特殊航空機的大量利用。

六、通信手段の復舊と發展 獨逸占領下に在りし諸地區の通信手段、特に無電通信及び主要通信線の最新技術による完全なる復舊及び擴張。電信の一般計畫に基きモスクワと各共和國、各

地方及び各州の中心との間に、加盟共和國とその州都市との間に通信施設を完成。地區中心、村ソヴィエト、機械トラクター配給所及びソフホーズの完全なる電話化。主要電話・電信線の復舊と七八〇〇軒の延長。有色金屬製電線五萬軒の架線、主要電信線に近代式高性能機械を裝備。電信・電話・ラジオ送信機五五臺を設置、中二〇臺は極東、カザフスタン、中央亞細亞、南高架索との無電通信のために中央諸地區に設置。自動電話局の設置に特に注意を向けることにより電話局の能力を増強。ラジオ放送の一層の發達を保障、新ラジオ放送局二八を設置、一九五〇年度にラジオ受信網を戦前に比し七五%方増大。

モスクワのテレヴィジョン中央局の復舊と技術的改裝並にレニングラード、キエフ及びスヴェルドロフスクに新テレヴィジョン中央局を設置。住民の郵便通信施設を全面的に改良、農村に郵便局用建物五〇〇〇を新築、郵便物及び定期刊行物運搬に際し自動車及び飛行機を廣く使用。

三、國民生活の物質的並に文化的水準と向上計畫

一、生産の増加 商品取引の擴大、勤勞者の文化的・生活的施設に對する支出額の引上げにより新五ヶ年計畫中に國民福祉の戦前の水準を回復するのみならず、國民所得の戦前の水準を三〇%以上引上げ。

一九五〇年度の國民所得額（一九二六年、一九二七年の價格を基準）を蓄積基資及び消費基資の相對的增加と睨み合せて一七七〇億留と決定。

二、勞働並に要員養成 一九五〇年度に於ける又聯邦國民經濟に於ける勞働者及び勤務員の數を三三五〇萬人、國民經濟關係勞働者及び勤務員の賃銀基資を二五二三億留と決定。全物價の一貫的引下げ、勤勞者の住宅條件及び文化的・生活的施設の改善の保障。勞働生産性の増加に伴ひソ聯邦國民經濟關係勞働者及び勤務員の一ヶ年の平均賃銀を一九五〇年度に於て一九四〇年度の水準を著しく越えて六〇〇〇留に増額。

生産の重要諸部門への勞働力の誘引及び勞働者常員の確保のために重工業諸部門（石炭工業、冶金工業、石油工業）に於ける勞働者及び技師、技師の賃銀水準の高率保障。勞働者の勞働出來高累進拂制を改善、技師、技師の生産計畫遂行及び超過遂行に對する褒賞金制を改善し、賃銀支拂に於ける褒賞金の意義を不斷に高める。最新工學及び勞働の發達せる技術的武裝を考慮して新定技術基準を工業に廣く適用。技師及び技手の熟練要員を以て勞働の基準を確保。生産に於ける勞働條件（安全、換氣、照明、衛生・生活施設）の一層の改善に對する施策。

國民經濟の重要部門に於ける熟練勞働者の確保及び生産要員の技術的訓練の質を引上げるため一九五〇年迄に工場學校、職工學校及び鐵道學校の一ヶ年の新卒業生徒數を一二〇萬名に増加。

五ヶ年間に國家勞働豫備軍組織に於て若き熟練勞働者四五〇萬名を養成。

個人別教育、班別教育及び講習によつて生産諸職種の熟練要員の養成を廣く實施、五ヶ年間に七七〇萬名の新勞働者の技術教育を實行、一三九〇萬名の熟練度の引上げを行ふ。

コルホーズ員の勞働日に對する現物及び金錢給與をコルホーズに於ける勞働生産性の増加、農作物の收穫改善、畜産の生産性増加に基き一九四〇年度に比して増額。

工業、建設及び運輸に勞働力を吸引するためコルホーズ及びコルホーズ員との契約に基く勞働力の募集制を復活。

熟練常員勞働者の確保、生産の一層の機械化、勞働の組織化、給與、勞働者の住宅條件の不斷の改善。

三、文化及び保健 都市及び農村勤勞者の文化的・生活的施設に對する國家支出、即ち社會保險に對する支出、教育、保健、國家勞働豫備要員の教育に對する國家の支出、多兒母及び孤獨母に對する扶助料、祖國戰爭の軍勤務者及び廢兵の子弟に對する扶助料その他を一九五〇年度には一九四〇年度の水準を二・六倍だけ超過する一〇六〇億留に増額。

一九四六年より一九五〇年までの間に國家企業及び國家機關より勞働者及び勤務員の社會保險に繰入れられる資金を六一六億留に決定。一九五〇年度に於ける初等學校、七年制中學校及び

一〇年制中學校の數を一九萬三〇〇〇に、これら學校の生徒數を三一八〇萬に増加。普通義務教育は都市及び農村を通じ何れも七歳より開始。

若き労働者及び農民のために多數の學校を設置し祖國戰爭中一時獨逸の占領下にありし幾多の領地區の青年男女にして正規の教育を受け得ざりし者の教育を保障。

高級及び中級の熟練度を有する要員教育の質を向上。

一九五〇年度に於ける映畫設備の數を一九四〇年度の二萬八〇〇〇に對し四萬六七〇〇に増加各地區の中心地及び中小都市に常設映畫施設を設置、村々に常設映畫網を擴張。常設劇場の數を九八に、都市及び農村に於ける俱樂部及び大衆圖書館の數を二八萬四九〇〇に夫々増加。

一九五〇年度に於ける幼稚園の兒童數を二二六萬に、即ち一九四〇年度に比して二倍に増加。祖國戰爭に於てその両親を喪ひたる遺兒を國家の負擔を以て子供の家に於て完全に教育。

占領下にありし諸地區の敵に破壊されたる諸學校、科學施設、博物館、劇場、映畫館、俱樂部圖書館、讀書室の復舊。

一九五〇年度に於ける病人用寢臺の數を一九四〇年度の七〇萬に對し九八萬五〇〇〇に、託兒所の收容數を一九四〇年度の八五萬九〇〇〇に比して一二五萬一〇〇〇に増加、子供及び婦人のための相談所、子供の病院網及び牛乳調理所網を擴張。

労働者、農民及び知識人のための休息の家及び療養所網を完全に復舊。

療養所の同時收容數を二五萬名に、休息の家に於けるそれを二〇萬名に増加。

祖國戰爭の癡兵のために醫療施設を確保、その中には病院、休息の家及び療養所を含む。

祖國戰爭癡兵のために完全にして良質なる義具の生産を實施。醫療品工業諸企業に於ける醫藥、醫療器具、醫療設備の生産を一九五〇年度に一二億留に即ち一九四〇年度に比して八五%方増加。

良質の近代醫療器具及び確實なる近代醫藥の大量生産實施。

四、住宅及び都市の建設 占領下に在りし諸地區の都市労働者町及び村落の破壊された住宅の復舊並に都市、村落に於ける勤勞者の著大なる住宅要求を充すために新住宅建設を展開。

ソ聯邦國民經濟の資本活動總額に對する住宅建設の投資比率を第三次五ヶ年計畫期の一〇・五%に比し一四・五%に引上ぐ。一九四六年より一九五〇年までの間に於ける住宅建設に對する資本活動の額を第三次五ヶ年計畫の一五五億留に對し四二〇億留に増加。

住宅建設の質の極力鞏化及び改良。各省及び各官廳の六五〇〇萬平方米及び地元ソヴィエトの七四〇萬平方米を合算する七二四〇萬平方米の國營住宅の五ヶ年間に於ける復舊並に新設計畫を確認。都市及び労働者町に於ける面積一二〇〇萬平方米の個人住宅の復舊及び建設を住民の資

金及び一般國家貸付によつて五ヶ年間に實施することを計畫。

住宅條件の改善、工業の一定労働要員の確保及び諸企業に於ける労働力の流動防止のために住宅經營組織の力により農家式の二戸建及び三戸建の住宅の建設を行ひ、これを長期貸付によつて労働者、技手、技師、勤務員に賣却。各省及び住宅經營組織に對しその住宅地域並に復興途上にある諸都市の住宅地域に於ける基本的整備、水道敷設、排水工事、舗装工事、浴場、洗濯場の設置を命ず。

獨逸占領下にありし諸都市の水道、排水施設、都市運輸、都市經營發電所、浴場の復舊。住民の都市經營施設の水準を一段と向上せしむるために現在の都市經營企業を發展せしめると共に新規の都市經營建設を實施、五ヶ年間に一六の都市に水道を、一三の都市に排水施設を、八の都市に電車交通を、二〇の都市にバス交通を夫々實現。

都市の經營事業のために電車の車輛一七五〇、最新式トロリバス三〇〇〇を製造、諸都市に於ける五ヶ年間の乗合自動車數を二萬二〇〇〇臺、乗客用タクシーを一萬五〇〇〇臺方増加、諸都市及び労働者町の街路及び廣場の舗装を強化、完全舗装廣場の擴張。

コルホーズ及び農民の資金並に國家の貸付を以てする五ヶ年間に於ける農村住宅の復舊及び新設數を三四〇萬戸と決定、尙それには占領下にありし諸地區の二二四萬戸を含む。

貸付供與及び建設材料、既製部分品の賣渡により農民の私有住宅の修復及び建設を援助。

地元ソヴィエト及び諸企業の住宅の大修理實施が最も重要な課題なるに鑑み諸都市に於けるその費用額を五〇億留と決定。

五、商品取引及び消費 一九五〇年度に於ける國營商業及び消費組合商業の各種商品取引額を（一九四五年度の物價水準引下げを考慮して）二七五〇億留に増額、尙これは一九四〇年度商品取引總額に比して二八%方の超過である。

一九四六年より一九四七年迄の間に切符配給制を廢止、合理的なるソヴィエト商業に移行。パン、小麥、粉碾割、マカロニ製品の切符制を一九四六年秋以後廢止。

良質の食糧品、衣服、履物の製造及び販賣を擴充。肉製品、魚製品、砂糖、菓子類、木綿織物、毛織物、絹織物、履物用皮革を含む國營商業及び消費組合商品を一九五〇年度には一九四〇年度より増加。同時に文化的及び經濟的必要品の生産及び販賣を増加。

一九五〇年度に於ける日常必要品の生産及び一般向け販賣數量を次の數量に増加——アルミニウム製器、エナメル製器、陶磁器——二億六〇〇〇萬個、サモワル——二〇萬個、コップ——一億六〇〇〇萬個、家具（不變價格にて）——二億留、裁縫機械——四五萬臺、各種時計——七四〇萬個、蓄音器——一〇〇萬個、ラジオ受信機——九二萬五〇〇〇個、オートバイ——一三萬五〇〇〇臺、自轉車

—一〇五萬臺、獵銃—三五萬挺、寫真機—五三萬個。

一九四六年度以降木材、鐵、釘、煉瓦、窓硝子、藥品、その他の建設・修理資材等の各種商品の取引を實施。

都市及び村落に於ける國營商業網及び消費組合商業網並に商業基地網及び倉庫網を復活強化。

諸都市に於ける専門店網、農村に於ける農民用品販賣地區百貨店網及び一般商店網を夫々復活擴張。都市、地區中心地及び大住民地に於ける喫茶店網を擴大。

コルホーズ商業の一層の發展を保障、コルホーズ市場網の復活擴大、市場に於ける農民用工業品の販賣擴充。

四、加盟各共和國の國民經濟復興及び發展計畫

一九四六年より一九五〇年に亘るソ聯邦國民經濟復興及び發展五ヶ年計畫の加盟各共和國別課題を本令第二部及び第三部に定められたる全ソ聯邦に對する課題の範圍内に於て左の如く決定。

ロシヤ共和國

ロシヤ共和國の一九五〇年度に於ける主要産業計畫を左の如く決定。

銑鐵九五〇萬噸、鋼鐵一六〇〇萬噸、石炭四一九〇萬噸、石油一四五〇萬噸、電力五七二億キロワット時、金屬切斷機二萬八五〇〇臺、自動車四五萬七〇〇〇臺、トラクター八萬二〇〇〇臺、冶金設備六萬六七〇〇、蒸氣タービン二二〇萬一〇〇〇キロワット、蒸氣ボイラー三九萬九〇〇〇キロワット、セメント六三四萬三〇〇〇噸、窓硝子四八二〇萬平方米、木材搬出二億三〇〇〇萬立方米、紙九九萬六〇〇〇噸、綿織物四一億八五五〇萬米、毛織物一二億九〇〇〇萬米、皮製履物一億五六三〇萬足、植物性油三二萬四四〇〇噸、砂糖四六萬三〇〇〇噸、肉七三萬一〇〇〇噸、動物性油脂一五萬八〇〇〇噸、漁獲高一八八億四五〇〇萬噸、酒精六〇三〇萬デカリットル。

一九四六年より一九五〇年に亘る資本活動總額を本共和國に所屬する地域の經濟に對する一四一億五〇〇萬留を含めて一四五〇億留と決定。占領下にありしロシヤ共和國諸地區の資本活動總額を三〇四六億留と決定。

一九四六年より一九五〇年までの間に次の諸件を實行、銑鐵生産量三三〇萬噸の熔鑛爐と鋼生産量六八〇萬噸の鋼精鍊裝置計一三基の建設と火入れ。壓延板の年次生産量四六〇萬噸の壓延機三五臺の製作と使用。出炭量七九八〇萬噸の炭坑の開発と操業。占領下にありし諸地區に於ける熔鑛爐六基の建設と火入れ。

鋼生産量一四〇萬噸の鋼精鍊裝置の建設と火入れ、壓延板五〇萬噸の生産能力を有する壓延機

九臺の製作と使用、出炭量二六〇〇噸の炭坑の開発と操業。占領下にありし諸地區に於ける黑色及び有色冶金工場、機械製作工場、化學工業工場の復舊と冶金及び機械製作新基地の創設。

レニングラード地區に於ける冶金工場の建設起工、極東に於ける冶金工場の建設、西部シベリヤに於ける黑色冶金事業とその原礦基地の擴張、スターリン名稱クズネツ工場用原礦の搬入縮減一九四六年より一九五〇年までの間に次の諸件を實行、年次出炭量二〇一萬噸の鑛山の開發と操業。トウラ及びリペツ兩鑛山の出炭量を擴大、クルルスクの磁氣偏差地區に於ける鐵鑛山の操業。

ウラルに對する動力用燃料搬入を縮減するため五ヶ年計畫末期頃までに出炭量を一九四五年度に比して五五〇萬噸増加、露天掘により出炭量の大増加を保障、特にスヴェルドロフスタ州のヴェセロフ産炭地及びバシキール自治共和國のクニルガジンスキー産炭地の採掘を開始。極東に於けるコークス用石炭の試掘及び採炭。ウラルに於けるカリユーム・コンビナートの建設、バシキール自治共和國に於ける曹達工場の建設完成、アニリン染料工場二、ワニス塗料工場一、プラスチック工場一の建設。

マイコープ、グロースヌイの兩地區及びダレストン州に於ける石油鑛場の完全復舊、沿ヴォルガ諸地區に於ける採油量の増加、チュヴァン自治共和國、サラトフ及びクイブィシエフの兩州及びウラル地區に於ける新油田の開発保障。ウフタ及びサハリンの石油鑛場の大擴張。モスクワに對する瓦斯供給のため及び沿ヴォルガ諸地區に於ける動力用、工學用及び生活用のため沿ヴォルガ諸地區に於ける天然瓦斯の採取を極力増加。極東シベリヤ、北高架索の諸地區及びレニングラード州に液體燃料の大工業を創設。

發電所省管發電所の四〇〇萬キロワットを含めて全發電所の發電力を七〇八萬五〇〇〇キロワットに増加。占領下にありし諸地區の發電所及び電力網を復舊。

ウラル諸地區に於ける水力發電所の建設を擴大、發電力九三萬九〇〇〇キロワットの大中水力發電所及び發電力六一萬五〇〇〇キロワットの小水力發電所の設置。

ルイビンスク水力發電所の建設を完成、ルイビンスク貯水池の下水門に於ける普通船舶の航行を實現、ヴォルガ、オカ兩河に於ける新水力發電所の建設に着手、ウラルに於ける水力發電所、特に中小發電所の建設を強行、五ヶ年間に三四萬五〇〇〇キロワットの使用を保障。先づ第一にカメヤ河に大水力發電所を、他の諸河には中水力發電所八を建設・使用。ウフア河の水力發電所の建設に着手、ウラルの小河川に小水力發電所を建設。

工業原料を確保するため地質調査活動を全面的に發展、石炭、石油、天然瓦斯、鐵鑛、アルミニウム鑛、銅、鉛、亞鉛、ニッケル、錫、金、モリブデン、ヴォルフラム鑛、雲母、瑪瑙、石棉

黒鉛、セメント、硝子原料の獲得量を一層増加。A+Cの部門に屬する工業原料の試掘量次の如し——鐵礦一億一七〇〇萬噸、滿鐵礦四〇〇萬噸、閉鎖豫定炭坑の鑛區三八八よりの年次豫定出炭量二億二一〇〇噸、油井五八〇五、天然瓦斯六〇〇億立方米、アルミニウム工業用ボーキサイト二〇〇〇萬噸、鱗灰石一億四〇〇〇萬噸、黒鉛五〇〇萬噸、A+C一の部門に屬する雲母二二萬三〇〇〇噸。

占領下にありしロシア共和國諸地區の三三萬五〇〇〇紡錘を含む一四二萬紡錘の操業開始。西部シベリヤに於ける紡績工業基地の創設活動を續行並に東部シベリヤに於ける新基地の創設。

一九四六年より一九五〇年までの期間に次の諸件を實行、本共和國の輕工業、食糧工業、地元工業、産業組合、建設資材工業、地元燃料生産の復活と一層の發達を保障。

共和國に所屬する地域の經濟に於ては總發電力一二萬六〇〇〇キロワットの都市經營發電所、總出炭量二六〇萬噸の炭坑、生産力三萬三〇〇〇噸の壓延機、紡錘二一萬八〇〇〇個の活動を開始。

一九五〇年度に於ける共和國附屬地諸企業の工業製品生産計畫を三四一億留と決定、尙本決定額中には産業組合に屬する地元國營工業の生産額一三五億留を含む。

湖及び河川の貯水池化に全力を傾注。ルイビンスク貯水池に於ける有用魚の養殖を廣く實施、

漁撈の産業化を實現。養魚事業の戦前の水準を回復且つこれが突破を保障、湖沼に於ける水禽の蕃殖。

モスクワの經濟的及び文化的發展を更に大ならしめると共に住民の生活條件の改善を圖るために都市再建の一般計畫の遂行活動を繼續。五ヶ年間にモスクワ市ソヴィエトの住宅地、三〇〇萬平方米に住宅を建設、現存住宅の復舊修理を實施、その便宜度の向上。

モスクワ地下鐵の第四次建設を繼續。同市の乗客用驛の改造、電車の輪轉材料の増加、トロリバスの車輛數を一〇六〇臺、タクシーを二八〇〇臺増加、乗合自動車數を三〇〇〇臺に増加。郊外鐵道交通の電化を繼續。五ヶ年間に同市内に完成路三〇〇萬軒を開通。

一九四六年度内にサラトフモスクワ間の瓦斯輸送管の工事を完成、五ヶ年間に二〇萬戸の瓦斯化を實現、木質燃料の使用量を節減。同市の暖房設備工事を繼續、これがために總發電力二一萬五〇〇〇キロワットの火力發電所を建設、暖房網七五軒を架設。

我國工業及び文化の最大の中心地たるレニングラードを復興、戦前の工業生産水準に到達、更に高度の技術基地たらしむ。レニングラードに於ける造船事業及び優秀なる機械製作事業の發展に特別の注意を向ける。レニングラードに於ける地下鐵建設に着手、先づ第一にこれを完成する。

一九五〇年度に於けるロシア共和国の播種面積を九九四〇萬ヘクタールと決定、その中コルホーズに於ける播種面積は八四一〇萬ヘクタール、穀類作物用播種面積は六八〇〇萬ヘクタール、その中コルホーズに於ける穀類作物用播種面積は六一〇〇萬ヘクタール、加工用作物の播種面積は六二〇萬ヘクタール、その中コルホーズに於ける加工用作物の播種面積は五九〇萬ヘクタール、蔬菜瓜類及び馬鈴薯用播種面積は七四〇萬ヘクタール、その中コルホーズに於ける蔬菜瓜類及び馬鈴薯用播種面積は三五〇萬ヘクタール、飼料用作物の播種面積は一七八〇萬ヘクタール、その中コルホーズに於ける飼料用作物播種面積は一三七〇萬ヘクタール。

占領下にあるシロシヤ共和国諸地区の一九五〇年度に於ける播種面積を二九五〇萬ヘクタールと決定、その中コルホーズに於けるそれは二四七〇萬ヘクタール。クリミヤ及び北高架索に於ける良質葡萄の栽培を復活、擴大。ソチ地区に於ける蜜柑類栽培の發展。

一九五〇年末に於ける家畜の頭数を次の如く決定、馬七五五萬五〇〇〇頭、その中コルホーズに於けるそれは六一八萬七〇〇〇頭、牛三五〇八萬七〇〇〇頭、その中コルホーズに於けるそれは一四八四萬頭、羊及び山羊五八八一萬四〇〇〇頭、その中コルホーズに於けるそれは二八〇六萬頭、豚一五一九萬七〇〇〇頭、その中コルホーズに於けるそれは六九八萬七〇〇〇頭。

占領下にあるシロシヤ共和国諸地区の一九五〇年度末に於ける家畜数を次の如く決定、馬一三

四萬八〇〇〇頭。その中コルホーズに於けるそれは一〇二萬八〇〇〇頭、牛九一五萬八〇〇〇頭、そのうちコルホーズに於けるそれは四一三萬一〇〇〇頭、羊及び山羊一五〇八萬頭、その中コルホーズに於けるそれは八三六萬五〇〇〇頭、豚五〇〇萬頭、その中コルホーズに於けるそれは一五九萬三〇〇〇頭。

占領下にある諸地区の鐵道と鐵道驛、河川網、海港と河港の復舊。小河川の運輸力を廣く確保、地元水力發電所の建設にこれを利用。

一九四六年より一九五〇年までの間に於けるロシア共和国諸都市の國營住宅建設計畫を四四五九萬五〇〇〇平方米と決定、その中には地元ソヴィエトの四二二萬八〇〇〇平方米を含む。一九四六年より一九五〇年までの間に占領下にあるシロシヤ共和国諸都市の國營住宅建設計畫を一一二六萬一〇〇〇平方米と決定、その中には地元ソヴィエトの二六四萬三〇〇〇平方米を含む。

占領軍のために破壊されたる諸都市の住宅及び都市經營事業の復活。スタリングラード、ロストフ、クラスノダール、スタヴロポリ、シンフェローポリ、セバストーポリ、ヴォロネジ、オリョール、クルスク、スモレンスク、カリーニン、ヴェリーキエ・ルーキ、ブリヤンスク、カルガ、ノーヴゴロド、ブスコフがこれに含まる。

一九五〇年までに學校數を一一萬六〇〇〇に、生徒數を一八二二萬九〇〇〇名に、病人用寢臺數

を五四萬五〇〇〇に夫々増加すべき文化建設及び保健の主要課題を決定。ロシヤ共和國に屬する自治共和國、自治州、民族管區の國民經濟及び文化の全面的向上發展を保障。

ソヴィエト機關及び經濟機關の全活動に於て今回ソ聯邦に編入されたる新しき州及び地域——ケーニヒスベルク州、ペチエンガ地區、ベツアモ、南サハリン及び千島列島に對する當然の注意を保障。

ウクライナ共和國

一九五〇年度に於けるウクライナ共和國の主要産業の生産計畫を次の如く決定。

銑鐵九二〇萬噸、鋼八八〇萬噸、石炭八六一〇萬噸、石油三二萬五〇〇〇噸、電力一三六億九〇〇〇萬キロワット時、コークス一五五〇萬噸、セメント二〇六萬五〇〇〇噸、金屬切斷機五九五〇臺、自動車二萬五〇〇〇臺、幹線用機關車一〇〇〇臺、二軸式貨車五萬五五〇〇臺、トラクタ一二萬五〇〇〇臺、冶金機械設備三萬五〇〇〇噸、苛性曹達四四萬八〇〇〇噸、過磷酸鹽八六萬噸、鹽一九三萬噸、粉砂糖一六三萬七〇〇〇噸、肉二四萬五〇〇〇噸、動物性油脂四萬噸、漁獲高八萬噸。

一九四六年より一九五〇年までのウクライナ共和國の資本活動總額を四九五億留に決定、その

中には本共和國に所屬する地域の經濟に對する五四億六九〇〇萬留を含む。

ドンバス及び沿ドネーブルの冶金工場を復舊、年次總生産量一〇〇〇萬噸の銑鐵精鍊鑄爐三〇基、生産力八四〇萬噸の鋼精鍊設備の建設、壓延能力六五〇萬噸の壓延機五八臺の据付。

一九四六年より一九五〇年までに於けるウクライナ全發電所の總發電力を二五七萬四〇〇〇キロワット増加。レーニン名稱ドネーブル水力發電所の復舊、總發電力二〇萬三〇〇〇キロワットの農業用及び地元一般用小發電所の建設に着手。都市經營發電所に九萬五〇〇〇キロワットの電力を導入。

ドンバス石炭工業の急速なる復舊と一層の發展を保障、一九四六年より一九五〇年までの間に總出炭量七七五〇萬噸の炭坑をスタリノ及びヴォロシロフグラードの兩州に開設。右岸ウクライナ及び共和國西部諸州の産炭地の試掘を廣範に互り實施、一九五〇年度に於けるウクライナ共和國の總出炭量を八六一〇萬噸に増加、褐炭の出炭量を六〇〇萬噸に増加。ダシヤヴァーリエフ間に瓦斯輸送管を敷設、使用。

工作機械製作事業、機械製作工場、就中炭業、冶金、動力の機械設備製作工場、機關車及び車輛の製作、電氣機械製造、農業機械製造の復舊。

貨物自動車年産六萬臺の自動車工場一、自動車組立工場一を建設。

ウクライナに於ける化學工業の諸工場を復舊（その中に窒素及び過磷酸鹽工場、西ウクライナのカリユーム鑛山を含む）。新過磷酸鹽工場一、ワニス染料工場一及びプラスチック工場一を建設。

一九四六年より一九五〇年までの間に一晝夜の甜菜處理總量六萬噸の製糖工場、酒精工場、製油工場、罐詰工場を復舊及び建設。ウクライナ共和國に於ける一九五〇年度の食糧工業の生産額を四四億留に増加。肉コンビナート五五、冷凍工場三三、養禽コンビナート九七、牛乳加工工場四六、機械化牛酪・乾酪工場一〇〇を復舊及び建設。

一九四六年より一九五〇年までの間にクリヴオイ・ログの産鐵地に於て鐵鑛四億五〇〇萬噸、滿俺鑛七五〇〇萬噸、カリユーム鹽八〇〇〇萬噸、黒鉛七七〇萬噸、石膏七〇〇萬噸の工業要量の試掘。新炭坑開設のために出炭量七三〇〇萬噸の炭坑區一三九を準備。右岸及び西部ウクライナに於ける褐炭の採掘鑛區設定のために試掘作業を実施、ドロゴブイチシキー地區及びアゾフ・黒海地區に於ける地質調査活動を廣く展開、西ウクライナに於ける工業用石油獲得のために油井三二五を増加、ロムナ地區に於ける工業的試掘を完了。

ウクライナ共和國への工業用木材の搬入量を縮減するため一九四六年より一九五〇年までの間にウクライナ東部諸州の伐材を制限し西部諸州の製材を増加することによりウクライナに於ける四七六〇萬立方メートルの工業用木材の調達と送定の全般的計畫を決定。一九四六年より一九五〇年ま

での間に植林面積二五萬二〇〇〇ヘクタールの確保、疎林地に對する植林作業の實施及び速成種樹木の植付により林業復活活動を廣く展開。

セメント、硝子、煉瓦、石灰の諸工場、金屬製品工場、標準家屋材料、建設部分品材料、衛生裝置、屋根材、高硬質石膏の諸工場を含む建設資材生産企業の復舊及び新建設、建設資材生産企業のために確實なる地元燃料・動力基地を設置。

生産に於ける共和國工業及び地元工業の役割を増大。

共和國經濟の需要を充たす主要製品の生産を増加。小工業企業の組織及び建設を廣く展開、特に一九四六年より一九五〇年までの間にドンバス及びウクライナ西部諸州に於ける出炭量四六〇萬噸の小炭坑及び水平坑、煉炭五萬噸の製造力を有する泥炭加工工場、硝子一三〇萬平方メートルの生産力を有する硝子工場、煉瓦九億個の生産力を有する煉瓦工場の開設。並に壓延機、建設資材生産企業、金屬加工工業、木材加工工業、輕工業、紡績工業、食糧工業の操業確保。本共和國に所屬する地域の諸企業に於ける一九五〇年度の工業製品生産額を九二億留と決定。その中には地元國營工業及び生産組合の生産額三一億留を含む。果實及び蔬菜の生産を増加。

湖及び河川の貯水池化に全力を傾注、養魚事業を發展。

一九五〇年度に於けるウクライナ共和國の播種面積を三〇五〇萬ヘクタールと決定、その中コ

ルホーズに於けるそれは二一三〇萬ヘクタール。穀類作物の播種面積は一九六〇萬ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは一四一〇萬ヘクタール。

白ロシア共和國

金屬切斷機四三二五臺、窓硝子五〇〇〇萬平方米、木材一萬一一〇〇〇立方米、燐寸一五億五〇〇〇萬箱、肉四萬六〇〇〇〇〇〇噸、動物性油脂一萬噸。

一九四六年より一九五〇年までの間に於けるウクライナ共和國の資本活動總額を六九億五〇〇〇萬留と決定、その中に共和國所屬地域に對する二四億二二〇〇萬を含む。

年産一三萬噸の泥炭加工工場を建設。農業機械製造工場、工作機械製作工場、生量産一八萬噸のセメント工場、ゴメリ硝子工場、木材加工コンビナート、燐寸軸工場の復舊及び操業確保、全生産力六〇萬平方米の住宅建設コンビナート三の建設を完了。

トラクター工場及び自動車工場を設置、自動車工場の建設を完了。

発電力二四萬三〇〇〇キロワットの発電所を復舊及び開設、總発電力一萬六〇〇〇キロワットの小水力発電所を建設、ゴメリ、モズイリ、その他の共和國諸都市に於ける都市經營発電所の復舊。

共和國所屬地域の經濟發展のために発電力一萬キロワットの発電所、生産力一萬噸の地元壓延工場、鑄鐵製管一萬噸の生産力を有する導管鑄造工場、生産力一六萬五〇〇〇〇噸のセメント工場、總生産量一二億五〇〇〇萬個の煉瓦工場の操業確保。

生産力一一五〇臺の工作機械製作工場、工具製造工場、泥炭採掘機械設備製造工場、電気モーター製造工場、履物工場四の操業確保。

肉コンビナート一七、養禽コンビナート一〇、牛乳加工工場一一、罐詰工場二、牛酪・乾酪工場一五〇を復舊及び建設。

共和國所屬地域の工業製品の生産額を二二〇萬留に決定。

共和國西部諸州の湖及び河川利用の復活。

一九五〇年度の播種面積を五三〇萬ヘクタールに復活、その中穀類作物用播種面積は三二〇萬ヘクタール、コルホーズに於けるそれは一八〇萬ヘクタール、加工用作物の播種面積は三四萬四〇〇〇ヘクタール、蔬菜・瓜・馬鈴薯の播種面積は一萬ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは八萬九〇〇〇ヘクタール。

農耕地二七萬ヘクタールの干拓活動を実施。一九五〇年度末に於ける家畜頭数を次の如く決定
馬七七萬頭、その中コルホーズに於けるそれは三〇萬頭、牛二八六萬頭、その中コルホーズに於

けるそれは八五萬二〇〇頭、羊、山羊二九〇萬頭、その中コルホーズに於けるそれは六〇萬頭、豚二六〇萬頭、その中コルホーズに於けるそれは三〇萬頭。

文化建設及び保健に關する主要課題を次の如く決定、一九五〇年度に於ける學校數を一萬一三七五に、生徒數を一五〇萬名に、病人用寢臺を三萬臺に夫々増加。

一九四六年より一九五〇年までの間に於ける白ロシア共和國諸都市の國營住宅建設を七〇萬平方米と決定、その中地元ソヴィエトのそれは六五萬平方米。占領軍のために破壊されたる諸都市先づ第一にミンスク市の住宅及び都市經營事業の復活活動を実施。

ウズベツク共和國

一九五〇年度に於けるウズベツク共和國の主要生産を次の如く決定。

鋼八萬六〇〇〇噸、石炭一一三萬噸、石油一〇六萬六〇〇〇噸、電力二一億三五〇〇萬キロワット時、過磷酸鹽三〇萬噸、セメント二七萬噸、綿織物一億六〇九〇萬米、絹織物一四〇〇萬米、履物六一五萬足、植物性油一七萬三〇〇〇噸、粉砂糖五五〇〇噸、酒精原料一三〇萬デカリットル、肉二萬噸、動物性油脂一九九萬九〇〇〇噸、魚二萬二五〇〇噸。

ウズベツク共和國の一九四六年より一九五〇年までの資本活動總額を三九億留と決定、その中

共和國所屬地域のそれは一二億六六〇〇萬留。

總發電力三〇萬三〇〇〇キロワットの發電所を建設及び使用、その中に水力發電所の二六萬二〇〇〇キロワットを含む。黑色冶金の改造工場の建設を完成、人造纖維工場の建設、過磷酸鹽工場二の建設及び操業確保、フェルパンの紡績工場に於ける紡錘二萬八〇〇〇、タシケント紡績コンビナートの紡錘六萬の設置と操業確保。農業機械製作工場の生産力を擴充、紡績機械の生産を確立、中小水力タービン及び化學機械設備の生産量を増加。石灰・窒素製造工場の新設に着手、銅コンビナート、亞鉛工場の建設。アングレンスキー産炭地の炭坑建設を強行。

油井六六五の増設、ヴォルフラム鑛及び天然硫黃の工業要量の増加並にアクモリンスキー銅鑛産地の開發準備。

共和國所屬地域經濟に於ける總發電力一萬九〇〇キロワットの都市經營發電所及び出炭量一〇五萬噸の炭坑の操業確保。

共和國所屬地域に於ける國營工業及び産業組合の生産額を一九五〇年までに二八億留に復活、その中に地元國營工業及び産業組合の五億五〇〇〇萬留を含む。乾草果實の生産量を著しく増加。

一九五〇年度に於ける播種耕地を三三一萬三〇〇〇ヘクタールと決定、その中コルホーズに於

けるそれは二九八萬八〇〇〇ヘクタール、穀類作物の播種耕地は一三七萬一〇〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは一二二萬五〇〇〇ヘクタール、加工用作物の播種耕地は一三萬一〇〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは一〇八萬七〇〇〇ヘクタール、蔬菜・瓜・馬鈴薯の播種耕地一一萬二〇〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは七萬三〇〇〇ヘクタール、飼料作物の播種耕地六八萬五〇〇〇ヘクタール、その中コルホーズにおけるそれは六〇萬ヘクタール。果樹栽培、葡萄栽培及び養蠶の一層の發展を保障。

棉の播種面積を九五萬五〇〇〇ヘクタールに増加及び收穫率の引上げ。

一九五〇年末に於ける家畜頭数を次の如く決定、馬四九萬八〇〇〇頭、その中コルホーズに於けるそれは四五萬八〇〇〇頭、牛の頭数は一七六萬五〇〇〇頭、その中コルホーズに於けるそれは六七萬頭、羊及び山羊の頭数は九六五萬頭、その中コルホーズに於けるそれは七五〇萬頭。

ウズベック共和國諸都市に於ける一九四六年より一九五〇年に亘る國營住宅建設計畫を九〇萬平方米と決定、その中に地元ソヴィエトの六萬平方米を含む。タンケントに於けるトロリバスの運轉開始、タンケント及びテルメズに於ける水道の給水力を増加。

文化建設及び保健に關する主要課題を次の如く決定、即ち一九五〇年度に學校數を四七四〇にその生徒數を一〇八萬五〇〇〇名に、病人用寢臺數を二萬九六〇〇臺に夫々増加。

カザツク共和國

石油一二〇萬噸、電力一八一〇キロワット時、過磷酸鹽二八萬噸、綿織物一九〇一萬米、毛織物二八八萬米、履物六八萬足、粉砂糖七萬一〇〇〇噸。

一九四六年より一九五〇年までに於けるカザツク共和國の資本活動の總額を八八億留と決定
カラガンダ炭田に炭坑一七（出炭量一六五〇萬噸）アクチュピンスの産炭地に炭坑四（出炭量二七萬噸）エキバストウフスク産炭地に出炭量六〇萬噸の採炭所一を開設。發電所の發電力を三九萬八〇〇〇キロワット増加、その中水力發電所に於ける三九萬八〇〇〇キロワットを含む。共和國所屬地域の經濟に於て出炭量四〇〇〇噸の炭坑を開設。

カザツク改造工場の建設を完成。冶金工場の建設に着手。

ジエズカズガンスク銅産地に坑ける銅鑛の採掘量を著しく増加、チムチンスク鉛工場の原料基地鞏化。

セメント總生産量五三萬噸のセメント工場の建設及び操業確保、過磷酸鹽工場の新設。

共和國內に分離器の製造を創設、農業機械工場、セミパラチンスクの皮革工場、アルマ・アタの紡績工場の完全操業を確保。肉コンビナート工場、冷凍工場、牛酪製造工場、肉罐詰工場の操

業確保及び建設。共和國所屬地域の一九五〇年度工業生産額を一三億留と決定、その中に地元國營工業及び産業組合の生産額三億七〇〇〇萬留を含む。炭坑建設のために出炭量三五〇〇萬噸の五九の鑛區を準備、その中に出炭量二三九〇萬噸のカラガンダ炭田のコークス用石炭を含む。工業用石油の油井を一〇八〇増加。曹達工業のために新原料基地を準備。

一九五〇年度に於ける播種耕地を七二八萬六〇〇〇ヘクタールと決定、その中コルホーズに於けるそれは六〇〇萬二〇〇〇ヘクタール、穀類作物の播種用耕地は五三三萬六〇〇〇ヘクタールその中コルホーズに於けるそれは四六八萬一〇〇〇ヘクタール、加工用作物の播種用耕地は三四萬ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは三一萬六〇〇〇ヘクタール、蔬菜・瓜・馬鈴薯の播種用耕地を増加。良質煙草の植付けを増加。

一九五〇年末に於ける家畜頭数を次の如く決定、即ち馬一六一萬五〇〇〇頭、その中コルホーズにおけるそれは一一九萬一〇〇〇頭、牛四四〇萬頭、その中コルホーズに於けるそれは二三〇萬頭、羊及び山羊一九〇五萬頭、その中コルホーズに於けるそれは一五〇〇萬頭、豚三九萬二〇〇〇頭、その中コルホーズに於けるそれは二〇萬二〇〇〇頭。

水利の一層の發達、灌水農業諸地區に於ける灌漑網の擴大並に放牧地區に於ける正常なる給水の確保。

カラガンダ及びジエスカズガンスキー兩工業地區の工業及び住民地に對する水利の確保、ヌラ河のサマルカンド貯水池の水量を増加、チェンゲン河のジエスカズガンスキー貯水池を建設。

クズイル・オルチンスキー堤と左岸運河の建設に着手。二〇萬ヘクタールの耕地に對する灌漑網の整理を實施、灌漑用水の更に經濟的なる使用を保障、北方及び草原地區の諸コルホーズに灌漑耕區を設定するために小灌漑網を廣く建設。

鐵道運輸の著しき發達を保障、五ヶ年間に新鐵道路線九五六軒及び第二路線八〇七軒を開通。

カザック共和國の諸都市に於ける一九四六年より一九五〇年までの國營住宅建設計畫を六一七萬三〇〇〇平方米と決定、その中地元ソヴィエトの四萬五〇〇〇平方米を含む。

文化建設及び保健に關する主要課題を次の如く決定、即ち一九五〇年度に於ける學校數を七九八五に、生徒數を一三〇萬に、病人用寢臺を三萬四〇〇〇に夫々増加。

チヨルジヤ共和國

工業品の生産高は一九四〇年に比し一九五〇年度には五〇%増加し、五ヶ年間の投資額四一億留とす。銑鐵三三萬噸、鋼二八萬噸、石油二七四〇萬噸、電力一三億キロワット時、自動車一萬五〇〇〇臺、四分の三金屬切斷機一七〇〇臺、毛織物三七九萬五〇〇〇米、絹織物六八三萬米。

アゼルバイジャン共和国

工業用生産高一九四〇年に比し一九五〇年には一八%増加、國民經濟總投資額五九億留、石油採掘高は五ヶ年間に一・五倍増加。油送管の製造と石油工業用動力基地、機械製作基地の擴張、ミンゲチャウル水力發電所建設とこれに伴ふ灌漑事業の進捗。農業における棉花、穀物、蔬菜、果樹の栽培面積擴張とその増産。

リトワニヤ共和国

一九五〇年度に於けるリトワニヤ共和国の主要産業の生産計畫を次の如く決定、即ち電力一億九〇〇〇萬キロワット時、泥炭八二萬二〇〇〇〇噸、密硝子七〇萬平方米、木材搬出三〇〇〇〇萬立方米、紙一萬七〇〇〇〇噸、動物性油脂一萬二〇〇〇〇噸、肉二萬八〇〇〇〇噸、粉砂糖二萬五〇〇〇噸、酒精五〇萬デカリットル、漁撈高一萬五〇〇〇〇噸。

一九四六年より一九五〇年度に亘るリトワニヤ共和国の資本活動總額を一五億三五〇〇萬留と決定、その中に共和國所屬地域の經濟に對する七億六〇〇〇萬留を含む。

泥炭企業の復舊と新設、泥炭採掘の機械化を保障、一九四六年より一九五〇年までの間に發電

所（總發電力八萬三〇〇〇キロワット）を復舊、使用。金屬製品工場、農業機械工場、セメント工場、毛織物工場、紡績コンビナート、皮革工場、肉コンビナート、冷凍工場の復舊及び操業確保並に一九四六年より一九五〇年までの間に於ける牛酪工場及び乾酪工場の完全復舊。一九五〇年度に於ける共和國所屬地域の諸企業に於ける工業製品の生産額を六億留と査定、その中に地元國營工業及び産業組合の生産額一億二五〇〇萬留を含む。

一九五〇年度に於けるリトワニヤ共和国の播種面積を二五〇萬ヘクタールと決定、その中穀類作物用一六〇萬ヘクタール、加工作物用一二萬二〇〇〇ヘクタール、蔬菜・瓜・馬鈴薯用二三萬四〇〇〇ヘクタール。

一九五〇年度の家畜頭数を馬四九萬頭、牛一〇五萬五〇〇〇頭、羊及び山羊六三萬頭、豚一〇萬頭と決定。

一九五〇年度の文化建設及び保健に關する主要課題を次の如く決定、即ち學校數を三三六九、その生徒數を三九萬名に、病人用寢臺を九〇〇〇に夫々増加。

一九四六年より一九五〇年までのリトワニヤ共和国諸都市の國營住宅建設計畫を六九萬七〇〇〇平方米と決定、その中には地元ソヴィエトの三〇萬平方米を含む。占領軍に破壊されたるヴィリニウス、カウナス、クライペダ、シャウレ、パネヴェジスの諸都市の住宅及び經濟の復舊活動

を實行。

一二二

モルダヴィヤ共和國

一九五〇年度に於けるモルダヴィヤ共和國の主要産業の生産計畫を次の如く決定、即ち電力六〇〇〇萬キロワット時、木材搬出七萬立方米、靴下七八三萬足、葡萄酒三〇〇萬デカリットル、植物性油二萬五〇〇〇噸、動物性油脂一一〇〇噸、肉一萬五〇〇〇噸、粉砂糖一萬四〇〇〇噸、漁撈高一萬五〇〇〇噸。一九四六年より一九五〇年までの間に於けるモルダヴィヤ共和國の資本活動總額を一二億四五〇〇萬留に決定、その中に共和國所屬地域に於ける經濟の四億七三〇〇萬留を含む。石炭、石油、地元建設材料の調査及び試掘活動を組織。一九四六年より一九五〇年までの間に工業用石膏一五〇萬噸を試掘。發電力四〇〇〇キロワットの火力發電力一を復舊、發電力六〇〇〇キロワットの新發電力一を建設。總發電力四〇〇〇キロワットの小水力發電所を建設、セメント一萬噸の生産力を有するセメント工場、煉瓦一八二〇萬個の生産力を有する煉瓦工場、石膏一萬噸の生産力を有する石膏工場の操業を確保。果實の生産を復活擴大。ルイブニッキ製糖工場を完全に復舊。葡萄酒の總年産量四〇〇萬デカリットルの葡萄酒工場二六を復舊、四を新設。葡萄酒の工業生産基地を組織、このためにシャンパン工場、コニヤック工場、普通葡萄酒工

場を建設。チラスポリに硝子製造工場を建設、製材工場を復舊。共和國所屬地域の諸企業に於ける一九五〇年度の工業製品の生産額を四億留と決定、その中には一九五〇年度に於ける地元國營工業及び産業組合の生産額一億一三〇〇萬留を含む。

ドネストル河の航行を開き、地元の自走船及び非自走船の建造のため造船所を建設。

モルダヴィヤ共和國の一九五〇年度播種面積を二〇二萬ヘクタールと決定、その中穀類作物用一五〇萬ヘクタール、加工作物用二七萬三〇〇〇ヘクタール、蔬菜・瓜用七萬二〇〇〇ヘクタール、飼料作物一三萬ヘクタール。一九五〇年末に於ける家畜頭数を次の如く決定、馬二三萬頭、牛七〇萬頭、羊及び山羊一六〇萬頭、豚三八萬頭。果樹の栽培を復活、果樹園及び葡萄園網を組織、カラガン灌溉網を復活。

文化的建設及び保健に關する主要課題を次の如く決定、即ち一九五〇年に學校數を一九二〇にその生徒數を四二萬二〇〇〇名に、病人用寢臺數を九六〇〇に夫々増加。

占領軍によつて破壊された諸都市先づ第一にキシニョフ、チラスポリの住宅及び都市經營事業の復活活動を實施。一九四六年より一九五〇年までの間に於けるモルダヴィヤ共和國諸都市の國營住宅建設計畫を四九萬六〇〇〇平方メートルに決定、その中には地元ソヴィエトの一七萬五〇〇〇平方メートルを含む。

一二三

四〇〇觔。

一九四六年より一九五〇年に互るキルギス共和国の資本活動總額を一二億留と決定、その中には共和国所屬地域經濟の三億三七〇〇萬留を含む。

發電力三萬八〇〇〇キロワットの發電所、出炭量八二萬五〇〇〇觔の炭坑の建設及び操業確保一萬觔の棉を梳き得る棉梳工場の建設及び操業確保。袋製造工場及び紡績工場、生産力三三萬觔のセメント工場、肉コンビナートの建設。

カント・ルイバチエ鐵道の敷設を完成。共和国經濟に於て總發電力一萬二〇〇〇キロワットの水力發電所、出炭量一二萬五〇〇〇觔の炭坑の操業確保。一九五〇年度に於ける共和国所屬地域諸企業の工業製品生産額を三億六〇〇〇萬留に決定、その中に地元國營産業及び生産組合の生産額七五〇〇萬留を含む。一九四六年より一九五〇年までの間に總出炭量五五〇萬觔の石炭區二〇を開設、工業用の鉛、水銀、アンチモニー、天然硫黄、石膏の試掘。

一九五〇年度に於ける播種面積を一一〇萬二〇〇〇ヘクタールと決定、その中コルホーズに於けるそれは九四萬九〇〇〇ヘクタール、穀物用播種面積は七〇萬四〇〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは六二萬ヘクタール、加工用作物用播種面積は一〇萬八〇〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは九萬九〇〇〇ヘクタール、蔬菜・瓜・馬鈴薯用播種面積は

二五萬四〇〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは二一萬ヘクタール、棉栽培用播種面積は五萬三〇〇〇ヘクタール。良質煙草の播種面積及び葡萄植付面積を擴大、一九五〇年度に於ける家畜頭数を次の如く決定、即ち馬四九萬頭、その中コルホーズに於けるそれは四三萬頭、牛五六萬頭、コルホーズに於けるそれは二六萬頭、羊及び山羊は四三〇萬頭、コルホーズに於けるそれは三三〇萬頭、豚六萬頭、コルホーズに於けるそれは二萬頭。

クラスノレチ灌溉網の改造を完成。オトウズ・アドイルスク地帯の灌溉工事を實施。オルト・トコイスク貯水池及び大チュイスク運河の建設を擴張。九一四六年より一九五〇年までの間に於ける灌水面積を二萬二〇〇〇ヘクタールに増加。

一九四六年より一九五〇年までのキルギス共和国諸都市の國營住宅建設計畫を二一萬五〇〇〇平方米と決定。その中地元ソヴィエトの二萬五〇〇〇平方米を含む。フルンゼ市に於ける水道、運河、トロリバス線の開通工事の完成及び使用。文化建設及び保健に關する主要課題を次の如く決定、即ち一九五〇年度に於ける學校數を一五八五に、その生徒數を二七萬八〇〇〇名に、病人用寢臺を七二〇〇に夫々増加。

タヂツク共和国

一九五〇年度に於けるタヂク共和国の主要産業の生産計畫を次の如く決定、即ち石炭四四萬噸、石油六〇萬噸、電力一億八〇〇〇萬キロワット時、セメント一萬五〇〇〇噸、綿織物一七八〇萬米、絹織物五一〇萬米、靴下四一四萬足、履物一三七萬足、植物性油一萬噸、肉八三〇〇噸。

一九四六年より一九五〇年までの間に於けるタヂク共和国の資本活動總額を一二億留と決定。その中には共和国所屬地域に於ける經濟の三億一八〇〇萬留を含む。

發電力二萬八〇〇〇キロワットの發電所の建設及び操業確保、その中に總發電力二萬四〇〇〇キロワットの水力發電所を含む。スタリナバドに於ける綿織コンビナートの生産量一萬八五〇〇紡錘の増加、油脂工場と機械工場の建設及び操業確保、ムラヴィーキー坭石コンビナートの建設完成。鉛・亜鉛鑛山の建設に着手。共和国所屬地域經濟に於ける出炭量一〇萬噸の炭坑及びジッヂンスク産炭地への狹軌鐵道の活動開始。紡績工場、窓硝子工場の操業確保。共和国所屬地域諸企業に於ける一九五〇年度工業製品の生産額を四億五〇〇〇萬留と決定、その中には地元國營工業及び産業組合の生産額八三〇〇萬留を留む。乾燥果實の生産量を著しく増加。

一九四六年より一九五〇年までの間にヴォルフラムの工業要量を準備、石炭、ヴォルフラム、アンチモニー、水銀の新産地の試掘を廣く實施。

一九五〇年度に於けるタヂク共和国の播種面積を九三萬五〇〇〇ヘクタールに決定、その中コルホーズに於けるそれは八九萬六〇〇〇ヘクタール、穀類作物用播種耕地は六三萬三〇〇〇ヘクタール、コルホーズに於けるそれは六一萬五〇〇〇ヘクタール、加工用作物用播種面積は一八萬一〇〇〇ヘクタール、コルホーズに於けるそれは八萬六〇〇〇ヘクタール、蔬菜・瓜・馬鈴薯用播種面積は二萬九〇〇〇ヘクタール、コルホーズに於けるそれは二萬ヘクタール、飼料作物用面積は九萬二〇〇〇ヘクタール、コルホーズに於けるそれは八萬五〇〇〇ヘクタール、長纖維種棉花の播種を極力發展、ヴァフシスカヤ盆地の灌漑活動を完了、ギッサリスカヤ盆地の灌漑網及びカニバダムスキー地區の集約化を確保。五ヶ年間に灌水面積一萬七八〇〇ヘクタールの増加を保障、一九五〇年度末に於ける家畜頭数を次の如く決定、即ち馬一七萬七〇〇〇頭、牛七二萬頭、その中コルホーズに於けるそれは二八萬頭、羊及び山羊三六三萬頭、その中コルホーズに於けるそれは二〇〇萬頭。

一九四六年より一九五〇年までの間に於けるタヂク共和国諸都市に於ける國營住宅建設計畫を二九萬一〇〇〇平方米と決定、その中には地元ソヴェートの三萬二〇〇〇平方米を含む。レニノバド及びホログの水道を建設。スタリノバドに於けるトロリパスの運轉開始。

文化建設及び保健に關する主要課題を次の如く決定、即ち一九五〇年度に學校を三一二三に、

生徒数を三〇萬一〇〇〇名に、病人用寢臺数を七三〇〇に夫々増加。

一三〇

アルメニヤ共和國

主要産業の生産計畫を次の如く決定、即ち電力八六〇萬キロワット時、自動車タイヤ一八萬個、過磷酸鹽一萬五〇〇〇噸、苛性曹達一萬二〇〇〇噸、金屬切斷機五〇〇臺、セメント一二萬噸、窓硝子三萬平方米、綿織物四四八〇萬米、絹織物二六〇萬米、毛織物四〇萬米、靴一五四〇萬足、履物二五五萬足、植物性油六〇〇〇噸、砂糖六五〇〇噸、葡萄酒二〇〇萬デカリットル、肉八四〇〇噸、動物性油脂八〇〇噸。

一九四六年より一九五〇年までの間に於けるアルメニヤ共和國の資本活動總額を一四億二〇〇〇萬留と決定、その中に共和國所屬地域經濟の三七四〇萬留を含む。

五ヶ年間に於ける水力發電所の發電力を現存の水力發電所を擴充することにより一〇萬二〇〇〇キロワット増加、先づ第一にザンガ河に於ける新水力發電所の操業を確保。ケーブル製造工場及びタービン年産三〇〇臺の水力タービン製作工場の建設及び操業確保。

カジヤランスキー銅モリブテンの採取を確保、アルミニウム生産を組織、綜合彈性ゴムの生産を四倍に、曹達の生産を二倍に増加、自動車製造を著しく増大。エレヴァンに於ける羅紗製造工

場の建設を完成、レニナカンスキー紡績コンビナートの着色工場の建設完成。砂糖工場の建設を完成、硝子工場を建設、罐詰工場を擴張。果實罐詰、葡萄酒の生産を増加、コニヤック工場の新設、共和國工業の中に農業機及び農業用具の生産を創設。金屬器製造工場、硝子器製造工場、陶磁器製造工場、機械修理工場の建設。一九五〇年度に於ける共和國所屬諸企業の工業製品生産額を七億留と決定、その中に地元國營工業及び産業組合の生産額一億六〇〇〇萬留を含む。

一九五〇年度播種面積を五一萬二〇〇〇ヘクタールと決定、その中コルホーズに於けるそれは四八萬ヘクタール、穀類作物用播種面積三三萬二〇〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは三萬一五〇〇〇ヘクタール、加工用作物播種面積四萬ヘクタール、蔬菜・瓜・馬鈴薯播種面積四萬一五〇〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは三萬ヘクタール、飼料用作物播種面積九萬八〇〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは九萬五〇〇〇ヘクタール。

棉の播種面積を一萬五〇〇〇ヘクタールと決定、多年生作物の植付面積を擴大。煙草の播種面積を擴大、收穫率を増加。

スターリン名稱、ノルクスキー、下ザギンスキー、ガルニンスキーの諸灌溉運河を復舊、フラズダヤンスキー草原の灌溉工事に着手。一九四六年より一九五〇年に亘り灌水面積を二萬三五〇〇ヘクタール増加。

一九五〇年末に於ける家畜頭数を次の如く決定、即ち馬三萬二五〇〇頭、牛六七萬頭、その中コルホーズに於けるそれは三五萬頭、羊及び山羊一六八萬頭、その中コルホーズに於けるそれは一〇萬頭、豚八萬頭、その中コルホーズに於けるそれは四萬八〇〇〇頭。家畜の品種を改良、細毛羊の飼養を擴大。

一九四六年より一九五〇年までの間にアルメニヤ共和國諸都市の國營住宅建設計畫を二八萬四〇〇〇平方米に決定、その中には地元ソヴィエトの三萬四〇〇〇平方米を含む。水道管を新設、運河の擴張、エリヴァンに於ける電車線を一五軒延長。レニナカムの水道を擴張。

一九五〇年度に於ける文化建設計畫を擴大、學校數を一一七八に、生徒數を二九萬五〇〇〇名に、都市及び農村地區に於ける病人用寢臺數を六七〇〇に夫々増加。

トウルクメン共和國

一九五〇年度に於けるトウルクメン共和國の主要生産計畫を次の如く決定、即ち石炭六萬噸、石油一一〇萬四〇〇〇噸、電力一億五〇〇〇萬キロワット時、過磷酸鹽五萬噸、セメント四萬噸、窓硝子二〇〇萬平方米、綿織物工場二二〇〇萬米、毛織物八二萬米、絹織物八二萬五〇〇〇米、靴下三一〇萬足、履物一四七萬足、肉罐詰四〇〇萬個、綿七〇〇噸、動物性油脂四〇〇噸、植物

性油二萬噸、鹽一五萬噸。

一九四六年より一九五〇年までのトウルクメン共和國の資本活動總額を一六億留に決定、その中には共和國所屬地域經濟の三億五九〇〇萬留を含む。

發電力三萬三〇〇〇キロワットの發電所を開設、その中には發電力八〇〇〇キロワットの蒸氣タービン發電所を含む。石油輸送管、カラ・タウ燐灰岩基地に於ける過磷酸鹽工場の操業確保。第二次的にアシハバド紡績工場、生産力五萬噸のセメント工場の建設及び操業確保。共和國所屬地域經濟に於ける總發電力一萬一七〇〇キロワットの發電所、出炭量五萬噸の炭坑、紡錘二萬二〇〇〇個の紡績工業、生産力四〇〇〇紡錘の紡績工場、生産量二二〇萬個の蔬菜工場の操業確保。一九五〇年度に於ける共和國所屬地域諸企業の工業製品の生産額を四億九〇〇〇萬留に決定、その中には地元國營工業及び産業組合の生産額一億二〇〇萬留を含む。

一九四六年より一九五〇年までの間に工業用に油井四九五、ガウルダクスキー硫黄産地の天然硫黄一三萬噸の準備及び増加、地蠟産地の試掘。

一九五〇年度に於けるトウルクメン共和國に於ける播種面積を四四萬三〇〇〇ヘクタールに決定、その中コルホーズに於けるそれは四〇萬九〇〇〇ヘクタール、穀類作物用播種面積一五萬八〇〇〇ヘクタール、コルホーズに於けるそれは一三萬八〇〇〇ヘクタール、加工用作物の播種面

積一六萬一〇〇〇ヘクタール、棉の播種面積一四萬五〇〇〇ヘクタール、蔬菜・瓜・馬鈴薯用播種面積二萬九〇〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは一萬八〇〇〇ヘクタール、飼料作物用播種面積九萬五〇〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは九萬二〇〇〇ヘクタール、ムルガブ及びテジェン兩河流域地方の灌漑工事を完成、灌水地一萬五〇〇〇ヘクタールの増加確保。二萬ヘクタールの灌漑地設定施策の實行。一九五〇年末に於ける家畜頭数を次の如く決定、即ち馬六萬四〇〇〇頭、その中コルホーズに於けるそれは五萬四〇〇〇頭、牛三〇萬五〇〇〇頭、その中コルホーズに於けるそれは一四萬五〇〇〇頭、羊及び山羊四三三萬頭、その中コルホーズに於けるそれは二九〇萬頭、カラクル羊の飼養を一層増加。

一九四六年より一九五〇年までのトゥルクメン共和國諸都市の國營住宅建設計畫を三一萬平方米に決定、その中には地元ソヴィエトの三萬二〇〇〇〇平方米を含む。水道を擴張、第一に運河工事及びアシハバドのトロリバスの運轉開始。

文化建設及び保健に關する主要課題を次の如く決定、即ち一九五〇年度に學校を一一〇二に、生徒数を二〇萬三〇〇〇名に、病人用寢臺を八〇〇〇に夫々増加。

エストニア共和國

エストニア共和國主要産業の生産計畫を次の如く決定、即ち電力三億九五〇〇萬キロワット時、頁岩八四一萬噸、泥炭三一萬九〇〇〇噸、紙三萬五〇〇〇噸、木材搬出二〇五萬立方米、セメント一六萬噸、窓硝子一四〇萬米、綿織物一四〇萬米、動物性油脂九〇〇〇噸、肉二萬噸、酒精六〇萬デカリットル、漁撈高二萬噸、一九四六年より一九五〇年までの間に於けるエストニア共和國の資本活動總額を三五億留と決定、その中に共和國所屬地域經濟の七億八〇〇萬留を含む。

燃料用頁岩の採掘と加工を極力發展、このために總生産力九四〇萬噸の在來の頁岩鑛山を復舊擴大。生産力二二萬噸の泥炭企業の操業確保、生産量五萬噸の泥炭煉炭工場の操業確保。

頁岩乾溜工場の復舊、頁岩瓦斯製造工場の建設、操業確保、これら工場より瓦斯をレンディングラードに送るための瓦斯輸送管の敷設、活動確保。電氣モーター、クレンゴリムスク及びバルト織物工場、農業機械工場、電話機工場の復舊。

總發電力九萬二〇〇〇キロワットの發電所の復舊、活動開始。年産量八萬噸のセメント工場を含む工業企業の復舊。冷凍工場、肉コンビナート、タリン市の牛乳加工コンビナート、牛酪・乾酪工場の復舊。

一九五〇年度に於ける共和國所屬地域諸企業の工業製品の生産額を四億五〇〇〇萬留と決定、その中には地元國營工業及び産業組合の生産額二億二二〇〇萬留を含む。

一九四八年度に於ける緋鱒の漁量を戦前に回復。バルト海沿岸に小網鱒詰工場を設置。

一九五〇年度のエストニア共和國に於ける播種面積を九八萬一〇〇〇ヘクタールと決定、その中穀類作物用播種面積は五八萬五〇〇〇ヘクタール、加工用作物の播種面積二五〇〇ヘクタール、蔬菜・瓜・馬鈴薯用播種面積一〇萬九〇〇〇ヘクタール、飼料用播種面積二六萬二〇〇〇ヘクタール、一九五〇年度に於ける家畜頭数を次の如く決定、即ち馬二一萬二〇〇〇頭、牛五六萬頭、羊及び山羊三六萬六〇〇〇頭、豚四〇萬頭。

占領軍によつて破壊された諸都市第一次的にタリン、タルトウ、ナルヴァ、ピャルヌの諸都市の住宅及び都市經營事業の復活活動を遂行。一九四六年より一九五〇年までの間に於けるエストニア共和國諸都市の國營住宅建設計畫を一一二萬五〇〇〇平方メートルに決定、その中に地元ソヴィエトの二四萬平方メートルを含む。

カレロ・フィン共和国

カレロ・フィン共和国の一九五〇年度に於ける主要産業の生産計畫を次の如く決定、即ち電力

三億二〇〇〇萬キロワット時、木材搬出一一〇〇萬立方米、挽材八八萬立方米、紙一四萬二〇〇〇噸、窓用硝子二七萬五〇〇〇平方メートル、セメント一萬噸、漁撈高一萬五〇〇〇噸。

一九四六年より一九五〇年までの間のカレロ・フィン共和国の資本活動總額を一六億留に決定、その中には共和國所屬地域經濟の四億一三〇〇萬留を含む。

發電力四萬五〇〇〇キロワットの水力發電所を含む八萬一〇〇〇キロワットの發電所の建設及び活動確保。パルプ・コンビナート、加水分解工場、亞硫酸鹽・酒精工場の復舊、操業確保。金屬冶金工場及び雲母鑛山の戦前水準への復舊、雲母工場の復舊。

共和國經濟發展の目的のために裁縫・履物工場、金屬加工工場、鐵滓再製工場、硝子工場、セメント工場の建設、操業の確保。石英及び鐵滓原料の再製企業、ベオマチト工場の復舊。一九五〇年度に於ける本共和國建設企業の工業生産額を二億六〇〇〇萬留と決定、その中に地元國營工業及び産業組合の生産額四二〇〇萬留を含む。

水路總延長二二七千のスターリン名稱運河とその全設備を復舊、その完全なる使用を確保。河川船舶の建造工場を建設。

鐵道を延長二〇〇千に亘り復舊。

一九五〇年度の播種面積を一三萬四〇〇〇ヘクタールに決定、コルホーズに於けるそれは一一

萬ヘクタール、穀類作物用播種面積六萬二五〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは五萬六〇〇〇ヘクタール、蔬菜・瓜・馬鈴薯の播種面積二萬九〇〇ヘクタール、その中コルホーズに於けるそれは一萬二〇〇〇ヘクタール、飼料用播種面積五萬九〇〇ヘクタール、その中コルホーズのそれは四萬二〇〇〇ヘクタール。新耕地獲得のため二萬ヘクタールの面積擴張を実施。一九五〇年度に於ける家畜頭数を次の如く決定、馬二萬二五〇〇頭、その中コルホーズに於けるそれは一萬三四〇〇頭、牛一〇萬一〇〇〇頭、その中コルホーズに於けるそれは五萬二〇〇〇頭、羊及び山羊七萬八〇〇〇頭、その中コルホーズに於けるそれは三萬頭。

占領軍に破壊されたる諸都市、第一次的にベトロザヴォドスク、メドヴェジエゴルスクの住宅及び都市經營事業の復活活動を實行。一九四六年より一九五〇年までのカレロ・芬共和國諸都市の國營住宅建設計畫を五五萬六〇〇〇平方米に決定、その中には地元ソヴィエトの八萬平方米を含む。

左の件をソ聯邦内閣に委任す。

(イ) 採擇されたるソ聯邦國民經濟復興及び發展五ヶ年計畫に基きソ聯邦の各省及び各廳の五ヶ年經濟計畫を檢討確認する件。

(ロ) ソ聯邦國民經濟復興及び發展五ヶ年計畫の遂行狀態の點檢を実施する件。

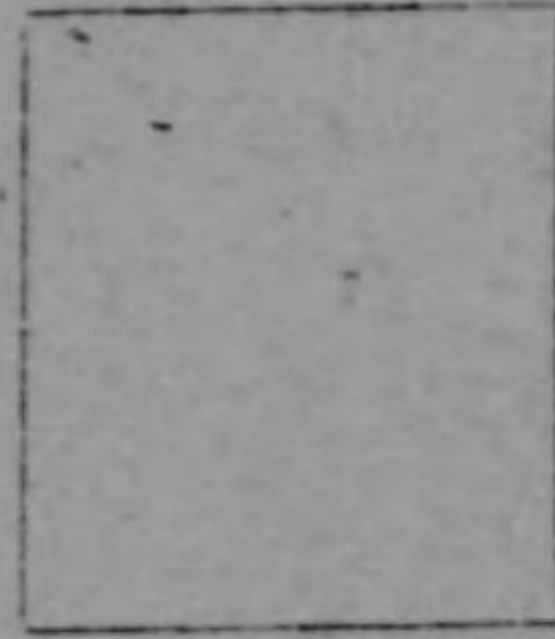
(ハ) ソ聯邦國民經濟復興及び發展五ヶ年計畫を遂行するのみならず、これを超過遂行するため社會主義競争を行ひ五ヶ年計畫實行の事業に労働者、農民及び知識人を廣く参加せしめる件。

一九四六年三月十八日 モスクワ 於クレムリン

ソ聯邦最高會議幹部會議長 エヌ・シヴェルニク

同 書 記 ア・ゴールキン

ソ聯新五年計の全貌



昭和廿一年六月十五日 初版印刷
昭和廿一年六月二十五日 初版發行

(一五、〇〇〇部)

定價 一〇〇〇 冊共
七・八〇 冊共
送料 一・五〇

ソヴェト文化協會編

東京都澁橋區下落合二丁目三六七番地

中山次郎藏

東京都澁橋區西落合一ノ一四二

笠井朝義

東京都神田區渡路町二丁目九番地

日本出版配給株式會社

配給元

印刷者

發行者

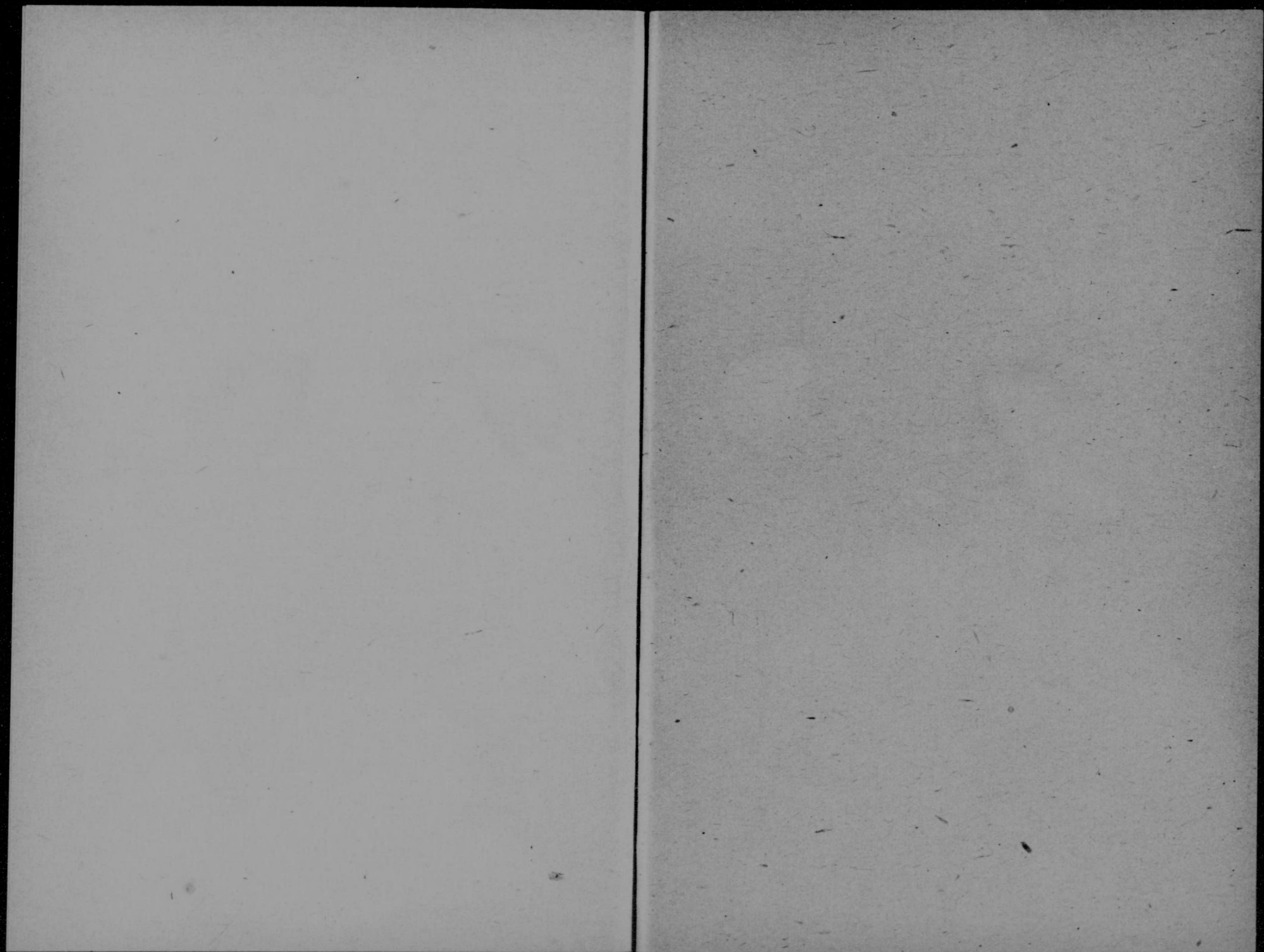
發行所

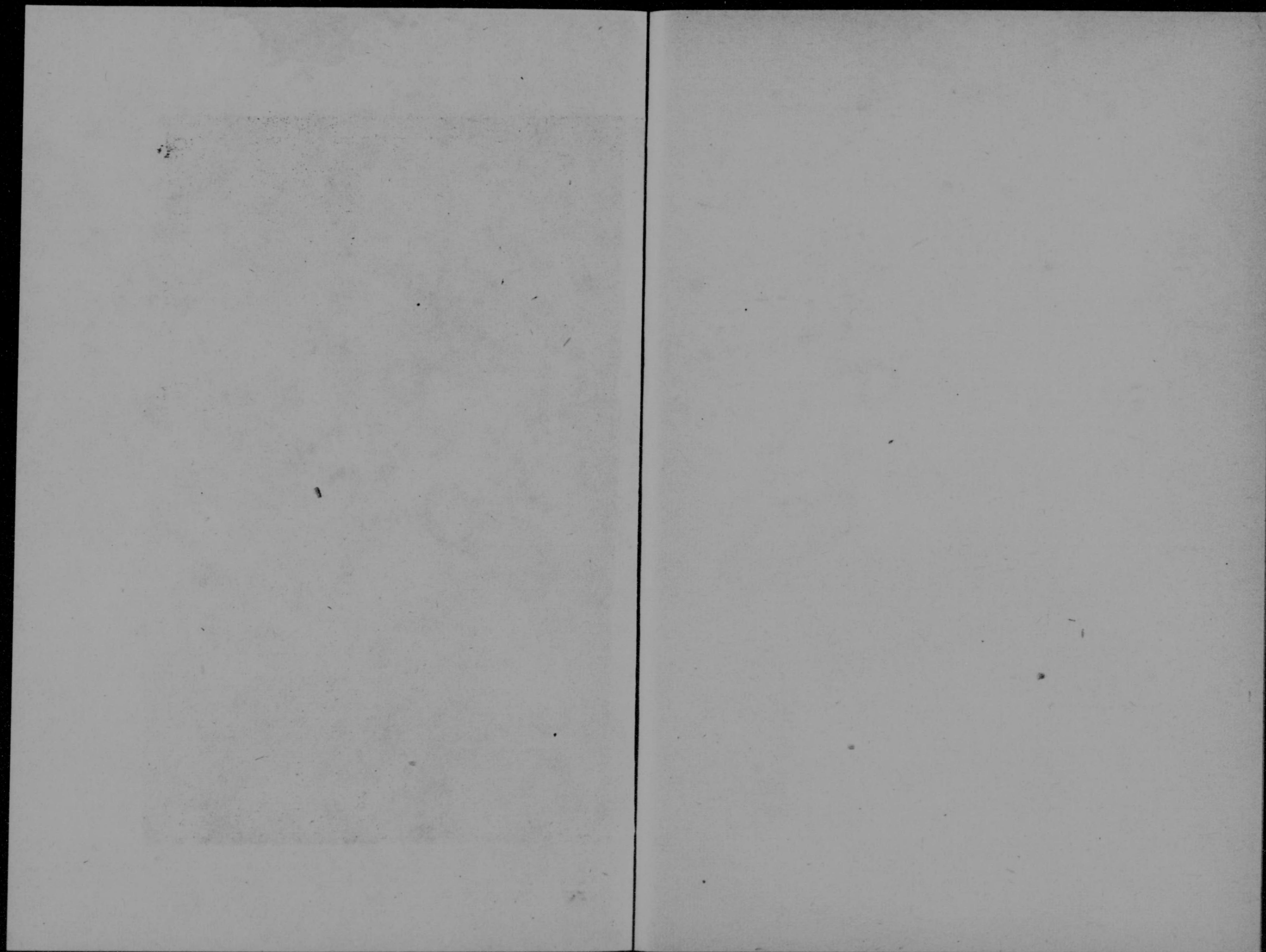
東京都澁橋區下落合
一丁目三六七番地
電話落合(95)二二〇一
振替東京一九四九六八番
會員番號 二一九〇一二番

社團
法人

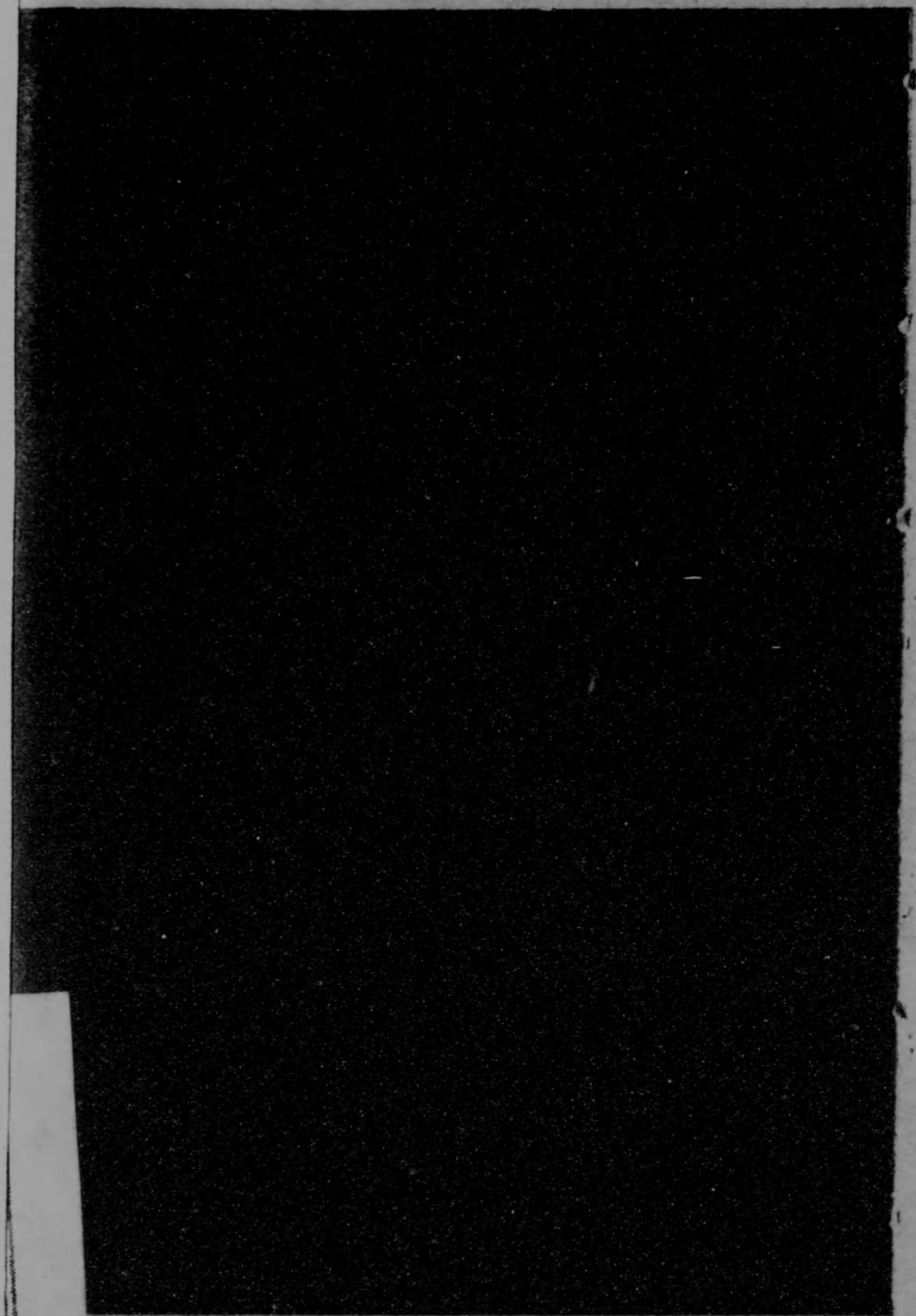
ソヴェト文化協會
京都市左京區吉田本町二七
ソヴェト文化協會京都支部

(笠井印刷澁橋工場印行)





7G-22



OP

